

理念

世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し、人々の幸せに貢献する

基本方針

1. 患者中心の安全、良質な全人的医療を提供する
2. 人間性豊かな医療人を育成する
3. 高度先進医療を開発、実践する
4. 社会に開かれた病院として、人々の信頼に応える
5. 力を合わせて患者さんと仲間たちを守る

Philosophy

Contribute to the well-being of people by providing the world's highest standard of total health care.

Basic Policy

1. Provide patient-centered, high-quality, holistic medical care.
2. Cultivate compassionate medical professionals.
3. Develop and practice high-quality medical care.
4. Be accessible to the community and responsive to patient needs.
5. Work together to protect our patients and colleagues.

医学と歯学そして理工学との融合でより高いレベルの医療を提供します

We will provide a higher level of medical care through the integration of medicine, dentistry, and science and engineering.

東京科学大学病院・病院長

藤井 靖久 (ふじい・やすひさ)



2023年4月より病院長を拝命いたしました。皆様のご支援に心より感謝申し上げます。このパンフレットでは、当院の医系・歯系の特色ある診療科や部門、センターなど、患者さんの健康を支える病院組織についてご紹介しております。

当院は、2021年10月に東京医科歯科大学医学部附属病院と歯学部附属病院が一体化し、東京医科歯科大学病院として新たな展開をスタートいたしました。医学と歯学の融合により、相乗効果を發揮し、「頭から足先まで」全身をトータルに診ることが可能となりました。また、新型コロナウイルス感染症への対応では、「力を合わせて患者さんと仲間たちを守る」というキャッチフレーズのもと、職員一丸となって困難な局面を乗り越えることができました。2023年10月にはC棟(機能強化棟)が本格稼働し、新時代の救急医療と高度先進医療を支える新たな拠点としての役割を担っております。

そして、2024年10月1日には東京工業大学との統合により、東京科学大学病院として新たな一歩を踏み出しました。東京科学大学のミッションである「『科学の進歩』と『人々の幸せ』を探求し、社会とともに新たな価値を創造する」を基盤に、当院も医学・歯学に加え、理工学との融合を通じて、これまで以上に高いレベルの医療を提供し、人々の健康と幸せに貢献してまいります。今後とも、皆様のご指導とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

Hospital Director, Institute of Science Tokyo Hospital

Fujii Yasuhisa

Since April 2023, I have had the honor of serving as the hospital director. I would like to express my heartfelt gratitude for your support. This brochure introduces the hospital's organization, highlighting our distinctive medical and dental departments, divisions, and centers that support patient health.

In October 2021, our hospital was established through the merger of the Tokyo Medical and Dental University Medical Hospital and the Dental Hospital, marking a new chapter as the Tokyo Medical and Dental University Hospital. The integration of medicine and dentistry has generated a powerful synergy, enabling us to provide comprehensive care from head to toe. In addition, in response to the COVID-19 pandemic, all staff members worked together to overcome the difficult situation under the catchphrase "Let's work together to protect patients and colleagues from COVID-19." Building C (the Functional Enhancement Building) began full operations in October 2023 and now serves as a new hub for supporting cutting-edge emergency and advanced medical care.

On October 1, 2024, following the merger with the Tokyo Institute of Technology, our hospital embarked on a new chapter as the Institute of Science Tokyo Hospital. Based on the mission of Science Tokyo - "Advancing science and human wellbeing to create value for and with society"-our hospital will provide an even higher level of medical care and contribute to the health and happiness of people by integrating medicine, dentistry, and science and engineering. We look forward to your continued support and collaboration.

～24時間365日社会に開かれた病院であるために～ 救急プライオリティーコール

【救急プライオリティーコール】

03-5803-4900 (至急応援)
シキュー・オーラン

当院では、救命救急センター医師を窓口とする「救急プライオリティーコール」を開設し、医療機関において緊急性に関して迷う患者さんがいた場合のご相談を受け付けています。24時間365日、救急専門医・専従医が対応し、適切な診療科での専門診療を行います。緊急手術等が必要な患者さんについても遠慮なくご相談ください。原則、医療機関からの問い合わせのみの受付となります。

Index

ごあいさつ 東京科学大学病院・病院長 藤井 靖久

3

Index	4
病院組織図	6
医系診療部門初診患者さんの事前予約・当院への転院依頼について	8
歯系診療部門初診の患者さんへ	9

医系診療科のご紹介

血液内科	11
膠原病・リウマチ内科	11
糖尿病・内分泌・代謝内科	12
腎臓内科	12
総合診療科	13
消化器内科	13
循環器内科	14
呼吸器内科	14
臨床腫瘍科	15
緩和ケア科	15
緩和ケア病棟	16
がんゲノム診療科	16
遺伝子診療科	17
感染症内科	17
食道外科	18
胃外科	18
大腸・肛門外科	19
乳腺外科	19
小児外科	20
末梢血管外科	20
肝胆脾外科	21
心臓血管外科	21
呼吸器外科	22
泌尿器科	22
頭頸部外科	23
救急科	23
病理診断科(病理部)	24
眼科	24
耳鼻咽喉科	25
皮膚科	25
形成・美容外科	26
再建形成外科	26
整形外科	27
リハビリテーション科	27
小児科	28
新生児集中治療室(NICU:Neonatal ICU)	28

周産・女性診療科	29
脳神経外科	29
脳神経内科	30
血管内治療科	30
精神科	31
心身医療科	31
麻酔・蘇生・ペインクリニック科	32
放射線治療科	32
放射線診断科	33
光学医療診療部	33
周産期母子医療センター	34
高気圧治療部	34

歯系診療科のご紹介

矯正歯科	36
小児歯科	36
障害者歯科外来	37
むし歯科	37
歯周病科	38
義歯科	38
スポーツ歯科外来	39
快眠歯科(いびき・無呼吸)外来	39
顎顔面補綴外来	40
言語治療外来	40
高齢者歯科外来	41
歯科アレルギー外来	41
顎関節症外来	42
口腔インプラント科	42
摂食嚥下リハビリテーション科	43
口腔外科	43
顎口腔変形疾患外来	44
歯科麻酔科	44
歯科ペインクリニック	45
歯科心身医療科	45
歯科放射線科	46
歯科総合診療科	46
息さわやか外来	47
クリーンルーム歯科外来	47
第1総合診療室	48
第2総合診療室	48
口腔健康管理科	49

難病診療部のご紹介

膠原病・リウマチ先端医療センター	51
潰瘍性大腸炎・クローアン病先端医療センター	51
神経難病先端医療センター	51
稀少疾患先端医療センター	51

がん先端治療部のご紹介

ブレストセンター	53
腎・膀胱・前立腺がんセンター	53
みみ・はな・くち・のどがんセンター	53

各部・センター等のご紹介

看護部	55
薬剤部	55
検査部	56
手術部	56
放射線部	57
リハビリテーション部	57
集中治療部	58
材料部	58
移植医療部	59
救命救急センター	59
血液浄化療法部	60
快眠センター	60
不整脈センター	61
MEセンター	61
臨床栄養部	62
長寿・健康人生推進センター	62
輸血・細胞治療センター	63
歯科技工部	63
歯科衛生保健部	64
先端歯科診療センター	64
オーラルヘルスセンター	65
リプロダクションセンター	65
緩和ケアチーム	66
小児緩和ケアチーム	66
栄養サポートチーム(NST)	67
医療情報部	67
医療連携支援センター	68
総合教育研修センター	68

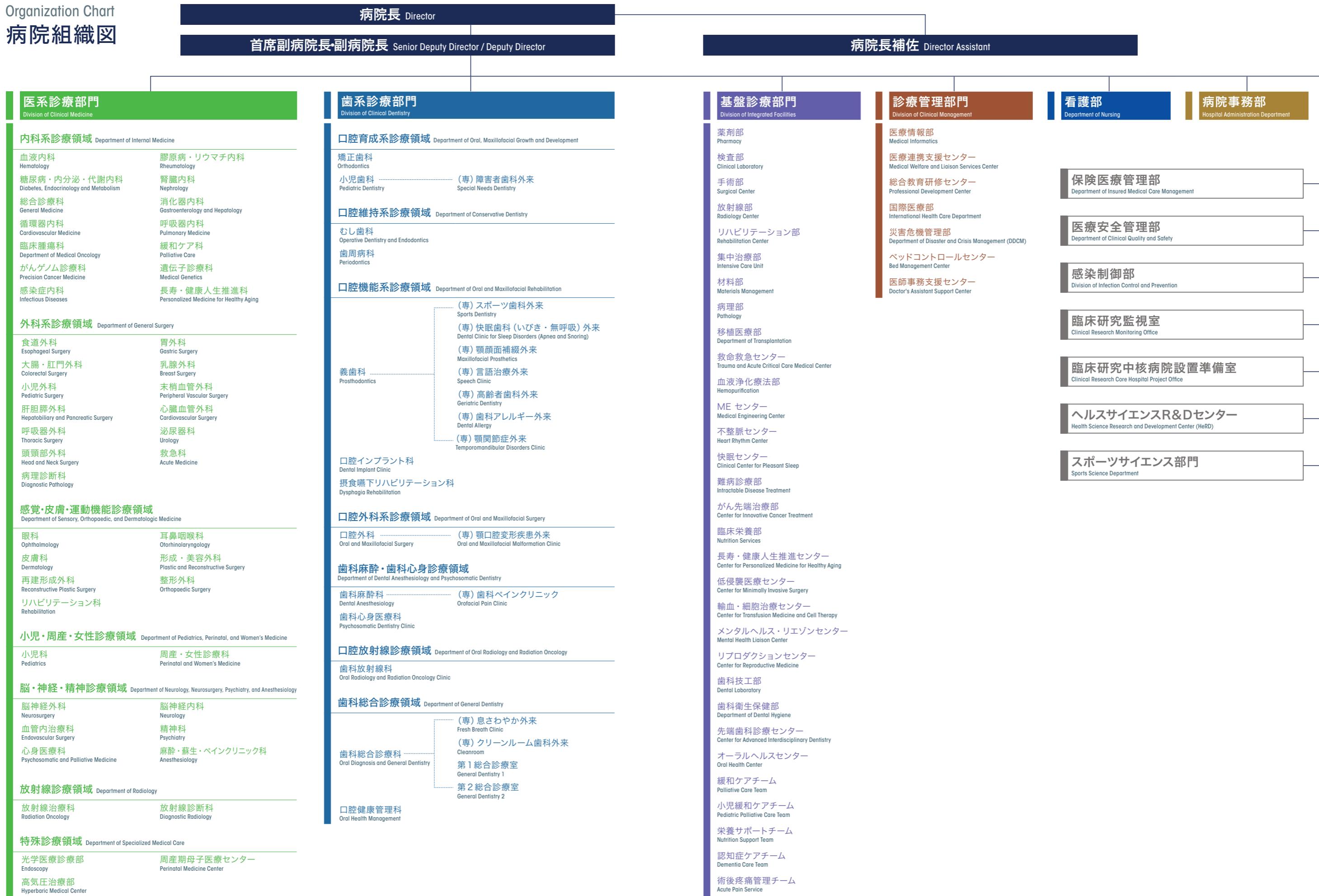
事務部

病院事務部	77
-------	----

病院データベース

診療科別患者数	78
診療科別患者数	79
患者数の推移	79
入院平均在院日数	79
救急患者数	80
地域別患者数	80
臨床検査件数	81
臨床検査件数の推移(外来)	81
病理検査件数	82
病理検査件数の推移(外来)	82
手術部実施手術件数	83
手術件数の推移	84
放射線検査治療件数	85
分娩件数の推移	86
処方枚数・件数・注射処方枚数	86
医療機関の指定状況等	87
建物配置図	88
所在地略図	90

Organization Chart 病院組織図





医系診療部門

初診の患者さんの事前予約・当院への転院依頼

※歯系診療部門の初診事前予約はP9をご覧ください。

医療機関の方へ

■ 医療機関からの初診予約

東京科学大学病院では、患者さんの診療までの待ち時間短縮を図るため、電話・FAXでの予約を行っています。

※受診当日の予約は受付けておりません。翌日分の予約受付は14:00までとなります。

当日至急受診が必要な場合は救急プライオリティーコール(03-5803-4900)をご利用ください。

【初診予約】TEL:03-5803-4655

FAX:03-5803-0285

受付時間：平日8:30～17:00(FAX受信は24時間可能)

■ ご入院中の患者さんからの転院依頼

医療機関ご担当者様より、下記の番号にお電話ください。

※患者さんご本人及びご家族からの直接のお問い合わせは承っておりません。

転院依頼TEL:03-5803-4506

受付時間：平日8:30～17:00

※申込書・診療情報提供書のフォーマットのダウンロード、予約や転院に関する詳細につきましては、医療連携支援センターのホームページをご覧ください。

<https://www.tmd.ac.jp/renkei/>



一般・個人の方へ

■ 患者さんからの初診予約

紹介状(診療情報提供書)をお手元にご用意いただき、下記の番号にお電話ください。

初診事前予約専用TEL:03-5803-4655

受付時間 11:00～16:00(土日祝日、年末年始12/29～1/3は除く)

※WEB予約についてはQRをご確認ください。



精神科・心身医療科の予約について

直接精神科にお問い合わせください。

精神科電話番号:03-5803-5673

受付時間 14:00～17:00(土日祝日、年末年始12/29～1/3は除く)

歯科系診療部門

初診の患者さんへ

■ 初診予約デスクでの予約

右記電話番号でご予約の上、ご来院ください。

(ご注意) やむをえず予約を取り消す場合は、必ず初診予約デスクまでご連絡をお願いいたします。

下記の番号にお電話ください。

03-5803-4300

受付時間 12:00～16:00

(土日祝日、年末年始12/29～1/3は除く)

TEL



■ インターネットによる初診予約

QR読み取り機能がある方はこちら

■ 初診の流れについて

①歯科診療申込書に必要事項を記入し、マイナ保険証(マイナンバーカードの健康保険証利用)または資格確認書、紹介状(お持ちの方のみ)とともに初診受付(⑩⑪番)窓口に提出してください。

②原則として初めて来院される患者さんにつきましては、「歯科総合診療科(1階)」において、来院理由に基づき、口の中の状態を診察し、各専門外来に紹介いたします。

※紹介状をお持ちの方および「矯正歯科」・「小児歯科」の治療の場合を除く。

③専門外来では、専門の歯科医師という立場から、再度、患者さんの来院理由、口の中の状態を確認し、必要な検査・治療を行います。

④各専門外来には、各分野の専門的な治療を希望される患者さんが全国から多数来院されます。そのため、初診で来院された場合は、担当医が決まり、治療が開始されるまで一定期間お待ちいただく場合があります。(詳細は各外来に直接お問い合わせください。応急処置を希望する方はあらかじめお申し出ください。)

⑤初診当日、専門外来で治療開始とならない場合でも、歯科総合診療科で診察を行った時点で初診料が発生し、お支払いいただいております。

⑥紹介状なく受診いただけることもございますが、初回受診時に診療時選定療養費として5,500円(消費税込)をお支払いいただきます。

表書きに以下の診療科名が記載されている場合は、直接診療科外来受付に^{※1}電話して予約をお取りください。

- | | | |
|-----------------|---------------------|-------------|
| •歯科アレルギー外来 | •歯科心身医療科 | •快眠歯科外来 |
| •摂食嚥下リハビリテーション科 | •息さわやか外来 | •顎関節症外来 |
| •顎口腔変形疾患外来 | •スポーツ歯科外来 | •歯科ペインクリニック |
| •セカンドオピニオン外来 | •口腔インプラント科 | •顎顔面補綴外来 |
| •言語治療外来 | •小児歯科 ^{※2} | •障害者歯科外来 |

※1 電話番号はHPをご覧ください。※2 小児歯科は中学生までを対象とします。

初診予約デスク

電話番号 03-5803-4300

予約時間 12:00～16:00 (平日)

お電話でご予約の上、ご来院ください。

障害者歯科外来希望 矯正歯科希望

該当 非該当

直接来院して初診受付窓口へ

8:00～10:30 (平日)

顎関節症外来希望 (過去に受診したことがある場合)

紹介状
あり
なし

該当
非該当



医系診療科 のご紹介

血液内科	11	頭頸部外科	23
膠原病・リウマチ内科	11	救急科	23
糖尿病・内分泌・代謝内科	12	病理診断科(病理部)	24
腎臓内科	12	眼科	24
総合診療科	13	耳鼻咽喉科	25
消化器内科	13	皮膚科	25
循環器内科	14	形成・美容外科	26
呼吸器内科	14	再建形成外科	26
臨床腫瘍科	15	整形外科	27
緩和ケア科	15	リハビリテーション科	27
緩和ケア病棟	16	小児科	28
がんゲノム診療科	16	新生児集中治療室(NICU:Neonatal ICU)	28
遺伝子診療科	17	周産・女性診療科	29
感染症内科	17	脳神経外科	29
食道外科	18	脳神経内科	30
胃外科	18	血管内治療科	30
大腸・肛門外科	19	精神科	31
乳腺外科	19	心身医療科	31
小児外科	20	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	32
末梢血管外科	20	放射線治療科	32
肝胆脾外科	21	放射線診断科	33
心臓血管外科	21	光学医療診療部	33
呼吸器外科	22	周産期母子医療センター	34
泌尿器科	22	高気圧治療部	34

血液内科

Hematology



Dial-in

● 03-5803-5670 (4階合同内科外来)

患者さんと十分なコミュニケーションを取りながら、適切な診断に基づく適切な治療を適切なタイミングで提供しております。

● 診療科の概要

当科では白血病などの造血器腫瘍、再生不良性貧血などの造血不全症、特発性血小板減少性紫斑病や凝固異常症といったあらゆる血液疾患の診療にあたっております。多くの血液内科専門医が所属しており、質の高い診療を行っています。造血幹細胞移植・CAR-T療法などの細胞療法の認定施設でもあり、必要な患者さんに適切なタイミングで実施しております。

● 取り扱う主な疾患

- ・造血器腫瘍(急性および慢性白血病、悪性リンパ腫、骨髄増殖性腫瘍、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群など)
- ・貧血あるいは造血不全症(再生不良性貧血、溶血性貧血、発作性夜間血色素尿症など)
- ・免疫性血小板減少症(特発性血小板減少性紫斑病)
- ・先天性および後天性凝固異常症

● 主な診断・治療法

診断のための血液検査による血液細胞の数や形態異常の評価、骨髄検査やリンパ節生検による病理学的検査、染色体検査、遺伝子検査、PET-CTなどの画像検査。治療法は抗がん剤、分子標的療法、造血幹細胞移植・CAR-T療法、免疫抑制療法、生物学的製剤など。



科長

森 賀彦 MORI Takehiko

専門医 ● 日本内科学会認定 総合内科専門医
日本血液学会認定 血液専門医・指導医
日本臨床腫瘍学会認定
がん薬物療法専門医・指導医
日本感染症学会認定 専門医・指導医
専門分野 ● 血液内科学
研究領域 ● 血液疾患の病態解明・新規治療法の開発、合併症軽減の試み

膠原病・リウマチ内科

Rheumatology



Dial-in

● 03-5803-4587 (3階合同内科外来)

関節リウマチをはじめ膠原病の早期診断や難治症例の治療に取り組んでいます。

● 診療科の概要

当科には多数の膠原病内科医、リウマチ専門医が在籍しています。東京近隣だけでなく、地方からも診断や治療が難しい患者さんの紹介を受け、診療にあたっています。また、膠原病・リウマチ先端治療センターを有しており、他科との綿密な協力体制によるトータルケアに取り組んでいます。

● 取り扱うおもな疾患

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群、多発性筋炎・皮膚筋炎、血管炎症候群、強皮症、混合性結合組織病、シェーグレン症候群、成人発症スティル病、自己炎症性疾患、原発性免疫不全症に続発する自己免疫疾患など。

● おもな診断・治療法

関節リウマチの早期診断とメトトレキサート・生物学的製剤・JAK阻害薬などを用いた早期治療。全身性エリテマトーデスの早期診断と免疫抑制薬・生物学的製剤による治療。多発性筋炎 / 皮膚筋炎・全身性強皮症・血管炎症候群などその他の膠原病に対する総合的治療。抗リン脂質抗体症候群・他の膠原病合併妊娠患者さん・妊娠希望患者さんの治療、自己炎症性疾患の診断・解析と治療。



科長

保田 晋助 YASUDA Shinsuke

専門医 ● 日本内科学会認定 総合内科専門医
日本リウマチ学会認定
リウマチ専門医・指導医
専門分野 ● 膠原病内科学
研究領域 ● 膠原病・リウマチの病態解明と新たな治療開発に向けた取り組み

糖尿病・内分泌・代謝内科

Diabetes, Endocrinology and Metabolism

科長
山田 哲也 YAMADA Tetsuya

専門医●日本内科学会認定 総合内科専門医
日本糖尿病学会認定 糖尿病専門医
専門分野●糖尿病
肥満症
内分泌・代謝疾患
高血圧症
研究領域●糖尿病などの代謝性疾患と内分泌疾患
の病態解明と新しい治療戦略の開発

Dial-in
● 03-5803-5670 (4階合同内科外来) ● 03-5803-5216 (教室)

「全身を診る」という医療の原点を心掛け
患者さんの身近に寄り添う優しい全人的医療を提供します。

● 診療科の概要

糖尿病や脂質異常症などの代謝性疾患、肥満症、難治性高血圧、ホルモン異常により多彩な症状を呈する視床下部・下垂体疾患、副腎疾患、脾・消化管ホルモン産生腫瘍などの難治性内分泌疾患を対象として、最新知識に基づいた論理的な診断と病態生理および生活環境を踏まえた全人的治療を実践しています。

● 取り扱うおもな疾患

糖尿病(1型、2型、二次性)、高血圧(本態性、二次性)、肥満症、視床下部・下垂体疾患、副腎疾患、甲状腺疾患、カルシウム代謝異常、脾ホルモン産生腫瘍、性腺機能異常

● おもな診断・治療法

合併症に対する集約的対応、薬物・インスリン療法、持続血糖測定(CGM)システム、持続皮下インスリン注入療法(CSII)などによる個別の病態に応じた糖尿病治療。各種内分泌検査および画像診断による内分泌疾患の正確な診断と治療など。

腎臓内科

Nephrology

科長
蘇原 映誠 SOHARA Eisei

専門医●日本内科学会認定 総合内科専門医
日本腎臓学会認定
腎臓専門医・指導医
日本透析医学会認定
透析専門医・指導医
専門分野●腎臓内科
透析医療
遺伝性腎疾患・腎臓難病
高血圧
研究領域●慢性腎臓病
遺伝性腎疾患・腎臓難病の
診断システムと病態解明
遺伝性疾患・腎臓難病に対する
先端的治療法の開発
腎生理学(水電解質代謝・高血圧など)
専門外来●透析合併症外来
腎臓難病・遺伝子外来

Dial-in
● 03-5803-5670 (4階合同内科外来) ● 03-5803-5214 (教室)

実績と伝統を兼ね備えた腎疾患診療を行います。

● 診療科の概要

蛋白尿・血尿から末期腎不全に至るまでの腎臓病全般の診断・治療を行っています。患者さんとコミュニケーションを充分にとり、一人一人の患者さんにとって最も適した治療を行っていくことを目指しております。

● 取り扱うおもな疾患

蛋白尿・血尿、ネフローゼ症候群をはじめとする糸球体腎炎や間質性腎炎、水・電解質代謝異常、急性腎障害(急性腎不全)、慢性腎臓病(慢性腎不全)、本態性高血圧・二次性高血圧、糖尿病性腎症、自己免疫性疾患による腎障害、多発性囊胞腎などの遺伝性腎疾患、そして血液透析や腹膜透析の様々な合併症についても加療を行っております。

● おもな診断・治療法

エコーや腎生検による診断、腎炎や自己免疫性腎疾患に対するステロイドや免疫抑制薬を用いた的確な治療、急性腎障害や慢性腎臓病に対する治療(慢性腎臓病に対する教育プログラムや「透析先延ばし入院」)によって腎臓病進展遅延・透析導入遅延の効果も挙げています)、そして急性血液浄化療法を含む血液浄化療法の導入・管理も行っています。また透析管理に必要な内シャント造設術・シャントPTA・腹膜透析カテーテル留置術についても腎臓内科で施行しています。慢性腎臓病に隠れている遺伝性腎疾患にも注目しており、約290に及ぶ腎臓病の原因遺伝子を一度の採血で包括的に検査できる当科独自の遺伝子診断技術により、多くの症例を診断してきた実績があります。

総合診療科

General Medicine

科長
橋本 正良 HASHIMOTO Masayoshi

Dial-in
● 03-5803-5670 (4階合同内科外来) ● 03-5803-5229 (教室)

年齢、性別、疾患にかかわらず様々な身体や心の問題に対して、患者さんとその家族中心の医療を提供します。
臓器別診療科、多職種、地域医療との連携を重視しています。

● 診療科の概要

2018年度より開始された日本専門医機構が認定する「新専門医制度」において、「総合診療専門医」が新設されました。診療はもちろんのこと、医学生や初期・後期先生方の教育や研究の場ともなります。患者さんのみならず、家族や地域も考慮し、日本の医療に必要な理想的な医療体系を模索しています。

● 取り扱うおもな疾患

- 未診断や診断困難で精査希望の症例(軽症例やスクリーニング検査のみ施行された症例でも構いません)
- 検査値異常や二次検査での追加精査希望の症例、画像検査なども含めた包括的な検査が必要な症例
- 内科的複数の疾患があり、どこに紹介すべきか迷う症例
- 発熱やその他の症状、各種検査値異常など、入院での精査をご希望の症例(軽微なものでも構いません)
- 内科系 Common disease での入院・転院加療をご希望の症例

● おもな診断・治療

診断に必要となる一般的な診断・検査を行います。より高度な検査が必要な場合は適切な専門診療科との連携で実施します。治療に関しては外来・入院にて内科急性期疾患、多疾患併存症例、感染症疾患や外科系専門科との連携による周術期管理なども行います。

専門医●日本内科学会 総合内科専門医・指導医
日本老年医学会認定 老年科専門医・
指導医・代議員
日本プライマリケア連合学会 指導医
日本病院総合診療医学会 認定医
日本医学教育学会 認定医学教育専門家
日本医師会 認定産業医
ECFMG certificate
Fellow of the American Academy
of Family Physicians
関連領域●総合診療医学・医学教育学

消化器内科

Gastroenterology and Hepatology

科長
岡本 隆一 OKAMOTO Ryuichi

Dial-in
● 03-5803-5670 (4階合同内科外来)

炎症性腸疾患、ウィルス性肝炎・肝がん、小腸内視鏡では日本でも有数の技術力を誇ります。

● 診療科の概要

専門性を必要とする高度先端医療を診療の場で実践するために、疾患別に責任者を置き、診療の先進性を高めるとともに、専門外来('潰瘍性大腸炎・クローン病')、「肝炎(B型肝炎、C型肝炎、非アルコール性脂肪肝炎)・肝がん」、「内視鏡治療」、「小腸疾患」を開設しております。患者さん一人一人に時間をかけて丁寧に診察し、患者さんのご希望を叶える適切な治療法を高度先端医療を含めて提供しております。

● 取り扱うおもな疾患

- 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)
- 肝炎(B型肝炎、C型肝炎、非アルコール性脂肪肝炎)・肝がん
- 早期胃がん・早期大腸がん
- 小腸疾患(小腸バーレーン内視鏡、カプセル内視鏡)

上記についてはそれぞれの専門外来にて、その分野に精通する経験ある医師が、患者さんに十分な説明を心掛け、患者さんのご希望を叶える適切な治療法の提供を心がけております。

● おもな診断・治療法

- 診断 内視鏡・画像診断を駆使した炎症性腸疾患診断
小腸内視鏡・MR enterocolonography(MREC)を用いたクローン病診断
小腸バーレーン内視鏡・カプセル内視鏡による小腸疾患診断
造影エコー・MRIを用いた肝がん診断
- 治療 生物製剤など最新の治療薬を用いた炎症性腸疾患治療
小腸バーレーン内視鏡によるクローン病小腸狭窄拡張術
総合画像支援による肝がんラジオ波焼灼療法
内視鏡的粘膜下層はく離術による早期胃がん・大腸がん治療

専門医●日本内科学会認定 総合内科専門医
日本消化器病学会認定
消化器病専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会認定
消化器内視鏡専門医・指導医
専門分野●炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)
肝炎(B型肝炎、C型肝炎、非アルコール性脂肪肝炎)
肝がん
特殊内視鏡(小腸バーレーン内視鏡、カプセル内視鏡)
研究領域●炎症性腸疾患の病態と粘膜免疫
腸管の再生医療
ウィルス性肝炎・肝纖維化・肝がん
専門外来●潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センター
肝炎・肝がん撲滅外来
胃・大腸内視鏡治療外来
小腸外来
胆嚢治療内視鏡外来

循環器内科

Cardiovascular Medicine

Dial-in 緊急症例に対しては循環器内科の救急当番が24時間体制で対応します。

平日●4階合同内科外来 03-5803-5670 ● 循環器内科 当番医直通 070-4078-0162

夜間休日●病院代表 03-3813-6111 から救急外来へお問い合わせ下さい。

不整脈・虚血性心疾患・重症心不全・弁膜症に対する診療を中心に、大動脈炎などの難病についても専門のチームを設け、「患者さんに満足いただける」診療を心がけています。

● 診療科の概要

不整脈診療については世界をリードする成果を上げており、24時間救急対応を含む虚血性心疾患診療、さらに大動脈炎などの難病に対しても専門のチームで先進的な診療を行っています。重症心不全、弁膜症などの構造的心疾患治療に関しては、ハートチームで診療にあたり、適切な治療を提供いたします。

● 取り扱うおもな疾患

不整脈（頻脈性不整脈・徐脈性不整脈）、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、心不全、後天性心臓弁膜症（大動脈弁狭窄症・僧帽弁閉鎖不全症）、心筋症（心サルコイドーシスなどの二次性心筋症を含む）、高安脈炎、先天性心疾患、肺高血圧症、高血圧症・血圧調節異常、腫瘍関連循環器疾患（抗がん剤関連心筋症・腫瘍関連血栓症）など。

● おもな診断・治療法

経皮的冠動脈インターベンション（ロータブレーラー・ダイヤモンドパック・エキシマレーザー・ショックウェーブ）、冠動脈内イメージング（OCT, IVUS）、アブレーション（高周波・クライオ・レーザー・パルスフィールド）、ペースメーカー（通常型・リードレス）、植え込み型除細動器（通常型・皮下植え込み型）、両心室ペーシング・刺激伝導系ペーシング、経カテーテル大動脈弁植え込み術、経皮的僧帽弁クリップ術、左心耳閉鎖デバイス、デバイス抜去、植え込み型ループレコーダー、心筋生検



科長
笹野 哲郎 SASANO Tetsuo



専門医●日本内科学会認定 総合内科専門医
日本循環器学会認定 循環器専門医
専門分野●不整脈
循環器一般
研究領域●不整脈の発症メカニズムの解明
AIを用いた不整脈疾患の発症予測
心疾患の遺伝子治療
生体モニタリング機器開発と遠隔診療
専門外来●不整脈外来
ペースメーカー外来
睡眠障害外来
がん循環器外来

呼吸器内科

Pulmonary Medicine

Dial-in

● 03-5803-4587 (3階合同内科外来)



科長
宮崎 泰成 MIYAZAKI Yasunari



● 診療科の概要

当科では、間質性肺炎、肺がん、喘息などの呼吸器疾患を主に診療しています。患者さんの悩みや苦しみを共有しながら最善の医療を提供することが我々の使命と考え、呼吸器疾患全般にわたり先進的な治療を行っています。また、快眠センター、アレルギー疾患先端治療センターを併設し睡眠時無呼吸症候群や難治性喘息の治療も行っています。

● おもな診断・治療法

間質性肺炎では、当科は全国でもトップレベルの診療実績があり、専門的な検査、治療を行っています。特に間質性肺炎の中でも生活環境中の抗原に対するアレルギーが原因で起きる過敏性肺炎（かびんせいはいえん）は、他の間質性肺炎と極めて区別が難しい病気ですが、当科では患者さんの生活環境について詳しく情報収集し評価しています。過敏性肺炎の原因となる抗原は、家のカビや羽毛ふとん、ダウソジャケットなど羽毛製品、加湿器などが代表的で、治療はアレルギーの原因を見つけて除去することが効果的です。

● 高度な先進技術

慢性の経過で起きる過敏性肺炎は、症状や検査所見が特発性間質性肺炎（とくはつせいかんしつせいいえん：間質性肺炎の中で原因不明のもの）に類似しており、正確な区別が困難とされています。当科では、診断のため抗原回避試験、気管支鏡検査、原因抗原に対するアレルギーを調べる免疫学的検査、吸入誘発試験、肺生検などを積極的に行い、これらの情報を元に放射線科・病理科のエキスパートによる合議診断により精度の高い診断・治療を心がけています。



臨床腫瘍科

Department of Medical Oncology



Dial-in

予約に関して● 03-5803-4655

がん診療における確かな情報を提供し、エビデンスに基づく最新の治療を実践します。

● 診療科の概要

臨床腫瘍科は4大がん治療のうち、薬物療法（化学療法）と免疫療法（免疫チェックポイント阻害剤）を担当します。がんの診断の時期、進行病期（ステージ）、進行状態などは患者さんごとに異なるため、外科手術や放射線治療の適応があれば、これらを組み合わせた集学的治療を提案するのも当科の役割です。そのため、患者さんごとに他科と連携して適切な治療方針を提供しています。薬物療法に関しては日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医（腫瘍内科医）を中心して治療方針決定から臨床実地まで行い、専門性の高い医療を提供しています。臨床腫瘍科はがんゲノム診療科と緩和ケア科と連携しています。がんの標準療法が効かなくなったりでも患者さんの状態が安定していれば、がんゲノム診療科で遺伝子パネル検査を行い、新薬・治験などの治療選択肢がないか模索する体制が整っています。一方、がんに伴う症状の緩和については緩和ケア科と医療連携支援センターのサポートのもと患者さん・ご家族のQOLを高められるように心がけています。

● 取り扱うおもな疾患

大腸がん（結腸がん、直腸がん、肛門管がん）／胃がん／頭頸部がん（口腔がん、唾液腺がん）／胆道・膵臓がん／希少がん（原発不明がん、軟部肉腫など）

● おもな診断・治療法

- ・大腸がんの術後補助化学療法
- ・進行・再発大腸がんに対する全身化学療法
- ・局所進行直腸がんに対する術前の集学的治療（化学放射線療法、化学放射線療法と全身化学療法を組み合わせるTotal Neoadjuvant Therapy (TNT)）
- ・切除可能な転移性大腸がんに対する集学的治療（術前化学療法、術後補助化学療法）
- ・切除困難な進行・再発大腸がんに対する全身化学療法とconversion surgery（外科切除）
- ・肛門扁平上皮がんに対する化学放射線療法
- ・進行・再発胃がんに対する全身化学療法
- ・頭頸部がんに対する免疫チェックポイント阻害剤、分子標的治療、集学的治療
- ・胆管がんに対する全身化学療法
- ・希少がんに対するがん遺伝子パネル検査、全身化学療法（がんゲノム診療科との連携）



科長
浜本 康夫 HAMAMOTO Yasuo

専門医●日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医・指導医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医
日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本消化器病学会 消化器専門医
専門分野●腫瘍内科
医療安全
臨床倫理
研究領域●消化器がん薬物療法
老年腫瘍学
免疫チェックポイント阻害剤に伴う腸炎

呼吸器内科

Pulmonary Medicine

Dial-in

● 03-5803-4587 (3階合同内科外来)

患者さんに寄り添いながら、呼吸器疾患の先進医療の提供に努めています。



科長
宮崎 泰成 MIYAZAKI Yasunari



● 診療科の概要

当科では、間質性肺炎、肺がん、喘息などの呼吸器疾患を主に診療しています。患者さんの悩みや苦しみを共有しながら最善の医療を提供することが我々の使命と考え、呼吸器疾患全般にわたり先進的な治療を行っています。また、快眠センター、アレルギー疾患先端治療センターを併設し睡眠時無呼吸症候群や難治性喘息の治療も行っています。

● おもな診断・治療法

間質性肺炎では、当科は全国でもトップレベルの診療実績があり、専門的な検査、治療を行っています。特に間質性肺炎の中でも生活環境中の抗原に対するアレルギーが原因で起きる過敏性肺炎（かびんせいはいえん）は、他の間質性肺炎と極めて区別が難しい病気ですが、当科では患者さんの生活環境について詳しく情報収集し評価しています。過敏性肺炎の原因となる抗原は、家のカビや羽毛ふとん、ダウソジャケットなど羽毛製品、加湿器などが代表的で、治療はアレルギーの原因を見つけて除去することが効果的です。

● 高度な先進技術

慢性の経過で起きる過敏性肺炎は、症状や検査所見が特発性間質性肺炎（とくはつせいかんしつせいいえん：間質性肺炎の中で原因不明のもの）に類似しており、正確な区別が困難とされています。当科では、診断のため抗原回避試験、気管支鏡検査、原因抗原に対するアレルギーを調べる免疫学的検査、吸入誘発試験、肺生検などを積極的に行い、これらの情報を元に放射線科・病理科のエキスパートによる合議診断により精度の高い診断・治療を心がけています。



緩和ケア科

Palliative Care



Dial-in

● 03-5803-4122

がん患者さんや非がん疾患の患者さんの全人的な苦痛（身体的・精神的・心理社会的苦痛）に向き合います。

● 診療科の概要

緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、緩和ケア外来それぞれの部門で包括的な診療体制を構築しています。緩和ケア病棟は2017年4月にB棟15階に開設され、現時点では院内で診断・治療を受けた患者さんを対象として診療しています。病棟や外来では他の診療科・部門と連携して診療を行っています。

● おもな診断・治療法

診療科の特徴として、他の診療科・部門との併診で診療を行っています。診断・治療については特別な手技や医療機器はありませんが、コミュニケーションを重視し、患者さん・ご家族も医療チームの一員と考えて診療を行っています。

● 取り扱うおもな疾患

緩和ケアチーム、緩和ケア外来では、様々な段階（抗がん治療中～治療終了後）の悪性疾患の患者さんをおもな対象としています。このほかにも、難治性疼痛を有する非がん疾患の患者さんや、心理社会的サポートを必要とする患者さんへの対応も行っています。患者さんのニーズと病態に応じた対応を心がけています。

緩和ケア病棟では、悪性腫瘍の患者さんがおもな対象となります。詳細は当院緩和ケア病棟のホームページをご参照ください。



科長
佐藤 信吾 SATO Shingo

専門分野●緩和医療・骨転移・骨軟部腫瘍
研究領域●緩和医療学
臨床腫瘍学・分子腫瘍学
骨転移・骨軟部腫瘍
骨代謝

緩和ケア病棟

Palliative Care Unit

Dial-in

● 03-5803-4122

がん患者さんが直面している心身の苦痛に対して治療やケアを提供し、自分らしい時間が過ごせるように、患者さん、ご家族を支えていきます。

● 病院の概要

2017年4月に、B棟15階に15床の個室からなる緩和ケア病棟を開設しました。全国の82大学病院のうち、本院は7番目、国立大学では東北大、島根大学に次いで3番目、東京都の13大学では初の開設になります。

緩和ケア病棟は、治癒が見込めないがん患者さんが直面する心身の苦痛（痛み、息苦しさ、食欲低下、吐き気、眠れない、体のだるさ、不安、悲しみなど）に対して治療やケアを行う専門の病棟です。自分らしい時間を過ごせるチームで治療・ケアを提供しています。

緩和ケア病棟では、がんそのものに対する治療である手術、抗がん剤治療、ホルモン治療などは行いません。医師、看護師、臨床心理士、理学療法士、作業療法士、薬剤師など様々な職種が協力して患者さん、ご家族を支えていきます。

● 診療体制について

緩和ケア病棟では、緩和ケア科医師、病棟看護師、臨床心理士、薬剤師をはじめ、他診療科の医師（各がん診療科、放射線治療科、麻酔・蘇生・ペインクリニック科、心身医療科、リハビリテーション部）、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科医師、歯科衛生士、ソーシャルワーカーなどと協働し、入院中の患者さん、ご家族のケアを行っています。

診療は、これまで主治医として診療してきたがん診療科と緩和ケア科とのダブル担当医制で運用しています。院内の多職種のメンバーを含めて診療科・部門横断的な医療・ケアを提供できる病棟を目指しています。



責任者
佐藤 信吾 SATO Shingo

専門分野●緩和医療、骨転移・骨軟部腫瘍
研究領域●緩和医療学
臨床腫瘍学・分子腫瘍学
骨転移・骨軟部腫瘍
骨代謝

がんゲノム診療科

Precision Cancer Medicine

Dial-in

● 03-5803-5670 (4階合同内科外来)

がんの性質を遺伝子レベルで調べ、遺伝子異常に基づいた治療を提供します。

● 診療科の概要

がんは、細胞の設計図と言われている遺伝子の異常が原因となっていることが多いです。がんゲノム診療科では、腫瘍に起きている遺伝子異常を調べ、それに基づいた治療を行う「がんゲノム医療」を行っています。

● おもな診断・治療法

がんの遺伝子解析を行い、がんの原因となっている遺伝子異常を調べます。検査は、2019年から保険収載されました。手術や生検の際に採取されたがん組織を調べる方法と、がん細胞から漏れ出し血液上に遊離しているDNAを調べるリキッドバイオプシーがあります。患者さんの状況に合わせて、適切な検査を提案致します。

遺伝子異常が見つかった後は、臨床試験なども含めて適切な治療法を検索し、個別化治療を行います。

● 対象となるおもな疾患

臓器に関わらず、固形がんと診断された患者さんが対象となります。



科長
池田 貞勝 IKEDA Sadakatsu

専門医●アメリカ一般内科専門医
アメリカ腫瘍内科専門医
アメリカ血液内科専門医
専門分野●腫瘍内科
がんゲノム医療
研究領域●プレジションメディシン

遺伝子診療科

Medical Genetics



Dial-in

● 03-5803-5670 (4階合同内科外来)

遺伝子に関する疾患についてのご相談に専門スタッフが対応します。

● 診療科の概要

遺伝についての疑問や不安におこなえています。臨床遺伝専門医および認定遺伝カウンセラーを中心としたスタッフが遺伝カウンセリングを通して、遺伝子検査の結果開示や遺伝に関する情報提供と支援を行っています。
※なお、親子鑑定は実施しておりません。

● 取り扱うおもな疾患

下記に記載するような遺伝性疾患・染色体異常

● おもな診断・治療法

現在、当科で実施している遺伝子検査や主な対象疾患は以下です。

- 出生前検査 (NIPT、クアトロ検査、羊水検査)【産科と共に】
- 多遺伝子パネル検査
- 遺伝性腫瘍
 - ・遺伝性乳がん卵巣がん (Hereditary Breast and Ovarian Cancer, HBOC)
 - ・Lynch症候群
 - ・多発性内分泌腫瘍症1型 (MEN1)、2型 (MEN2) など
- 遺伝性不整脈 (先天性QT延長症候群、Brugada症候群など)、心筋症【循環器内科と共に】
- 家族性高コレステロール血症
- 遺伝性結合組織疾患 (マルファン症候群、エーラス・ダンロス症候群)、家族性大動脈瘤
- 遺伝性難聴【耳鼻咽喉科と共に】
- 稀少疾患難病外来を開設



科長
吉田 雅幸 YOSHIDA Masayuki

専門医●日本人類遺伝学会認定 臨床遺伝専門医
日本循環器学会認定 循環器専門医
日本老年医学会認定 老年病専門医
日本内科学会認定 総合内科専門医
専門分野●循環器学
遺伝学
老年病学
研究領域●分子遺伝学・血管生物学
専門外来●遺伝カウンセリング外来

食道外科

Esophageal Surgery

Dial-in

● 03-5803-5675 (2階合同外科外来)

<https://www.tmdsurgery.com>

食道癌に対する診療、進行度診断からあらゆる治療を当科で一貫して行っています。



科長
藤原 尚志 FUJIWARA Hisashi

● 診療科の概要

食道外科では、主に食道癌などの食道疾患全ての診断と治療を一貫して行っています。外科手術は可能な限り低侵襲手術・機能温存手術を行っています。低侵襲手術において、当科のようにロボット支援手術を含めた胸腔鏡手術と縦隔鏡手術の双方を根治手術に取り入れている施設はいまだ少数ですが、当科では双方を適切に使い分けています。

薬物治療、放射線治療も他科と連携して集学的治療を実現しています。

また頸部食道癌に対しては、集学的治療を要する病態であっても可能な限り喉頭温存手術を適用しています。

内視鏡診断、内視鏡治療も積極的に取り組んで食道癌治療の低侵襲化に努めており、また頭頸部外科や口腔外科と協力して早期の咽喉頭・口腔領域癌（頭頸部表在癌）の診断・治療にも取り組んでいます。

● 取り扱うおもな疾患

頸部食道癌、胸部食道癌、食道胃接合部癌、その他の食道腫瘍、頭頸部表在癌（早期の咽喉頭・口腔内癌）、逆流性食道炎（食道裂孔ヘルニア）、食道アカラシアなど。

● おもな診断・治療法

ロボット支援胸腔鏡食道亜全摘術、ロボット支援縦隔鏡食道亜全摘術、喉頭温存・頸部食道切除術、ロボット支援下部食道切除・回結腸置換再建術、食道内視鏡治療（EMR、ESD、APC）、頭頸部表在癌に対するELPS、薬物療法など。

胃外科

Gastric Surgery

Dial-in

● 03-5803-5675 (2階合同外科外来)

<https://www.tmdsurgery.com>

病気の進行度に合わせて、常にベストな治療を行います。



科長
徳永 正則 TOKUNAGA Masanori

● 診療科の概要

胃外科は、胃の病気全てと、胃切除後の胆石症や鼠径ヘルニアなど、一般外科疾患の診断と治療を行う診療科です。特に胃癌の腹腔鏡下手術は、日本有数の経験を有しています。

● 取り扱うおもな疾患

胃癌、胃GIST、鼠径ヘルニア・腹壁瘢痕ヘルニアなどの腹壁ヘルニアに対する外科治療。

● おもな診断・治療法

胃癌に対する胃切除術（開腹、腹腔鏡下、ロボット支援下）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、化学療法（抗がん剤治療）。胃GISTに対する手術（LECS（腹腔鏡・内視鏡合同手術）含む）、化学療法（抗がん剤治療）。腹壁ヘルニアに対するヘルニア修復術（開腹、腹腔鏡下、ロボット支援下）。

大腸・肛門外科

Colorectal Surgery



科長
綱笠 祐介 KINUGASA Yusuke

Dial-in

● 03-5803-5675 (2階合同外科外来)

<https://www.tmdsurgery.com>

大腸がんに対するロボット手術をはじめ、先進的で優れた成績の大腸がん治療を実践しています。

● 診療科の概要

大腸がんを中心に、大腸ポリープや炎症性腸疾患、痔核・痔ろうなどの大腸・肛門疾患の外科治療を行っています。また、痛みが軽く、回復の早い低侵襲手術を積極的に行い、大腸がんに対するロボット手術を国内最多の実績を持つ指導医を中心に行ってています（2018年4月からはロボット支援直腸がん手術が、2022年4月からは、結腸がんに対するロボット支援手術が保険収載され、健康保険でロボット手術を行っています）。進行した大腸がんに対しても、臨床腫瘍科と協力して、専門のスタッフががんの進行度やそれぞれの患者さんの病状に応じて、手術、化学療法（抗がん剤治療）、放射線治療を組み合わせた先進的な治療を行っています。

● 取り扱うおもな疾患

- 大腸がん（結腸がん、直腸がん）
- 大腸ポリープ・再発大腸がん、大腸がんの肝転移、肺転移（手術、抗がん剤治療）
- 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）
- 家族性大腸腺腫症
- 肛門疾患（痔核、痔ろうなど）



● おもな診断・治療法

診断法：大腸内視鏡検査、注腸造影検査、CT、MRI、PET検査など

治療法：
 - 大腸がんおよび再発がんに対するロボット支援手術
 - 直腸がんに対する肛門温存手術、自律神経温存手術
 - 濃瘍性大腸炎に対するロボット支援手術、炎症性腸疾患に対する低侵襲手術
 - 大腸良性疾患に対する低侵襲手術
 - 肛門疾患に対する手術治療（痔核根治術、痔ろう根治術など）

専門 医●日本外科学会認定 外科専門医・指導医
 日本消化器外科学会認定
 消化器外科専門医・指導医
 日本大腸肛門病学会認定
 大腸肛門病専門医・指導医
 日本内視鏡外科学会認定
 技術認定医
 日本がん治療認定医機構認定
 がん治療認定医
 日本ロボット外科学会認定
 Robo-Doc Pilot 國際A級
 専門分野●大腸がんの手術治療
 大腸がんに対する腹腔鏡手術
 直腸がんに対するロボット手術
 再発がんや骨盤腫瘍に対する手術治療
 研究領域●大腸がんの診断と治療／直腸がんの機能温存手術／再発大腸がんに対する集学的治療戦略／大腸がんの個別化治療、予後予測因子／大腸がんに対する低侵襲手術・ロボット手術
 専門外来●ストーマ外来

乳腺外科

Breast Surgery



科長
有賀 智之 ARUGA Tomoyuki

Dial-in

● 03-5803-5675

精度の高い診断と最新の乳癌治療を提供しています。

● 診療科の概要

早期乳癌の場合は、乳房温存療法、センチネルリンパ節生検、腋窩リンパ節郭清の省略など Quality of Life を重視した治療を積極的に行ってています。さらに大きさや場所などから乳房温存が難しいという場合も、形成外科と連携し、乳癌手術と再建を同時に実施する同時再建に早くから取り組み、高い実績を上げてきています。遺伝性乳癌や乳癌に対する癌ゲノム医療にも積極的に取り組んでいます。

● 取り扱うおもな疾患

乳癌、再発乳癌、遺伝性乳癌、葉状腫瘍など。

● おもな診断・治療法

診断・検査法：マンモグラフィ、乳腺超音波検査、乳房 MRI、PET-CT、（吸引式）針生検、穿刺吸引細胞診、遺伝学的検査、癌ゲノムパネル検査

治療法：乳房温存術（乳輪乳頭温存）、乳房切除術、同時乳房再建術（形成外科と連携）、センチネルリンパ節生検、腋窩リンパ節郭清術、化学療法、内分泌療法、放射線療法など。

専門 医●日本外科学会 外科専門医・指導医
 日本乳癌学会 乳癌専門医・指導医
 日本遺伝性腫瘍学会
 遺伝性腫瘍専門医・指導医
 検診マンモグラフィ読影認定医（AS）・
 乳がん検診超音波判定医（A）
 日本がん治療認定医機構
 がん治療認定医
 日本がん・生殖医療学会認定がん・
 生殖医療ナビゲーター
 日本オンコプラスティックセンター
 学会施設責任医師
 専門分野●乳癌の手術・ラジオ波焼灼治療・薬物治療・ゲノム医療、遺伝性乳癌診療
 研究領域●乳癌の診断・手術・低侵襲治療・薬物療法・ゲノム医療・遺伝性乳癌診療

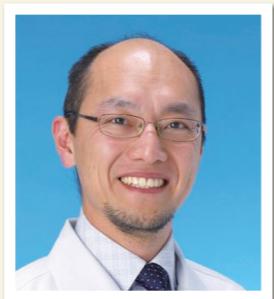
小児外科

Pediatric Surgery

Dial-in

● 03-5803-5674

新生児・小児の外科疾患に対し、
患児それぞれに適した安全な手術治療を行います。



科長

岡本 健太郎 OKAMOTO Kentaro

専門医 ● 日本小児外科学会認定 小児外科専門医
 日本外科学会認定 外科専門医
 日本小児血液・がん学会
 小児がん認定外科医
 日本周産期・新生児医学会 認定外科医
専門分野 ● テクノロジーと医療の連携
 低侵襲手術
 小児先天異常
研究領域 ● 工連携、安全な新規低侵襲手術の開発
 上肢の血管走行の解析

● 診療科の概要

小児外科が関わる病気は、生まれたばかりの新生児における先天性疾患、急性虫垂炎などの急性疾患、または習慣性便秘などの内科的疾患まで多岐にわたります。同じ病名がついてもお子さんやご家族の視点に立って適切な治療を選択しつつ、専門医として責任を持って、手術をはじめとした治療を行います。手術の際には整容性に十分配慮し、腹腔鏡手術をはじめ低侵襲治療を心がけています。小児での手術数が多い鼠径ヘルニアや停留精巣、臍ヘルニア（でべそ）は日帰り手術を行っています。小児科・新生児科と、外来のブース・入院の病棟を共にし、綿密でスムーズな連携を持ちながら包括的な治療を行います。

● 取り扱うおもな疾患

鼠径ヘルニア（脱腸、陰囊水腫）、停留精巣（移動性精巣）、臍ヘルニア（でべそ）、便秘、乳児痔瘻（肛門周囲膿瘍）、包茎、副耳、皮下腫瘍、急性虫垂炎、メックル憩室、尿膜管遺残症、耳前瘻孔、卵巣囊腫、リンパ管腫、胃食道逆流症、胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、特発性血小板減少症（脾摘目的）、消化管の先天異常（奇形）、小児悪性固形腫瘍（肝芽腫、神経芽腫、腎芽腫など）、先天性食道閉鎖症、鎖肛などの新生児疾患全般

● おもな診断・治療法

診断法：超音波検査、上部消化管・注腸造影検査、上部・下部消化管内視鏡検査、24時間pHモニター、CT、MRI

治療法：（外科的疾患）経膀胱の腹腔鏡下手術から従来の開腹手術まで、各々の疾患や患児に応じて適切な手術方法を選択します。どの手術法においても創を膣や皮膚の皺（しわ）の中に隠すなど整容性に充分配慮した治療を行います。

（内科的疾患）慢性便秘などの内科的消化管疾患においては、漢方を併用した適切な治療を行います。

末梢血管外科

Peripheral Vascular Surgery



科長

工藤 敏文 KUDO Toshifumi



● 03-5803-5677

様々な血管の病気に関して
安全で低侵襲の治療法を工夫し患者さんと一緒に進みます。

● 診療科の概要

動脈硬化症が原因となる足の病気、下肢血行障害が増加しています。腹部や四肢の動脈瘤・下肢静脈瘤は、超音波・CTなどで的確に診断できます。そして、いろいろな血行再建術を通じて人生がよみがえります。歩けるようになると、いろいろなことが再びできるようになります。安全でより侵襲の少ない治療法を工夫しながら、患者さんと一緒に進みます。

● 取り扱うおもな疾患

胸部・腹部大動脈瘤、頸動脈疾患、腹部内臓動脈疾患、下肢動脈閉塞症、下肢静脈瘤、内シャント不全、内シャント造設術

● おもな診断・治療法

バスキュラーラボを1995年より開設しており、脳と心臓以外のすべての動脈、静脈に対する検査ができます。特に動脈硬化の診断は、痛みを伴わない検査法だけで可能です。2~3種類の無侵襲検査を受けていただくことで、現在の状態を正確に評価でき、さらに今後の治療について検討することができます。

大動脈瘤は、マルチスライスCTで正確な形状を評価することができ、ステントグラフトの適応を的確に判断するとともに、より適切な種類のステントグラフトを選択した上で血管内治療に繋げています。

肝胆膵外科

Hepatobiliary and Pancreatic Surgery



Dial-in

● 03-5803-5675 (2階合同外科外来)

質の高い低侵襲手術と、困難な状況でも諦めず根治を目指す高難度手術を提供します。

● 診療科の概要

当科は、肝臓、胆臓、胆道に関連する疾患に対して、外科治療を中心に、薬物療法や放射線治療を含めた総合的なアプローチを行う診療科です。肝胆膵領域のがんは難治性のことが多くありますが、手術だけでなく、術前の薬物療法や放射線治療、さらに最新のゲノム診療を駆使し、適切な治療を提供します。特に進行したがんに対しても、根治を目指し、さまざまな治療手段を積極的に取り入れて治療にあたります。

また、低侵襲手術（ロボット手術・腹腔鏡手術）の分野では、国内でもいち早く導入し、数多くの実績を誇っています。これからも、患者さんへの負担を軽減する治療を推進し続けます。

● 取り扱うおもな疾患

膀胱がん（膀胱がん、神経内分泌腫瘍、IPMNなど）、肝臓がん（原発性、転移性）、胆管がん（肝外、肝門部）、胆のうがん、十二指腸がん、脾臓疾患、胆石症、胆管結石、膀胱胆管合流異常症、正中弓状靭帯症候群など、様々な疾患に対応しています。

● おもな診断・治療法

膀胱十二指腸切除（開腹、腹腔鏡下、ロボット支援下）、膀胱尾部切除（開腹、腹腔鏡下、ロボット支援下）、肝切除（開腹、腹腔鏡下、ロボット支援下）、胆道や血行再建を伴う肝切除、胆道拡張症手術（ロボット支援予定）、胆管結石・胆石症手術（開腹、腹腔鏡下）、正中弓状靭帯切開術（腹腔鏡下）など、幅広い手術を行っています。また、肝胆膵がんに対する薬物療法や、膀胱神経内分泌腫瘍に対するPRRTも積極的に行っています。



科長

伴 大輔 BAN Daisuke

専門医 ● 外科学会専門医・指導医
 消化器外科学会専門医・指導医
 肝胆膵外科学会高度技能専門医
 日本内視鏡外科学会技術認定
 消化器・一般外科領域
 日本脾臓学会指導医
 ロボット脾切除フロクター
 ロボット肝切除フロクター
専門分野 ● 肝切除
 膜切除
 胆道がん切除
 低侵襲肝胆膵手術
 （ロボット手術、腹腔鏡手術）

心臓血管外科

Cardiovascular Surgery



Dial-in

● 外来 03-5803-5677

● 夜間・休日緊急連絡先 03-5803-2231 (内線81228)

新たな体制で低侵襲手術から高難度手術まで
質の高い専門医療を提供します。

● 診療科の概要

ロボット心臓手術、低侵襲心臓手術（MICS）、経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）、オーフォンプ冠動脈バイパス手術など、「体にやさしい手術」を目指しています。私が受けたい手術、私の家族に受けさせたい手術をモットーに、先進的な手術を提供しています。弁膜症に対しては自分の弁を温存する形成術をロボットで行なうことを基本としており、特に僧帽弁形成術では1000例以上の経験に基づき長持ちする形成術を心がけています。心房細動に対してはMICSでメイズ手術や左心耳閉鎖術も行っています。一般的に大手術となる大動脈解離手術でも救命することと術後のQOL回復を目指してハイブリッド手術を取り入れています。当院の特徴でもある重症心不全治療については、補助人工心臓（LVAD）治療や再生医療を行い患者さんのQOLを取り戻します。

● 取り扱うおもな疾患

狭心症、心筋梗塞、あらゆる弁膜症、大動脈解離、大動脈瘤（胸部・腹部とも）、心筋疾患（重症心不全）、不整脈、先天性心疾患（小児期から成人まで）

● おもな診断・治療法

ロボット手術、MICS、TAVI、弁形成術、弁置換術、オーフォンプ冠動脈バイパス手術、大動脈人工血管置換術、ステントグラフト、ハイブリッド手術、LVAD、再生医療、先天性心疾患手術、成人先天性心疾患手術



科長

藤田 知之 FUJITA Tomoyuki

専門医 ● 心臓血管外科専門医修練指導者
 日本外科学会指導医
 心臓血管外科専門医
 植込型補助人工心臓実施医
 日本移植学会移植認定医
 日本組織移植学会認定医
 日本ロボット外科学会A級ライセンス
専門分野 ● 冠動脈バイパス術
 弁膜症手術
 胸部大動脈手術
 补助人工心臓手術

呼吸器外科

Thoracic Surgery

Dial-in

● 03-5803-5677

肺癌を中心とする胸部悪性腫瘍の治療において、質の高い専門医療を多くの患者さんに提供します。



● 診療科の概要

呼吸器外科は呼吸器系臓器すなわち肺・縦隔・胸壁・横隔膜の外科治療・外科的診断を取り扱う専門診療科です。早期肺癌や気胸など良性疾患に対して胸腔鏡下の低侵襲手術を行い、早期退院・早期社会復帰を提供します。局所進行肺癌や難治性の胸部悪性腫瘍に対して、拡大手術・集学的治療を行い、生命予後・QOLの向上を提供します。

● 取り扱うおもな疾患

肺癌：肺癌、転移性肺腫瘍、炎症性肺疾患、気腫性肺疾患（気胸）

縦隔疾患：縦隔腫瘍、重症筋無力症、リンパ疾患

胸膜・胸壁疾患：悪性胸膜中皮腫、胸壁腫瘍、膿胸

● ものな診断・治療法

外科的診断：胸腔鏡検査（肺、胸膜）、縦隔鏡検査

外科治療：胸腔鏡下肺切除術、胸腔鏡下（ロボット支援を含む）縦隔腫瘍摘出術、ロボット支援下肺癌手術、周囲臓器合併切除、気管支形成・肺動脈形成、胸壁手術、膿胸手術、胸膜肺全摘術、壁側臓側胸膜全摘除術

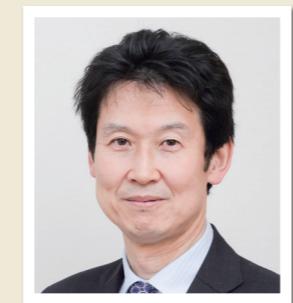
泌尿器科

Urology

Dial-in

● 03-5803-5680

最小の傷と痛み、最大限の機能温存と早期退院を図り、先進的な優れた診療を提供します。



● 診療科の概要

先進的な治療を行うとともに、患者さんと社会に貢献する新治療法の開発・実践に努め、国内外への普及を進めています。具体的には、世界の標準的低侵襲手術であるロボット支援手術（ダビンチ手術）を施行するとともに、泌尿器がんのミニマム創内視鏡下手術、浸潤性膀胱がんの膀胱温存、腎がんの無阻血・無縫合腎部分切除、前立腺がんの部分治療など、オリジナルな治療法の開発と洗練を進めています。あらゆるニーズに応える医療を提供します。

● 取り扱うおもな疾患

前立腺がん、腎がん、膀胱がん、腎孟・尿管がん、副腎腫瘍、精巣がん、後腹膜腫瘍、前立腺肥大症、神経因性膀胱、尿路結石、尿路感染、尿失禁、骨盤臓器脱

● ものな診断・治療法

前立腺がん：ロボット支援前立腺全摘除、ミニマム創内視鏡下前立腺全摘除、MRI-超音波融合ガイド下前立腺生検、全機能温存部分小線源治療

腎がん：ロボット支援腎部分切除、ミニマム創内視鏡下無阻血腎部分切除、ロボット支援腎摘除

膀胱がん：筋層浸潤性膀胱がんに対する四者併用膀胱温存療法（経尿道の膀胱腫瘍切除+放射線療法+化学療法+ミニマム創内視鏡下膀胱部分切除）、ロボット支援膀胱全摘除、ミニマム創内視鏡下膀胱全摘除、光力学診断（PDD）を用いた経尿道の膀胱腫瘍切除術、経尿道的膀胱腫瘍レーザーAブレークション

骨盤臓器脱・尿失禁：ロボット支援仙骨窪固定術、TVM手術、人工尿道括約筋手術、TVT/TOT手術

腎孟・尿管がん：ロボット支援腎尿管全摘除、ミニマム創内視鏡下腎尿管全摘除

副腎腫瘍：ロボット支援副腎摘除、ミニマム創内視鏡下副腎摘除

前立腺肥大症：ツリウムレーザー前立腺蒸散術、経尿道的前立腺吊り上げ術

尿路結石症：経尿道的結石破碎術

手術支援ロボット
ダビンチ Xi

頭頸部外科

Head and Neck Surgery



Dial-in

● 03-5803-5682 (耳鼻咽喉科、頭頸部外科外来)

耳鼻咽喉科、脳神経外科、形成・美容外科、放射線科などと協力し、一人一人の患者さんの希望に沿うような治療をすることを心掛けています。

● 診療科の概要

頭頸部外科は、耳鼻咽喉科のみならず、放射線診断科、放射線治療科、形成・美容外科、脳神経外科、食道外科、血管内治療科など多くの診療科と横断的な診療体制をとっています。

● 取り扱うおもな疾患

口腔癌（舌癌など）、咽頭癌（上咽頭癌、中咽頭癌、下咽頭癌）、喉頭癌、鼻副鼻腔癌（上頸洞癌など）、耳下腺腫瘍、顎下腺腫瘍、甲状腺・副甲状腺腫瘍、聴器癌、頭蓋底腫瘍、副咽頭隙腫瘍、頸動脈小体腫瘍など頭頸部の良性・悪性腫瘍を扱っています。

● ものな診断・治療法

おもな診断法：NBIなどの特殊内視鏡検査、超音波検査、CT、MRI、PET/CT、細胞診、組織診など。

おもな治療法：頭頸部進行癌に対する拡大手術、化学放射線治療、超選択動注療法。咽頭頭表在癌に対する内視鏡手術。頭蓋底腫瘍に対する頭蓋底手術など。

科長
朝蔭 孝宏 ASAKAGE Takahiro

専門医：日本耳鼻咽喉科学会認定
耳鼻咽喉科専門医
日本気管食道科学会認定
気管食道科専門医
日本頭頸部外科学会認定
頭頸部がん専門医
癌治療学会認定
癌治療認定医
専門分野：頭頸部外科
研究領域：低侵襲治療
機能温存治療
頭部郭清術
頭蓋底悪性腫瘍

救急科

Acute Medicine



Dial-in

● 03-5803-5102

全ての救急患者さんに、24時間適切な救急医療を提供します。

● 診療科の概要

救急車で来院した2次救急・3次救急の患者さんの初期診療を行い、外来での初期診療から緊急手術や入院後の集中治療も担当します。その他、リハビリテーションや転院までのマネジメントなど、初期診療から退院まで一貫して救急科が診療を行います。また外傷、急性腹症、中毒、脳卒中、急性冠症候群の急性疾患の緊急転院を積極的に受け入れてあります。年間8000-9000台の救急車を受け入れており、都内随一のアクティビティを誇ります。



● ものな診断・治療法

- 重症外傷に対する救命治療および集学的治療
- 重症急性疾患に対する救命治療および集学的治療
- 院外心肺停止・重症急性中毒に対する救命治療および集学的治療
- ドクターカーによる救急現場での高度な救命医療の提供

● 診療チーム

ほとんどの救急科スタッフが救急科専門医に加えて、外科専門医、外傷専門医、集中治療専門医、麻酔標榜医、放射線科専門医などのサブスペシャリストを所有しており、緊急手術を含む、より質の高い救急診療を提供しております。その他救急科専属の救急救命士を採用し、24時間365日体制で診療にあたっています。

科長
森下 幸治 MORISHITA Koji

専門医：日本救急医学会認定 救急科専門医
日本外科学会認定 外科専門医
日本集中治療学会 認定集中治療専門医
日本外傷学会 外傷専門医
専門診療：救急医学
外傷外科学
Acute Care Surgery
集中治療医学
災害医学
研究領域：重症胸腹部外傷、多発外傷、集中治療に関する臨床研究
災害医療に関する疫学研究

病理診断科(病理部)

Diagnostic Pathology (Pathology)

Dial-in

● 03-5803-5661

顕微鏡観察に最新の解析技術を導入し、
正確で客観的な病理診断に努めています。

● 診療科の概要

スタッフ

教授2、准教授1(専任1)、講師1、助教9(専任5)、特任助教1、後期研修医(大学院生)6、臨床検査技師13 その内、日本病理学会認定 病理専門医13、日本臨床細胞学会認定 細胞診専門医7、細胞検査士10

カンファレンス

剖検例カンファレンス50回/年 他に乳腺、皮膚、婦人科、脳外科、呼吸器外科、腎生検、造血器腫瘍、肝生検、肝胆膵、びまん性肺疾患のカンファレンスを定期的に開催しています。

● おもな診断・治療法

診断件数(2024年度)

組織診断15,906件、細胞診断8,327件、術中迅速診断785件、病理解剖16件



科長
大橋 健一 OHASHI Kenichi

専門医●日本病理学会認定 病理専門医
日本臨床細胞学会認定 細胞診専門医
専門分野●人体病理学
研究領域●消化管癌の病理診断
腎生検診断
アミロイドーシス

耳鼻咽喉科

Otorhinolaryngology



Dial-in

● 03-5803-5682 (耳鼻咽喉科、頭頸部外科外来)

耳・鼻・咽喉頭領域の高度先進医療を行い、
特に難聴・めまいに関して革新的な専門的診療を実施します。

● 診療科の概要

耳鼻咽喉科領域の耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭に関わる疾病に最新の医療で対応しています。外来での診療と入院・手術治療は、原則として同じ医療チームの医療者が担当します。外来での診療は頭頸部外科と連携して行っており、午前中はすべての疾患を対象とする一般診療、午後は専門外来として、アレルギー・副鼻腔外來、めまい外來、中耳炎外來、嚥下外來、難聴・耳鳴り・補聴器外來、顔面神経外來が開設され、それぞれの疾患の専門的診療を行っています。

● 取り扱うおもな疾患

聴覚障害、耳鳴り、めまい・平衡障害、耳のがん(外耳道がんなど)を含む側頭骨・中頭蓋底腫瘍、真珠腫性中耳炎、慢性中耳炎、耳硬化症、花粉症を含むアレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、扁桃の病巣感染、声帯ポリープ、甲状腺疾患、唾液腺疾患、嚥下障害、睡眠時無呼吸症候群

● おもな診断・治療法

4K内視鏡と4K3D外視鏡を導入した低侵襲の中耳炎手術、めまいに対する保存的ならびに手術的治療、耳のがん(外耳道がんなど)に対する手術を含む集学的治療、側頭骨や後頭蓋窩へ進展した頭蓋底腫瘍の脳神経外科と共同での手術加療、難聴遺伝子解析、突発性難聴に高気圧酸素治療、耳鳴にTRT療法、良性発作性頭位めまい症に頭位治療、高度感音難聴に対する人工内耳植込術、通常の気導補聴器で補聴効果が得られない症例には骨固定型補聴器や人工中耳、4K内視鏡を用いた低侵襲の内視鏡下副鼻腔手術、アレルギー性鼻炎にレーザー治療、睡眠時無呼吸症候群に対する快眠センターと連携した治療、嚥下障害に対する内視鏡・造影検査と保存的ならびに手術的治療、新生児・小児の気道手術と管理、嚥声に対する音声外科手術



科長
堤 剛 TSUTSUMI Takeshi

専門医●日本耳鼻咽喉科学会認定
耳鼻咽喉科専門医
専門分野●耳鼻咽喉科学
研究領域●めまい平衡医学
外耳道がん
耳科手術・鼻科内視鏡手術
人工内耳
専門外来●アレルギー外来
嚥下外来
顔面神経外來
言語発達外來
中耳炎外來
頭頸部腫瘍外來
難聴外來
補聴器外來
耳鳴り外來
めまい外來
副鼻腔外來
音声外來

眼科

Ophthalmology



科長
大野 京子 OHNO-MATSUI Kyoko

専門医●日本眼科学会認定 眼科専門医
専門分野●網膜・視神經疾患
強度近視
研究領域●眼内血管新生メカニズム解明
実験近視研究
強膜再生
専門外来●強度近視外来
小兒近視外来
黄斑外来
斜視弱視外来
神経眼科外来
糖尿病網膜症外来
白内障・屈折外来
ぶどう膜外来
網膜外来
緑内障外来

● 03-5803-5681

様々な眼科疾患に対し最新の検査法を用いて
精密な診断を行い、的確な治療で対処します。

● 診療科の概要

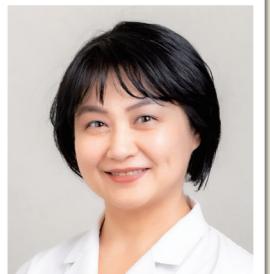
先端的な検査法を用いて、視機能および分子生物学的検査によって精密な診断を行い、的確な治療で対処しています。主に強度近視、ぶどう膜炎、視神経疾患、白内障、緑内障、網膜剥離、糖尿病網膜症などの疾患を対象としています。

● 取り扱うおもな疾患

網膜硝子体疾患、強度近視、ぶどう膜炎、視神経疾患、白内障、緑内障、網膜剥離、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性

● おもな診断・治療法

強度近視の脈絡膜新生血管に対する抗VEGF療法、強度近視の黄斑分離症・黄斑円孔網膜剥離に対する硝子体手術、高侵襲OCTを用いた強度近視の網膜・視神経の3次元的画像診断、感染性ぶどう膜炎の網羅的迅速診断PCRシステム、ベーチェット病のインフリキシマブ治療、眼内リンパ腫を対象としたメトトレキサート硝子体内注射療法、非感染性ぶどう膜炎に対するアダリムマブ治療



科長
沖山 奈緒子 OKIYAMA Naoko

専門医●日本皮膚科学会認定
皮膚科専門医・指導医
日本アレルギー学会認定
アレルギー専門医・指導医
日本リウマチ学会認定
リウマチ専門医
日本臨床免疫学会認定
免疫療法認定医
専門分野●自己免疫疾患・膠原病
アレルギー疾患
研究領域●皮膚免疫学
リウマチ学
アレルギー学
専門外来●アレルギー外来(アレルギー疾患先端)
乾癬外来
膠原病外来
腫瘍外来
下腿潰瘍外来
白斑外来
発汗異常外来

皮膚科

Dermatology



Dial-in

● 03-5803-5679

皮膚は全身の窓です。
皮膚症状を中心とした疾患から、全身疾患の皮膚症状まで、
精密な検査で早期診断に結び付け、病態に合った治療を行っています。

● 診療科の概要

皮膚科診療は視診から始まり、病理検査や血液検査、画像検査を組み合わせて、的確な診断にたどり着きます。時系列を含めて、からだ全体の変化を把握して、早期診断し、早期治療につなげています。また、アトピー性皮膚炎やアレルギー、膠原病、乾癬、水疱症、腫瘍、発汗異常、循環障害などの専門外来を設けて、最新の外来診療を行える体制を整え、検査・治療で必要な場合には積極的に入院診療を行っています。

● 取り扱うおもな疾患

アトピー性皮膚炎、乾癬、接触皮膚炎、痒疹、蕁麻疹、食物アレルギー、膠原病(皮膚筋炎、全身性強皮症、全身性または皮膚ループスエリテマトーデス)、血管炎、水疱症、円形脱毛症、乾癬、掌蹠膿疱症、皮膚がん、皮膚良性腫瘍、皮膚リンパ腫、尋常性白斑、皮膚・皮下組織感染症、化膿性汗腺炎、下腿潰瘍、指趾壞疽

● おもな診断・治療法

一般的な血液検査やレントゲン・CT・MRI検査に加え、皮膚科独自の検査として、皮膚病理検査(皮膚生検)、ダーモスコピー、真菌検査、超音波検査、皮膚アレルギー検査(ブリックテスト、パッチテスト)、負荷誘発試験、発汗ヨードデンプン法といった方法を使い、疾患の原因究明をしていきます。膠原病や血管炎、水疱症に加え、乾癬や掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎、痒疹、蕁麻疹、円形脱毛症、化膿性汗腺炎といった疾患でも、生物学的製剤を含む全身療法が登場してきました。当科は特定機能病院の皮膚科として、こういった治療法に積極的に取り組んでいます。また、NB-UVBやエキシマランプといった光線療法も、乾癬、アトピー性皮膚炎、痒疹、尋常性白斑といった疾患に使用します。がん治療としては、手術に加え、がん免疫療法を取り組んでいます。

形成・美容外科

Plastic and Reconstructive Surgery

Dial-in

● 03-5803-5924

先天性、後天性のさまざまな形態異常、機能障害に対し、「創造する外科」で美しく治します。



科長
森 弘樹 MORI Hiroki

専門医●日本形成外科学会認定
形成外科専門医
再建・マイクロサージャリー分野指導医
小児形成外科分野指導医
皮膚腫瘍外科分野指導医
日本頭頸顔面外科学会専門医
専門分野●乳房再建
顎顔面外科
マイクロサージャリー
皮膚悪性腫瘍
研究領域●末梢神経再生／脂肪移植
専門外来●乳房再建外来
唇顎口蓋裂外来
手の外科外来
リンパ浮腫外来
耳介変形外来
顔面神経麻痺外来
足壊疽・骨髓炎外来

診療科の概要

先天性、後天性のさまざまな形態異常・機能障害に対し、整容面を配慮した治療を行っています。具体的には顔面・手足・体幹などの外傷・先天異常の再建、乳がんなど、がん切除後の形態・機能の再建、眼瞼下垂などの形成術を行います。また創傷治癒の専門家として、治りにくい創傷の治療や傷跡・瘢痕の管理・修正術も行います。

取り扱うおもな疾患

乳がんや四肢などのがん切除後の形態・機能の再建、唇裂・小耳症・顔面骨骨折を含む顎顔面・眼瞼下垂などの眼形成、切断指・褥瘡・足壊疽などの急性・慢性創傷、腹壁瘢痕ヘルニア、リンパ浮腫などを扱います。

おもな診断・治療法

マイクロサージャリーを用いた自家遊離組織移植術、微小血管・神経吻合術、顔面骨・手指骨に対する骨切り・骨延長、幹細胞付加脂肪注入、血管奇形に対する硬化療法、あざやシミに対するレーザー治療(Q-switch-Ruby、V-beam)、CT、MRI、ICG造影法などの画像検査

再建形成外科

Reconstructive Plastic Surgery

Dial-in

● 03-5803-5924

他院では対応できない治療困難症例に対しても、安全で質の高い再建手術を提供することができます。



科長
田中 顕太郎 TANAKA Kentaro

専門医●日本形成外科学会 形成外科専門医・領域指導医
皮膚腫瘍外科分野指導医
再建・マイクロサージャリー分野指導医
日本創傷外科学会 専門医
専門分野●頭頸部再建・頭蓋底再建
マイクロサージャリーを用いた各種再建手術
皮膚悪性腫瘍
難治性潰瘍
研究領域●生体組織移植

診療科の概要

東京の中心に立地し医系・歯系診療部門から成る当院は、頭頸部領域の診療のスペシャリストたる責務を社会から期待されていると考えます。当科はマイクロサージャリー（顎微鏡下微細手術）による血管や神経の縫合技術を駆使する再建手術を日常的に行う高い技術を持つ形成外科専門医で構成され、頭頸部頭蓋底再建を中心とする再建手術を行います。

取り扱うおもな疾患

定型的な切除症例に対する標準的な各種再建手術を行うだけでなく、標準的治療が確立されていない困難症例、全国的に見ても当院でしか行われていない手術症例に対して、安全で質の高い再建手術を提供し続けています。また腫瘍切除と同時に進行する二次再建手術にも積極的に取り組んでいます。さらに高い再建手術手技を生かして、頭頸部領域のみならず身体各部位の治療困難症例の再建手術にも進んで対応しています。

おもな診断・治療法

頭頸部頭蓋底腫瘍切除後の組織欠損に対する再建手術
再建手術後に残存する顔貌の変形や顔面神経麻痺に対する二次再建手術
皮膚悪性腫瘍の手術的治療
難治性潰瘍に対する集学的治療

整形外科

Orthopaedic Surgery



Dial-in

● 03-5803-5678

難治性の運動器疾患やスポーツ障害に対し、早期の社会復帰と安全性の高い医療を提供します。



科長
吉井 俊貴 YOSHII Toshitaka

専門医●日本整形外科学会認定
整形外科専門医
専門分野●脊椎・脊髄病
研究領域●脊椎・脊髄病
靭帯骨化症
人工骨
専門外来●脊椎外来
神経難病外来
骨転移外来
膝関節外来
足部・足関節外来
股関節外来
上肢外来
腫瘍外来
リハビリテーション外来
小児整形外来

診療科の概要

脊椎・脊髄・膝足・スポーツ、股関節、肩関節、手外科、骨軟部腫瘍、外傷、小児整形などの専門班による診療を行っており、整形外科全般にわたって先進的な医療を提供しています。特に、脊髄機能モニタリングを利用した安全性の高い頸椎・脊髄腫瘍・側弯症手術、半月板機能修復や再生、膝周囲骨切り術を併用した膝関節機能再建が特徴です。人工膝・股関節手術も多く、両側同時置換でも1ヶ月以内の退院が可能です。

取り扱うおもな疾患

脊柱牽引骨化症、脊柱管狭窄症、脊柱変形、椎間板ヘルニア、変形性膝関節症、膝靭帯損傷、半月板損傷、足部足関節変形疾患・障害、変形性股関節症、手根管症候群、手指の外傷及び変形・炎症性疾患、絞扼性末梢神経障害、肩腱板断裂、骨・軟部腫瘍、転移性骨腫瘍、四肢・骨盤骨折、脊椎骨折、小児先天性・発育性疾患など。

おもな診断・治療法

診断法：脊髄機能モニタリング、脊髄磁界測定、腰背筋筋電図、全身骨量測定器(DXA)、手術室内CT
治療法：肩・肘・手関節・膝・股・足関節内視鏡手術、ロボット支援下人工膝・股関節置換術、膝関節周囲骨切り術、骨軟部腫瘍患肢温存手術、頸椎前方手術、脊柱変形矯正固定術



科長
酒井 朋子 SAKAI Tomoko

専門医●日本リハビリテーション医学会認定
リハビリテーション指導医
日本整形外科学会認定
整形外科専門医・リウマチ専門医
専門分野●運動器疾患のリハビリテーション
股関節外科
小児リハビリテーション
研究領域●脳性麻痺
重症心身障害児(者)

リハビリテーション科

Rehabilitation



Dial-in

● 03-5803-5648

リハビリテーション治療が必要なすべての患者さんに対して、超急性期から疾患に適した治療を開始し、疾患の最良化を目指します。

診療科の概要

入院中の様々な診療科の患者さんのリハビリテーション治療を総合的に行ってています。手術後・発症後可能な限り早期にリハビリテーションを開始し、離床のむずかしい患者さんには病室から介入を行うことで、無動による二次的な障害を予防しながら患者さんの機能回復をサポートしています。現在では救命救急病棟や集中治療病棟でも超早期より安全で意義のある早期離床を行っています。さまざまな最新医療について、アウトカムを高めるため、疾患に必要なリハビリテーション治療を提供するとともに、ボツリヌス療法や拡散型衝撃波治療(rSWT)などの痙攣治療、義肢装具とともに装具、義足作製等を行っています。

取り扱うおもな疾患

ICU、ER入院の早期離床、骨関節疾患、脳血管障害、神経筋疾患、呼吸・循環器疾患、アレルギー・リウマチ膠原病関連疾患、小児疾患、老年疾患など。

おもな診断・治療法

超音波検査、心肺運動負荷試験、電気刺激装置(EMS)を使用した筋電気刺激療法、ボツリヌス療法、拡散型衝撃波治療を用いた痙攣外来、装具外来など。

小児科

Pediatrics

Dial-in

● 03-5803-5674

お子さんたちを成長・発育の面から総合的に支援します。
あたかく良質な医療を提供します。
先端医療を提供します。



科長
高木 正稔 TAKAGI Masatoshi

専門医 ● 日本小児科学会 小児科専門医・指導医
 日本血液学会 血液専門医・指導医
 日本小児血液・がん学会
 小児血液・がん専門医・指導医
 日本人類遺伝学会
 日本遺伝カウンセリング学会
 臨床遺伝専門医・指導医
 日本遺伝性腫瘍学会
 遺伝性腫瘍専門医・指導医
 日本がん治療認定医機構
 がん治療認定医
 日本造血細胞移植学会
 造血細胞移植認定医
 専門分野 ● 小児血液腫瘍
 先天性免疫異常症
 毛細血管拡張性運動失調症
 研究領域 ● 血液腫瘍発症の遺伝的背景
 免疫異常症と腫瘍化
 希少難病

● 診療科の概要
小児科全般の疾患に対応すると共に、血液・腫瘍・免疫・感染症、膠原病、循環器、神経、内分泌・代謝、新生児、腎臓、アレルギーなどの専門領域において先端的な診療を取り組んでいます。お子さんたちを成長・発育の面からも総合的に支援しつつ、成人になってからの生活にも思いを馳せ、お子さんに寄り添った診療を提供しています。また様々な外科系診療科と連携した診療を提供します。

● 取り扱うおもな疾患
白血病、リンパ腫、固体腫瘍、先天性免疫異常症、貧血、出血性疾患、難治性感染症、膠原病・リウマチ性疾患、肺高血圧症、先天性心疾患、不整脈、難治性てんかん、神経変性疾患、性分化疾患、先天性副腎過形成、糖尿病、低身長、早産児、病の新生児、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、食物アレルギー

● おもな診断・治療法
先天性免疫異常症、血液・腫瘍性疾患の診断と先端治療、細胞療法、造血細胞移植、膠原病・リウマチ性疾患の診断と分子標的薬などを用いた治療、肺高血圧症の診断と標的薬を用いた治療、先天性心疾患に対する周術期管理、難治性てんかんに対する包括的治療、脊髄性筋萎縮症の遺伝子治療、内分泌疾患の診断と治療、早産児管理、腎疾患の診断と治療、血液浄化療法、食物負荷試験

新生児集中治療室 (NICU:Neonatal ICU)

Neonatal Intensive Care Unit

Dial-in

● 03-5803-5396

早産児や病的新生児、合併症をもつ母体より出生した児の受け入れを通して、地域の周産期医療に貢献します。



室長
杉江 学 SUGIE Manabu

専門医 ● 日本小児科学会認定
 小児科専門医・指導医
 日本周産期・新生児医学会認定
 新生児専門医・指導医
 専門分野 ● 新生児医学全般
 研究領域 ● 新生児再生医療（間葉系幹細胞を用いた脳室周囲白質軟化症の治療法開発）

● 室の概要
NICUは、早産児や先天性の病気をもって生まれた赤ちゃん、呼吸障害や出生時仮死などで出生後すぐに具合が悪くなった赤ちゃんの集中治療を行う治療室です。当院NICUは、病床数は6床で小児科病棟内にあります。状態が改善し、集中治療の必要がなくなった児は、6床ある後方病床のGCUで退院までのgrowing careを行います。

● 取り扱うおもな疾患
在胎27週以上、出生体重800g以上の早産児および低出生体重児、新生児呼吸障害、出生時仮死などの病的新生児を対象としています。また生後間もなくのお子さん達の心臓手術や小児外科手術も行っています。

● おもな診断・治療法
診 斷：超音波診断装置や気管支鏡など各種画像検査
治療法：nasal CPAP、high flow nasal cannula、人工呼吸器管理、一酸化窒素吸入療法、交換輸血、低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法、腹膜透析などの集中治療

● 高度な先進医療
低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法や、新生児遷延性肺高血圧・周術期の新生児の肺高血圧に対する一酸化窒素吸入療法などの先進医療を、小児科各分野専門医師や関連他科の医師と連携して、専門的なアプローチにより行います。

周産・女性診療科

Perinatal and Women's Medicine



Dial-in

● 03-5803-5684

女性のライフステージにおける様々な疾患に対し、高度で安全な医療を提供し、女性の生涯を支えます。

● 診療科の概要

生殖内分泌、周産期、婦人科良性腫瘍、婦人科悪性腫瘍、女性ヘルスケアなどの専門グループによって診療を行っており、産科婦人科領域全般にわたって先進的な医療を提供しております。また、それぞれの専門グループの横の連携を強化して、全人的な治療を実施しております。

● 取り扱うおもな疾患

生殖内分泌疾患（月経異常、不妊症、不育症）、がん・生殖医療（未受精卵子凍結、卵巣組織凍結、精子凍結）、周産期医療（出生前診断、正常妊娠・分娩、ハイリスク妊娠・分娩）、婦人科良性腫瘍（子宮筋腫、卵巣囊腫など）、婦人科悪性腫瘍（子宮がん、卵巣がんなど）、女性ヘルスケア（更年期障害、骨粗鬆症、不眠症、骨盤臓器脱、性感染症など）

● おもな診断・治療法

不妊症例では一般的な不妊症検査や必要に応じて遺伝学的着床窓検査などの特殊検査を行い、一般不妊治療から生殖補助医療まで実施しており、良好な成績を得ております。周産期医療では正常妊娠以外にも、総合病院である特徴を生かして、関連各科と協力の上、様々な基礎疾患や合併症を有する女性の妊娠分娩管理を行っております。婦人科腫瘍については、術前から放射線科との合同カンファレンスを実施して、適切な手術、治療方法を検討し、良好な手術成績を得ております。女性ヘルスケアでは、メンタルヘルスアセスメント、健康栄養アセスメント、血液検査、骨量測定などを総合的に判断し、栄養管理、運動療法、ホルモン補充療法、漢方療法など個々人に合わせた治療方法を選択しております。

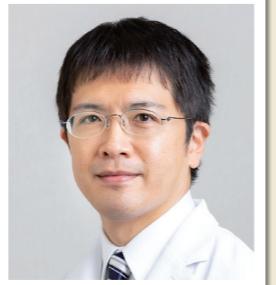


科長
宮坂 尚幸 MIYASAKA Naoyuki

専門医 ● 日本産科婦人科学会認定
 産婦人科専門医・産婦人科指導医
 母体保護法指定医
 専門外来 ● 周産期外来
 超音波外来
 婦人科腫瘍外来
 更年期外来
 女性心身症外来
 生殖医療外来
 HBOC 外来（婦人科）
 がん・生殖（妊孕性温存）外来

新生児集中治療室 (NICU:Neonatal ICU)

Neonatal Intensive Care Unit



室長
杉江 学 SUGIE Manabu

専門医 ● 日本小児科学会認定
 小児科専門医・指導医
 日本周産期・新生児医学会認定
 新生児専門医・指導医
 専門分野 ● 新生児医学全般
 研究領域 ● 新生児再生医療（間葉系幹細胞を用いた脳室周囲白質軟化症の治療法開発）

● 室の概要
NICUは、早産児や先天性の病気をもって生まれた赤ちゃん、呼吸障害や出生時仮死などで出生後すぐに具合が悪くなった赤ちゃんの集中治療を行う治療室です。当院NICUは、病床数は6床で小児科病棟内にあります。状態が改善し、集中治療の必要がなくなった児は、6床ある後方病床のGCUで退院までのgrowing careを行います。

● 取り扱うおもな疾患
在胎27週以上、出生体重800g以上の早産児および低出生体重児、新生児呼吸障害、出生時仮死などの病的新生児を対象としています。また生後間もなくのお子さん達の心臓手術や小児外科手術も行っています。

● おもな診断・治療法
診 斷：超音波診断装置や気管支鏡など各種画像検査
治療法：nasal CPAP、high flow nasal cannula、人工呼吸器管理、一酸化窒素吸入療法、交換輸血、低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法、腹膜透析などの集中治療

● 高度な先進医療
低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法や、新生児遷延性肺高血圧・周術期の新生児の肺高血圧に対する一酸化窒素吸入療法などの先進医療を、小児科各分野専門医師や関連他科の医師と連携して、専門的なアプローチにより行います。

脳神経外科

Neurosurgery



Dial-in

● 03-5803-5675 (2階合同外科外来)

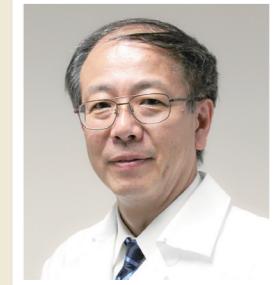
脳神経外科手術に関して患者さんごとに適切な治療を用いて、より良い結果が得られるようにしています。

● 診療科の概要

脳・脊髄腫瘍、脳血管障害、外傷、機能的脳神経外科など、脳脊髄に関わる全分野に対応しています。大学病院の特性として、他科と連携し難易度の高い疾患にも幅広く対応しています。先進的な医療技術のものと、最新機器を用いた高いレベルでの治療法をご提示します。また、CT、MRI、PETなどの各種画像診断機器を用いて、24時間体制で疾患の早期診断にも努めています。脳卒中センター、神經難病先端治療センター、頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センター、てんかんセンター、他科との連携を強めた総合的治療を行っています。

● 取り扱うおもな疾患

脳・脊髄腫瘍（頭蓋底腫瘍、神經膠腫、間脳下垂体腫瘍など）、血管障害（脳動脈瘤、脳動静脈奇形、内頸動脈狭窄症など）、もやもや病、三叉神経痛、顔面けいれん、難治性てんかんは特に豊富な経験があります。



科長
前原 健寿 MAEHARA Taketoshi

専門医 ● 日本脳神経外科学会認定 脳神経外科専門医
 日本脳卒中学会認定 脳卒中専門医
 日本てんかん学会専門医
 日本がん治療認定医機構認定医
 日本臨床神経生理学会認定 脳波専門医
 日本脳卒中の外科学会認定 技術指導医
 専門分野 ● てんかんの外科治療
 研究領域 ● てんかんの病理学的解析と治療
 頭蓋内電極を用いた脳機能の解明

脳神経内科

Neurology

Dial-in

● 03-5803-5670 (4階合同内科外来)

脳卒中や認知症などの神経疾患に対し
丁寧で正確な診察、高度な技術を駆使して、
個々の患者さんに適切な治療を行います。



科長
三澤 園子 MISAWA Sonoko

専門 医●日本内科学会 総合内科専門医・指導医
日本神経学会 専門医・指導医
日本臨床神経生理学会 専門医
日本神経免疫学会 神経免疫診療認定医

専門分野●神経内科学
末梢神経疾患
神経免疫疾患

研究領域●末梢神経疾患
神経免疫疾患
医薬品開発
エビデンス創出

● 診療科の概要

アルツハイマー病に代表される認知症、脳梗塞や一過性脳虚血発作といった脳卒中など、超高齢化社会において避けては通れない疾患をはじめとして、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病といった様々な神経変性疾患、またギラン・バレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症、多発筋炎といった神経免疫疾患に対して、先進的な医療を提供します。

● 取り扱うおもな疾患

アルツハイマー病・レヴィー小体病などの認知症、脳梗塞・脊髄梗塞などの脳脊髄血管障害、頭痛・てんかんなどの機能性疾患、パーキンソン病・脊髄小脳失調症・筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患、多発性硬化症などの脱髓性疾患、脳炎・髄膜炎・脊髄炎などの炎症性疾患、ギラン・バレー症候群・慢性炎症性脱髓性多発根神経炎・顔面神経麻痺・三叉神経痛・手根管症候群などの末梢神経障害、重症筋無力症・多発筋炎・筋ジストロフィーなどの筋疾患、ミトコンドリア病・周期性四肢麻痺・脳表ヘモジデリン沈着症などの代謝性疾患、脊髄空洞症などの先天性疾患、その他糖尿病や膠原病に伴う神経障害などを扱います。

● おもな診断・治療法

尿・血液検査、神経伝導検査や針筋電図、脳波などの電気生理学検査、神経・筋筋検、血液検体からの遺伝子診断、CT/MRIやPET/SPECT（シンチグラフィ）などの画像診断といった先進的な医療技術を駆使して診断します。脳血管障害に対する経静脈的血栓溶解療法、血管内治療、神経免疫疾患に対する免疫抑制薬や抗体治療、免疫グロブリン大量静注療法、血漿交換療法、痙攣に対するバクロフェン静注（ITB）療法、ポツリヌス、抗てんかん薬や抗パーキンソン病薬の薬物調整、脳深部刺激療法などを行っています。

血管内治療科

Endovascular Surgery

Dial-in

● 03-5803-5675 (2階合同内科外来)

外科治療、内科治療では治療困難な脳、頭頸部の
血管の病気をカテーテルを用いて治療します。



科長
壽美田 一貴 SUMITA Kazutaka



● 診療科の概要

脳神経外科、脳神経内科と連携して治療困難な脳、頭頸部、脊髄の血管の病気をカテーテルを用いて治療します。その他、頭頸部外科、整形外科で行う腫瘍摘出術をより安全に行うために腫瘍を栄養する血管の塞栓術も行っています。

脳神経外科、脳神経内科、高度救命救急センター、血管内治療科の4科合同で連携した脳卒中センターでは超急性期脳梗塞治療を行っています。

● 取り扱うおもな疾患

脳動脈瘤、脳動静脉奇形、硬膜動静脉瘻、脊椎・脊髄血管奇形、脳動脈狭窄症、脳梗塞、脳腫瘻、頭頸部腫瘻、脊椎腫瘻

● 高度な先進医療

脳卒中センターでは超急性期の脳梗塞患者さんの血栓回収療法を行っています。
脳血管内手術として、脳動脈瘤コイル塞栓術、Flow diverterステント留置術、脳動静脉奇形塞栓術、頸動脈ステント留置術、脳血管形成術、硬膜動静脉瘻塞栓術、脳腫瘻塞栓術などあらゆる脳頭頸部・脊髄疾患の血管内治療を実施しています。とくに巨大動脈瘤や硬膜動静脉瘻などの治療が難しい疾患についても数多くの経験があり、高度な医療を提供しています。

精神科

Psychiatry



Dial-in

● 03-5803-5673

こころの健康を守るニーズに応える診療・研究体制を
整え、安全で効果の高い最新の治療を提供しています。

● 診療科の概要

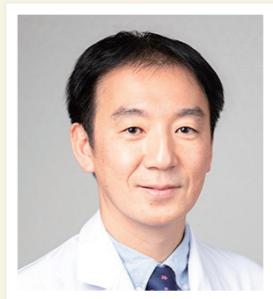
外来は、新患、再来ともに予約制による診療を行っています。通常の診療のほか、各種専門外来を行っています。登録者は大規模デイケアを利用できます。入院は、41床の開放病棟ですので、興奮が著しいなどの閉鎖処遇が必要な方の対応は困難です。おもに、診断確定、休息、心理教育、電気けいれん療法、身体合併症管理などを目的としています。

● 取り扱うおもな疾患

統合失調症、気分障害（うつ病、双極性障害）、神経症性障害（社交不安障害、パニック障害、强迫性障害など）、器質性精神障害（認知症、てんかん）、睡眠障害、パーソナリティ障害、依存症など。

● おもな診断・治療法

入院の方の診断はカンファレンスで多面的に検討して行っています。治療は、薬物療法、精神療法、小集団精神療法、心理教育、デイケアなど、患者さんの状態に応じ、組み合わせて行っています。難治性の方には修正型の電気けいれん療法（mECT）やクロザリル治療にも取り組んでいます。



科長
高橋 英彦 TAKAHASHI Hidehiko

専門 医●日本精神神経学会認定 精神科専門医
専門分野●統合失調症
依存症
脳画像
研究領域●精神疾患の病因・病態研究
専門外来●ネット依存外来
てんかん外来
周産期メンタルヘルス外来

心身医療科

Psychosomatic and Palliative Medicine



Dial-in

● 03-5803-5673

身体の病気をもつ患者さんやそのご家族の
こころの問題に対応しています。

● 診療科の概要

基本的には、がんや生活習慣病など、身体の病気をもつ当院通院中の患者さんやそのご家族の不安・抑うつ、不眠など、こころの問題に対応しています。こうした精神的・心理的問題に対して、全人的医療の立場から、薬物療法、精神療法、心理士によるカウンセリング、緩和的アプローチなどで積極的に対処しています。身体科と連携して診療を行う必要があるため、原則として、当院の身体各科からのご紹介に応じる形で診療をいたします。

● おもな診断・治療法

診断はすべて面接による問診を中心とし、これに心理検査、脳波、脳画像などを適宜加えて総合的に行っています。治療は薬物療法と一般的な支持的精神療法が中心です。

● 取り扱うおもな疾患

うつ病や不安障害、不眠症などの精神疾患全般、がんや生活習慣病などの身体疾患をもつ患者さんおよびそのご家族の精神心理的問題



科長
竹内 崇 TAKEUCHI Takashi

専門 医●日本精神神経学会認定
精神科専門医・指導医
日本総合病院精神医学会認定
一般病院連携精神医学専門医
日本臨床精神神経薬理学会認定
臨床精神神経薬理学専門医
日本サイコソーシャル学会認定登録
精神腫瘍医
専門分野・研究領域●
コンサルテーション・リエゾン精神医学
サイコソーシャル
専門外来●精神腫瘍外来
家族メンタルケア外来

麻酔・蘇生・ペインクリニック科

Anesthesiology

Dial-in

● 03-5803-5685

手術を受けられる方が対象の周術期管理、慢性的な痛みに悩む方のための疼痛メカニズムの解明、それに基づいた診断・治療に取り組んでいます。

診療科の概要

周術期管理では、術前診察による綿密な評価と麻酔計画の立案を行い、術中管理では、安全な麻酔管理の下、手術に伴う疼痛刺激やストレス反応を最小限に抑えます。術後の安全性向上と早期回復を目指して、日本ではまだ稀な本格的PACU（麻酔後ケアユニット）で、術直後の不安定な全身状態が落ち着き、不快な症状が和らぐまで、数時間の術後管理を行っています。

ペインクリニック外来では、神経ブロック、薬物療法、および対話療法によって痛みの緩和を行います。中でも、電気生理学に基づいた痛みの診断と治療が特徴です。神経ブロックは、帯状疱疹後神経痛や腰痛などの一般的な痛みから、癌性疼痛、自律神経失調症、アレルギー性鼻炎、血行障害までカバーします。また、高気圧治療部との連携により、突発性難聴、血行障害、複雑性局所疼痛症候群などに対し、高気圧酸素治療と神経ブロックを効率よく組み合わせた治療を行います。

取り扱うおもな疾患

周術期管理：手術室で行われる手術や、血管内治療などで麻酔科管理となる症例全般が対象となります。

ペインクリニック：疼痛一般（神経障害性疼痛、帯状疱疹後神経痛、腰痛、三叉神経痛、癌性疼痛など）

おもな診断・治療法

手術における麻酔では、全身麻酔、脊髄も膜下麻酔、硬膜外麻酔、末梢神経ブロックなどの組み合わせにより、麻酔管理が行われます。術後の疼痛管理の目的で、患者自己調節鎮痛法（PCA:patient controlled analgesia）が使われることがあります。

ペインクリニックでは、顔面・上肢などの有痛性疾患や血行障害に対しては、交感神経ブロックである星状神経節ブロックを行い、痛み、しびれ、麻痺などの症状を緩和します。

体幹や腰下肢の痛みに対しては、硬膜外ブロックやトリガーポイント注射などで対応します。X線透視下で、脊髄神経根付近に局所麻酔薬やステロイドを投与することもあります。

放射線治療科

Radiation Oncology

Dial-in

● 03-5803-5311 ● 03-5803-5683 (外来)

当院ならではの高度な放射線治療を行います。

診療科の概要

当院の全ての診療科と連携をとり、多領域にわたるがんや一部の良性疾患に対し、単独治療あるいは集学的治療の一端として、根治的治療から緩和治療まで幅広く放射線治療診療を行っています。

取り扱うおもな疾患

体の全ての領域のがんとケロイドなどの一部の良性疾患が治療の対象となります。頭頸部領域のがんが多いのが当科の特徴です。

おもな診断・治療法

強度変調放射線治療（IMRT）や定位照射治療を含めたX線による外部照射治療やRALS（Remote-controlled After Loading System）を用いた高線量率小線源治療、イリジウムや金粒子、ヨウ素を用いた低線量率密封小線源治療を行っています。病気の状態はもちろん、その方の状態や希望に合わせ、当方で提供できる適切な方法で治療を行っていきます。



科長
内田 篤治郎 *UCHIDA Tokujiro*

専門医●日本麻酔科学会認定 麻酔科専門医
専門分野●麻酔科学
研究領域●周術期管理医学
バイオマーカー
急性肺傷害
麻酔薬の臨床薬理



科長
吉村 亮一 *YOSHIMURA Ryoichi*

専門医●日本医学放射線学会認定 放射線治療専門医
専門分野●放射線治療
研究領域●放射線治療



放射線診断科

Diagnostic Radiology

Dial-in

● 03-5803-5311

先進的な画像診断、放射線を使用した低侵襲な診断やがん治療を実施しています。

診療科の概要

放射線診断科では臨床各科と連携しながら画像診断を基盤とした診療を行っています。各種の画像診断機器を駆使し、画像ガイド下に行う生検やカテーテル治療（IVR）も積極的に実施しています。認知症のアミロイドPET/CT診断やルテシウムによるRI治療も行っています。

取り扱うおもな疾患

- ・悪性腫瘍
- ・血管疾患
- ・外傷
- ・認知症
- ・炎症・変性疾患

おもな診断・治療法

- ・CT (Dual energy, Photon counting)、MRI、PET/CT、SPECT、血管造影など画像診断一般
- ・体幹部・四肢血管疾患に対する画像ガイド下のカテーテル治療（IVR）
- ・認知症のアミロイドPET/CT診断
- ・¹⁷⁷Lu-DOTATATEによる難治性神経内分泌腫瘍のRI治療



科長
立石 宇貴秀 *TATEISHI Ukihide*

専門医●日本医学放射線学会認定 放射線診断専門医
日本核医学認定 核医学専門医
専門分野●画像診断
核医学
研究領域●画像医学
分子イメージング



光学医療診療部

Endoscopy

Dial-in

● 03-5803-5669

重症患者さんが少しでも安全かつ快適に国際的に認められる高度医療を受けられるように努めています。

部の概要

消化器内視鏡は、消化器疾患の基本的な検査方法であるとともに、体への負担の少ない治療法としても重要な分野です。がんに加え、若年層を中心に炎症性腸疾患等も増えており、これらに対応すべく、食道外科、胃外科、大腸・肛門外科等の各科と密接に連携して適切な、やさしい内視鏡診断・治療を心がけています。さらに、近年進歩の著しい、経鼻内視鏡、拡大内視鏡、画像強調内視鏡（NB1、BL1、LC1）、カプセル内視鏡、バルーン内視鏡、人工知能（AI）を駆使した診断等を開発導入し、先進的な診療を行っています。

おもな診断・治療法

年間約1万件の上部消化管内視鏡（いわゆる胃カメラ）、下部消化管内視鏡（いわゆる大腸カメラ）に加えてカプセル内視鏡、バルーン内視鏡、超音波内視鏡等を行い、全消化管を対象に検査をしています。また、出血に対する止血、早期がんに対するEMR（Endoscopic mucosal resection）、ESD（Endoscopic submucosal dissection）といった内視鏡的切除、悪性腫瘍や内視鏡治療後の瘢痕や炎症性腸疾患に伴う狭窄の拡張、ステント留置、胆嚢領域では結石除去等の内視鏡治療を行っています。またのぞよく診るために、苦痛の少ない経鼻内視鏡を積極的に活用し、早期がんの発見に努めています。

取り扱うおもな疾患

食道がん、胃がん、大腸がん等の消化管のがん、胃や大腸のポリープといった良性腫瘍、さらに潰瘍性大腸炎やクロール病等の炎症性腸疾患や小腸疾患に力をいれています。その他、膀胱癌性疾患や肺内分泌腫瘍の診断も行っています。



部長
大塚 和朗 *OHTSUKA Kazuo*

専門医●日本内科学会認定 総合内科専門医
日本消化器病学会認定 消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡専門医
専門分野●炎症性腸疾患
小腸内視鏡
大腸内視鏡
内視鏡治療
カプセル内視鏡
研究領域●小腸内視鏡の開発
炎症性腸疾患の診断と治療

周産期母子医療センター

Perinatal Medicine Center

Dial-in

- 03-5803-5684 (周産・女性診療科外来)
- 03-5803-5674 (小児科外来)



新しい命を安心・安全に育み、
ハイレベルな周産期医療を実践しています。

● センターの概要

産科病床 20 床、個室分娩室 2、分娩室 1、陣痛室 2、NICU 6 床、GCU 6 床

● 取り扱うおもな疾患

出生前診断、正常妊娠・分娩、ハイリスク妊娠・分娩、胎児異常、早産児分娩、病の新生児、早産児(在胎 27 週以上、推定体重 800g 以上)

● おもな診断・治療法

総合病院である特色を生かして、関連各科との協力の上、様々な基礎疾患や合併症を有する女性の妊娠分娩管理を行っています。特に高安病、もやもや病、精神疾患、血液疾患、免疫疾患、膠原病、炎症性腸疾患などを合併した妊婦の管理経験が豊富です。

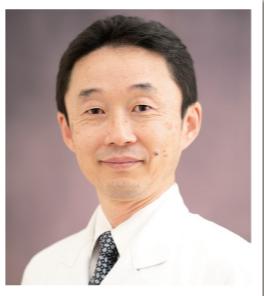
NICU では 24 時間体制で早産児や合併症のある新生児の診断、治療を行っています。小児科内各分野専門医師、および関連他科の医師と連携して、人工呼吸管理、一酸化窒素吸入療法、低酸素療法、交換輸血、低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法、腹膜透析などの高度医療を専門的アプローチにより行います。また小児外科、小児心臓血管外科と連携し、新生児期に外科治療が必要なお子さんを積極的に受け入れる体制を整えています。

高気圧治療部

Hyperbaric Medical Center

Dial-in

- 03-5803-4517



放射線障害・スポーツ外傷や新たな疾患に対する
高気圧酸素治療の研究・実践に取り組んでいます。

● 部の概要

高気圧治療部では、16 名同時に治療可能な日本最大級の治療装置を保有しています。当院では、一日複数回の治療枠があり、年間 6,000 名前後の患者さんの治療を行っています。世界的にも広く行われている治療法で、ダイビングによる減圧症や、一酸化炭素中毒等の救急疾患と、慢性骨髄炎等、慢性疾患に適応があります。昨今、創傷治癒(傷の治り)を早める効果が認められ、世界的にも難治性潰瘍、放射線性障



害・潰瘍の治療に高気圧酸素治療が積極的に行われています。当院ではスポーツに関連する外傷のほか、新たな疾患に対する高気圧酸素治療の研究・治療に積極的に取り組んでいます。

● おもな診断・治療法

多くの疾患に対する高気圧酸素治療は、最大気圧 2.0 ~ 2.8 気圧、合計 90 分 ~ 120 分です。疾患によって治療回数が異なり、数回~数十回の治療となります。減圧症に対しては、約 5 時間の高気圧酸素治療が基本です。高気圧酸素治療では気圧の変化があるため、加圧減圧時に耳抜きが必要です。水やお茶等のペットボトル飲料のご持参をお勧めします。予約制ですので、紹介状のご持参、もしくは事前のお問い合わせをお願い致します。



歯系診療科 のご紹介

矯正歯科	36
小児歯科	36
障害者歯科外来	37
むし歯科	37
歯周病科	38
義歯科	38
スポーツ歯科外来	39
快眠歯科(いびき・無呼吸)外来	39
顎顔面補綴外来	40
言語治療外来	40
高齢者歯科外来	41
歯科アレルギー外来	41
顎関節症外来	42
口腔インプラント科	42
摂食嚥下リハビリテーション科	43
口腔外科	43
顎口腔変形疾患外来	44
歯科麻酔科	44
歯科ペインクリニック	45
歯科心身医療科	45
歯科放射線科	46
歯科総合診療科	46
息さわやか外来	47
クリーンルーム歯科外来	47
第1総合診療室	48
第2総合診療室	48
口腔健康管理科	49

矯正歯科

Orthodontics



Dial-in

- 03-5803-5752
- 03-5803-5753

歯並び・かみ合わせ、顎の変形、先天的疾患による問題まで、多岐にわたる矯正歯科治療を提供。

診療科の概要

矯正歯科は、1929年に補綴部の中の診療科としてスタートしました。現在は咬合機能矯正学分野と顎顔面矯正学分野が診療を担当し、小児から成人までの幅広い年齢層の患者さんを対象に、一般的な歯ならび・かみ合わせの問題から、顎の骨格的な変形、先天的な問題、歯周病・歯の欠損などを伴うかみ合わせの問題まで、多岐にわたる患者さんを対象に治療を行っています。治療開始前の検査に対する詳細な分析後に、経験・知識が豊富な主任教授による診断を経ることで、エビデンスに基づいた診療を提供しています。さらに治療内容に関して臨床グループによる症例検討を定期的に行い、診療の質の向上と維持に努めています。

取り扱うおもな疾患

叢生(乱ぐい歯)、上顎前突(出っ歯)、反対咬合(うけ口)、開咬(かみ合わない)や空隙歯列(すきっ歯)などの不正な歯ならびやかみ合わせに対する一般的な矯正歯科治療から、顎変形症への外科的矯正治療や口唇裂・口蓋裂などの先天性疾患にも対応しています。顎変形症と口唇裂・口蓋裂を含む厚生労働大臣が定める疾患に対する治療には健康保険が適用されます。

小児歯科

Pediatric Dentistry



Dial-in

- 03-5803-5756

成長期の歯と口に関わるさまざまな問題に対して総合的に対応し、子どもたちの健全な成長発育に貢献します。

診療科の概要

生涯を心身ともに健やかに過ごすためには、小児期から健康意識を高め、健全な口腔を育むことが大切です。当科では、新生児期から青少年まで全ての小児を対象に、歯科診療と育児支援を行っています。お子さんにとって歯科治療は不安で恐いものと思われるがちですが、私たちは小児の行動科学に基づいて、患者さんとご家族の不安をできるだけ軽減し、安全な治療を提供しています。

地域の歯科医院では対応が難しいとされることの多い、先天的な問題や全身的な疾患、治療の協力を得られない患者さんに対しても、適切な対応と全身管理を行い、成長段階に合わせた継続的な口腔管理と口腔機能の改善を図る取り組みを行っています。

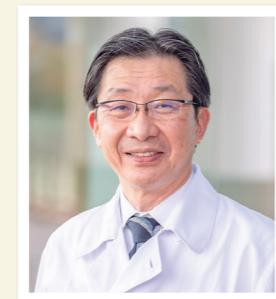
取り扱うおもな疾患

おもな診療内容

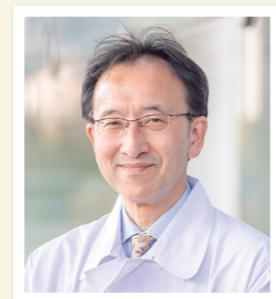
- 1) う蝕・歯周疾患の予防・治療・管理
- 2) 咬合誘導
- 3) 小児の歯・口腔の外傷処置
- 4) 小児の頸関節症の治療
- 5) 埋伏過剰歯・歯牙腫・含歯性嚢胞・粘液嚢胞などの摘出、上唇小帯・舌小帯の伸展術などの外科的治療
- 6) 成長発達期の口腔筋機能訓練
- 7) 欠損歯の補綴

おもな診療・治療法

成長発育期の口腔内の特徴を鑑みた、安全で確実な治療法をご提案いたします。



科長
森山 啓司 MORIYAMA Keiji



副科長
小野 卓史 ONO Takashi

専門医●日本矯正歯学会
専門医・研修指導医・認定医
日本口蓋裂学会
口唇裂・口蓋裂認定師(矯正歯科分野)
日本顎変形症学会 認定医
専門分野●歯科矯正学
顎顔面矯正学
研究領域●新規矯正歯科デバイスの開発
成長発育疾患の診断・治療法の開発
脳機能画像(fMRI)を用いた顎口腔機能の解析
不正咬合に関する疫学研究など

専門医●日本矯正歯学会
専門医・研修指導医・認定医
専門分野●歯科矯正学
閉塞性睡眠時無呼吸症
研究領域●不正咬合の病態生理および正常咬合の生物学的意義
移植歯に対する矯正力や咬合による機械的刺激の影響
矯正力に対する生物学的反応
改良型超弾性ニッケルチタンワイヤーの臨床応用
強化プラスチックワイヤーの開発
MRIにおける金属アーチファクト

障害者歯科外来

Special Needs Dentistry



Dial-in

- 03-5803-5727

患者さんのスペシャルニーズに適切な治療を用いてより良い結果が得られるようにしています。

診療科の概要

種々の障がいや病気等により歯科治療に際し、特別な対応(スペシャルニーズ)が必要な方に対して個々の状態に合わせ、歯科治療を進めていきます。必要に応じて、モニタリング、精神鎮静法や全身麻酔法を用いた治療を行っています。

取り扱うおもな疾患

むし歯、歯周病、抜歯や入れ歯等包括的な歯科治療を行っています。

おもな診断・治療法

診断に必要となる一般的な診断、検査を行います。また、より高度な検査が必要な場合は、適切な専門科との連携の上での専門的な検査に進むことがあります。



外来長
岩本 勉 IWAMOTO Tsutomu

専門医●日本小児歯学会 専門医・指導医
日本口蓋裂学会 認定師(小児歯科分野)
専門分野●小児歯科学
研究領域●小児歯科学
障害者歯科学
歯の発生および病態解明

むし歯科

Operative Dentistry and Endodontics



むし歯科

Operative Dentistry and Endodontics



Dial-in

- 03-5803-5736

むし歯などの疾患を正確に診断し、予防と機能・審美回復治療、先端的機材・技術を駆使した歯内療法(根管治療)の提供と歯の保存に努めます。

診療科の概要

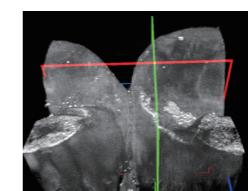
う蝕(むし歯)などの歯の硬組織疾患や、これらに繼発する歯髄疾患、根尖性歯周疾患(歯の神経や歯根先端周囲の炎症)に対する専門的治療を行います。むし歯になりやすさを考慮・予測し、予防の大切さを伝え、最新の接着材料を用いた歯に優しい治療を行います。また歯髄疾患、根尖性歯周疾患に対して、歯科用CTによる診断や実体顕微鏡下での治療などを組み合わせた、先進的な歯内療法を行います。

取り扱うおもな疾患

むし歯、知覚過敏、歯の咬耗、変色歯、歯髄炎、根尖性歯周炎

おもな診断・治療法

・審美的な要求の高まりとともに、金属を使わない、本来の歯に似た白い材料を応用した、審美的むし歯治療や、変色歯に対する処置、歯の漂白についても対応いたします。
・根管は形態が複雑で直視困難なため、歯内療法が難しくなることが少なくありません。当科では、歯科用CTや実体顕微鏡の活用により診断、治療とも精度の向上を図っています。



OCT法
近赤外光を歯に照射します。
X線の被曝はなく安全に、むし歯を発見出来ます



実体顕微鏡を用いた精度の高い歯内療法を提供しています



科長
島田 康史 SHIMADA Yasushi

専門医●日本歯科保存学会
歯科保存治療専門医・指導医
日本接着学会
接着歯科治療専門医・指導医
専門分野●歯科保存学
接着歯学
審美歯学
レーザー歯学
研究領域●接着性修復材料の開発・評価
レジン充填材の審美的評価
光干渉断層画像診断法(OCT法)によるむし歯診断
新規漂白材の開発・評価
歯科用レーザーの臨床的応用
咬耗・酸蝕歯の予防・治療に関する研究
歯の再石灰化誘導材料の開発

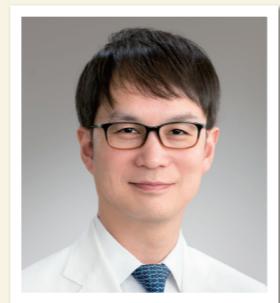
歯周病科

Periodontics

Dial-in

● 03-5803-5736

口腔内全体の包括的な診査・診断を行い、歯周病に対する高度な医療を提供します。



科長
岩田 隆紀 IWATA Takanori

専門医●日本歯周病学会認定
歯周病専門医・指導医
日本再生医療学会 再生医療認定医
専門分野●歯周病学
再生医療
研究領域●歯周組織再生療法の開発
口腔由来幹細胞による創傷治癒メカニズムの解明
歯周病と全身疾患の連関

診療科の概要

歯周病科では、歯周病に対する治療を口腔内全体の包括的な治療計画に基づいて行っています。また、歯周組織再生療法や歯周形成外科手術、レーザー治療などを高度な治療として提供しています。

取り扱うおもな疾患

歯周病（歯肉炎、歯周炎）、歯肉退縮、歯肉増殖、咬合性外傷、色素沈着

おもな診断・治療法

診断法：歯周組織検査、レントゲン撮影、歯科用CT撮影、歯科用顕微鏡、口腔内スキャナー

治療法：歯周基本治療（口腔清掃指導、スケーリング・ルートプレーニング、咬合調整）、歯周外科（フルップ手術）、歯周組織再生療法（生物学的活性材料（リグロス・エムドゲイン）や骨補填材の併用など）、根面被覆術、レーザーを併用した歯石除去、フラップレスポケット治療、インプラント周囲炎手術、メラニン除去

義歯科

Prosthodontics

Dial-in

● 03-5803-5744 ● 03-5803-5749

かぶせ物と入れ歯など補綴（ほてつ）治療により
口腔機能と審美性を回復し、より快適な生活をサポートします。



科長
金澤 学 KANAZAWA Manabu

専門医●日本補綴歯科学会 専門医・指導医
日本老年歯科医学会専門医
専門分野●補綴歯科学
高齢者歯科学
口腔インプラント学
研究領域●デジタルデンチャー
インプラントオーバーデンチャー
全部床義歯
口腔機能と全身機能
AIを用いた治療機器プログラム

診療科の概要

セメントで固定するかぶせ物や、取り外して使用する入れ歯など人工修復物を作製し、かみ合わせや審美性を回復することで、より快適な生活ができるだけ長く送れるようにします。金属を全く使わない歯と同じ色のかぶせ物や、金属のバネが見えない入れ歯、あるいは柔らかい材料を用いた総入れ歯などの先進的な治療も行っています。

取り扱うおもな疾患

むし歯や外傷で歯の一部が欠けた、歯の神経を抜いた、使っているかぶせ物や入れ歯が合わない、壊れた、外れる、失くしたなどの原因により、お食事に不都合を感じたり、言葉がうまく話せなくなったり、見た目が悪くなったり感じられている方に対して専門的な治療を行います。

おもな診断・治療法

クラウンによる治療：広範囲の歯冠部欠損に対するセラミックス、レジン、金属を用いた歯冠修復治療
ブリッジによる治療：少數歯欠損に対する残存歯を支台歯としたセラミックス、レジン、金属を用いた欠損補綴治療

部分入れ歯による治療：歯の欠損に対するクラスプやアタッチメントを用いた部分床義歯治療

総入れ歯による治療：無歯頬に対するレジン、金属、軟質材料を用いた全部床義歯治療

スポーツ歯科外来

Sports Dentistry



Dial-in

● 03-5803-4891

スポーツに関わる全ての人を口腔からサポートし、競技力や生活の質の向上を目指します。

診療科の概要

当科では、競技レベルではトップアスリートからスポーツ愛好家の方まで、年齢層ではジュニアからシニアまで幅広く口・歯・頸の健康増進を図っています。競技スケジュールに配慮し、選手一人一人に寄り添いながら歯のトータルケアをすることで、競技サポートや安全かつ楽しいスポーツライフのお手伝いを目指します。

おもな診断・治療法

競技スケジュールや生活スタイルを考慮しながら、選手一人一人に寄り添った治療計画で治療を進めていきます。

- 1) スポーツのためのデンタルチェック（健診）
- 2) むし歯、歯周病、親知らずなどの一般的な歯科疾患に関する相談・応急処置・治療
- 3) 噙み合わせ不良や歯のすり減り、また顎関節症に関する相談・応急処置・治療
- 4) スポーツ外傷事故による歯の破折・脱臼・脱落、顎の骨折などに関する相談・応急処置・治療
- 5) カスタムメイド・マウスピース（マウスピース）の相談・治療
- 6) カスタムメイド・フェイスガード（フェイスマスク）の相談・治療



外来長
中禮 宏 CHUREI Hiroshi

専門医●日本スポーツ協会
公認スポーツデンティスト
日本スポーツ歯科医学会
認定MGテクニカルインストラクター
指導医
専門医
認定医
認定MG研修施設指導責任者
専門分野●スポーツ歯学
スポーツ科学

快眠歯科（いびき・無呼吸）外来

Dental Clinic for Sleep Disorders (Apnea and Snoring)



Dial-in

● 03-5803-4955

いびき・無呼吸防止のためにマウスピースを作製し、睡眠中の気道を広げ、呼吸が止まるのを防止します。専門医が歯並びや顎の形に合った装置を作り、口の中で調整して夜間の使用法を指導します。

診療科の概要

日中の強い眠気や集中力の低下、生活習慣病の悪化等を生じやすい睡眠時無呼吸症に対するマウスピース（oral appliance: OA）治療を行います。マウスピースで下顎が前方に突き出るよう工夫され、睡眠中の気道を広げ、いびきや呼吸が止まるのを防止します。

取り扱うおもな疾患

閉塞性睡眠時無呼吸症（Obstructive Sleep Apnea : OSA）

おもな診断・治療法

睡眠時には口、のどの周りの筋肉が緩み、呼吸の通り道（気道）も狭くなり、空気が通過する際、いびきとして振動音を発します。さらに気道が狭くなると呼吸が止まり、閉塞性睡眠時無呼吸症（OSA）となります。肥満、扁桃腺の肥大、鼻の疾患、舌の肥大、小顎、顎の後退等により、気道は狭くなります。

主な症状としては日中の強い眠気や、集中力の欠如による仕事の能率低下、車の運転事故等社会生活に支障を来すばかりでなく、高血圧、不整脈、動脈硬化、心筋梗塞、脳血管障害、糖尿病等の生活習慣病にもかかりやすく、死亡率の高いことが知られています。

当科では睡眠時無呼吸症に対する歯科的な処置（OA：マウスピース装着）を行います。この装置によって睡眠中の気道を広げ、呼吸が止まるのを防止します。専門の歯科医師が口の中を診察し、歯並びや顎の形に合った装置を作り、口の中で調整して確認した後、夜間の使用法について説明致します。なお、中等度以上の無呼吸には効果が少ないため、医科で適用のCPAP（鼻マスク）の使用をお勧めします。

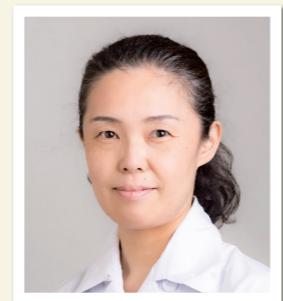


外来長
石山 裕之 ISHIYAMA Hiroyuki

専門医●日本睡眠学会 歯科専門医
日本顎関節学会 歯科顎関節症専門医
日本睡眠歯科学会 認定医・指導医
日本口腔顎面痛学会 口腔顎面痛認定医

顎顔面補綴外来

Maxillofacial Prosthetics



外来長
服部 麻里子 HATTORI Mariko

専門医●日本顎顔面補綴学会 認定医
日本補綴歯科学会 専門医・指導医
専門分野●顎顔面補綴
研究領域●顎顔面欠損の患者さんの機能・審美的改善に関する研究を行っています。具体的には顎欠損患者さんの発音、顎顔面補綴材料の色、デジタル技術を用いた顎顔面補綴治療について研究しています。また管楽器奏者の歯科治療に関する研究も行っています。

診療科の概要

国内外の施設からの依頼を受け、がんの切除や口唇裂口蓋裂などのために口腔や顔面に欠損のある患者さんに、顎義歯や舌接触補助床など、または顔面補綴装置(顔面エピテーゼ)を製作し、チーム医療の中で咀嚼、嚥下、発音、整容性の回復と改善のお手伝いをします。欠損補綴だけでなく、外科用補助装置、発音補助装置、放射線治療補助装置などの補助装置も製作しています。

取り扱うおもな疾患

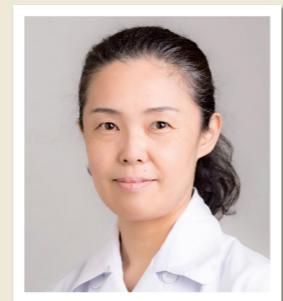
顎顔面補綴は、腫瘍・外傷・炎症・囊胞などの治療で後遺した、あるいは、口蓋裂などの先天疾患により生じた顎顔面領域の欠損部分に、人工物を用いて形態的・機能的・審美的に回復・改善し、患者さんの社会復帰をサポートします。その対象は顎顔面領域に留まらず、頭頸部領域、更には、体幹・四肢領域にも及びます。また、その治療内容は欠損補綴だけでなく、外科治療・放射線治療・言語治療などにおいて使用されるさまざまな補助装置の製作・提供も行っています。

おもな診断・治療法

顎顔面補綴外来は先天的あるいは後天的に頭頸部領域に欠損を生じた患者さんへの支持療法として用いる補綴装置(顎義歯、術後即時顎補綴装置、オブチュレータ、オクルザルランプ、舌接触補助床、スピーチエイド、軟口蓋挙上装置、顔面エピテーゼ)や放射線治療補助装置(外照射用装置、内照射用装置、アフターローディング用装置、腔内照射用モールド、眼瞼シールド)を使用した治療を行っています。

言語治療外来

Speech Clinic



外来長
服部 麻里子 HATTORI Mariko

専門医●日本顎顔面補綴学会 認定医
日本補綴歯科学会 専門医・指導医
専門分野●顎顔面補綴
研究領域●顎顔面欠損の患者さんの機能・審美的改善に関する研究を行っています。具体的には顎欠損患者さんの発音、顎顔面補綴材料の色、デジタル技術を用いた顎顔面補綴治療について研究しています。また管楽器奏者の歯科治療に関する研究も行っています。

診療科の概要

発声発語障害・言語発達障害のある方を対象にした言語聴覚療法を実施しています。

音声言語という側面を通して患者さんの生活全般を見据え、QOL(Quality of Life):生活の質の向上に努めています。

取り扱うおもな対象疾患

当外来は歯系診療科に属しているため、口蓋裂、口腔がん、舌小帯短縮症といった器質的な要因による構音障害のある方が多く通っていらっしゃいます。医系医院からの訓練依頼の紹介状があれば、機能性構音障害や運動障害性構音障害、吃音、言語発達障害等も対象としています。なお、症状等によっては他機関へご紹介させていただきます。

高齢者歯科外来

Geriatric Dentistry



Dial-in

● 03-5803-5750

QOLの改善、合併症予防のため、歯科の治療分野や患者さんの年齢に関わらず総合的な歯科治療を迅速に提供します。

診療科の概要

高齢者歯科外来は、全身疾患をお持ちの患者さんの歯科診療を専門としている外来です。

全身疾患をお持ちの患者さんの歯科治療を安心・安全に実施するため、各治療台に血圧モニターが設置されており、血圧を計測しながら歯科治療を実施しています。これにより、体調が急変された際にも迅速に対応が可能です。

本学医系診療部門や、他院からご紹介の、ご病気をお持ちの患者さんの歯科診療を中心に行ってています。

取り扱うおもな疾患

全身管理やさまざまなケアが必要とされる重度疾患のある患者さんの歯科治療全般(う蝕処置、歯周治療、歯の欠損へのリハビリテーション、抜歯等)を行います。

主な診断・治療法

歯科治療時のストレスを軽減させ、体動をコントロールしながら歯科治療を行います。常時バイタルサインのモニタリングをしながら歯科治療を実施しております。



外来長
金澤 学 KANAZAWA Manabu

専門医●日本補綴歯科学会 専門医・指導医
日本老年歯科医学会 専門医
専門分野●補綴歯科学
高齢者歯科学
口腔インプラント学
研究領域●デジタルデンチャー
インプラントオーバーデンチャー
全部床義歯
口腔機能と全身機能
AIを用いた治療機器プログラム

歯科アレルギー外来

Dental Allergy



歯科アレルギー外来

Dental Allergy

Dial-in

● 03-5803-5746

歯科治療用材料のアレルギー検査を実施し、安全性の高い歯科治療の提供に貢献致します。

診療科の概要

歯科・医科の各科と連携し、歯科治療用金属や材料が原因または誘発物質になっていると思われる様々な疾患について、疾患との因果関係を各種検査によりお調べ致します。また、疾患改善と再発防止を図るために使用可能な材料や治療方針に関する適切なご提案をさせて頂きます。更に、歯科矯正治療や口腔インプラントなどを含めた各種歯科治療を安全にお受け頂くため、使用可能な歯科治療用材料の検査もご案内致します。

取り扱うおもな疾患

金属や歯科材料を対象とした各種アレルギー疾患、原因不明の皮膚・粘膜疾患(接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、口内炎、扁平苔癬など)、歯性病巣感染(掌蹠膿疱症、肉芽種性口唇炎など)

おもな診断・治療法

アレルゲンの特定(金属・歯科材料パッチテスト(皮膚科にて実施)、血液検査)
口腔内アレルゲンの存在特定(X線検査、金属成分分析検査)



外来長
駒田 亘 KOMADA Wataru

専門医●日本補綴歯科学会 専門医・指導医
専門分野●補綴歯科治療
冠橋義歯補綴治療
研究領域●新しい支台架造法の考案
メタルフリー補綴歯科材料の評価

顎関節症外来

Temporomandibular Disorders Clinic

Dial-in

● 03-5803-5961

顎関節症は決して怖い病気ではありません。
正しく病気を理解し、改善に向けて共に進みましょう。



外来長

西山 晓 NISHIYAMA Akira

専門医●日本顎関節学会 歯科顎関節症専門医・指導医
 専門分野●顎関節症
 ブラキシズム（睡眠時、覚醒時）
 非歯原性歯痛
 睡眠時無呼吸
 研究領域●顎関節症
 ブラキシズム
 非歯原性歯痛
 睡眠時無呼吸

診療科の概要

顎関節症においては、国内で最も多くの患者さんが来院する外来です。一人一人の患者さんの状況を細かに把握し、症状の改善を目指します。また、完全治癒が難しい場合もありますが、生活の質（QOL）の向上のため、患者さんと一緒に治療を行っていきます。

取り扱うおもな疾患

顎関節症（口を開け閉めると音が鳴る、口を開けたり食事をすると顎が痛い、口を大きく開けられないなど）を中心として、それ以外にも睡眠中の歯ぎしりやくいしばり（睡眠時ブラキシズム）、覚醒中のくいしばりや歯の接触癖（覚醒時ブラキシズム）、ブラキシズムによる歯の痛み、筋肉痛により生じる歯の痛み（非歯原性歯痛）などの診査・診断・治療を行っています。

また、歯列矯正治療や睡眠時無呼吸症のマウスピース治療を行う前の、顎関節や咀嚼筋の精査を行うこともあります。

おもな診断・治療法

顎関節症については、国際的に推奨されているDC/TMD (Diagnostic criteria for temporomandibular disorders)に基づいた診査・診断を行っています。画像診断は通常のエックス線検査以外にもMRI検査やCT検査も行っています。顎関節症の治療は、セルフマネジメントが基本となるため、患者さんはご自身の病気を十分理解していただき、積極的にセルフマネジメントを取り組めるよう指導しています。また、症状によっては顎関節の動きを増やすための「パンピングマニピュレーション」や、局所の筋肉痛部位に対する「トリガーポイント注射」も行っています。さらに、痛みが慢性化している場合は、痛みの感受性を抑えるための薬物療法も提供しています。

睡眠時ブラキシズムについては、携帯型筋電計を用いた自宅での「睡眠時歯科筋電図検査」を行い、個々の患者さんの症状に即した診断結果を提供しています。治療としては、歯を守ることを主目的とした「口腔内装置（マウスピース）療法」を中心とし、必要に応じて薬物療法の提案も行っています。

覚醒時ブラキシズムについては、「行動変容法」を用いた自己管理療法の提供を行います。

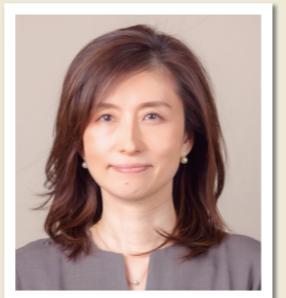
口腔インプラント科

Dental Implant Clinic

Dial-in

● 03-5803-5773

最新の治療技術、材料の進歩に対応した先進的医療提供を行い、個々の患者さんに適した歯科インプラント治療を目指します。



科長

丸川 恵理子 MARUKAWA Eriko

専門医●日本顎顔面インプラント学会 専門医・指導医
 日本口腔外科学会 専門医・指導医
 日本再生医療学会 認定医
 専門分野●歯科インプラント治療
 研究領域●口腔組織（硬・軟組織）再生医療
 新規骨補填材の開発
 新規歯科インプラント材料の開発

診療科の概要

歯科インプラント治療において、世界有数の治療件数を誇っています。また歯槽骨の萎縮や腫瘍などにより顎骨が大きく欠損している症例においても骨移植を併用し、広範囲なインプラント治療を行い、咀嚼機能や審美性の回復を行っています。

取り扱うおもな疾患

- ・歯の欠損症
- ・歯槽骨萎縮症や顎骨腫瘍などの病変摘出後における骨再建した部位へのインプラント治療

おもな診断・治療法

口腔内全体の状況をX線写真やCTなどを用いて精査します。さらに歯の欠損部位の粘膜形態や残存歯などの口腔内情報をデジタルデータ化したものと骨形態を示すCTの重ね合わせを行い、インプラント治療のシミュレーションを行うことで、適切な治療方針や術式を検討しています。

摂食嚥下リハビリテーション科

Dysphagia Rehabilitation



Dial-in

● 03-5803-5750

高齢者から小児、急性期病院から在宅まで、年齢や場所、ステージを問わず、「食べる障害」「話す障害」を有する患者さんに真摯に向き合い、生活を支えます。

診療科の概要

歯科訪問診療における摂食嚥下障害（嚥む、飲むなどの食べる障害）の検査やリハビリテーションが専門です。外来診療では、主に当院を退院後の患者さんのフォローをしております。患者さんに少しでも「食べる」を楽しんでもらえるように医療を提供し、生活を支援いたします。また、喉頭摘出などで声を失った方に対し、世界で当院しか作成できないマウスピース型人工喉頭『Voice Retriever』の提供もいたします。

取り扱うおもな疾患

脳血管障害、頭頸部腫瘍術後、認知症、神経変性疾患などによる摂食嚥下障害や構音障害、喉頭摘出などによる発声障害

おもな診断・治療法

嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査など嚥下機能の精密検査をしております。精密検査から障害の原因を明確にし、その原因に応じたリハビリテーションを指導します。リハビリテーションの内容は食形態や食事法、食環境の調整や訓練法の指導、さらには舌接触補助床や軟口蓋挙上装置など高度な歯科補綴装置およびVoice Retrieverの製作もいたします。



科長

戸原 玄 TOHARA Haruka

専門医●日本老年歯科医学会 専門医・指導医
 摂食機能療法専門歯科医師
 専門分野●摂食嚥下リハビリテーション
 高齢者歯科
 研究領域●摂食嚥下障害や構音障害に関わる研究
 経口摂取に関わる研究

口腔外科

Oral and Maxillofacial Surgery



Dial-in

● 03-5803-5738 ● 03-5803-5742

口腔顎面領域の疾患の診断とそれらの疾患に対応した専門医療チームが先端医療を提供いたします。



科長

原田 浩之 HARADA Hiroyuki

専門医●日本口腔外科学会認定
 口腔外科専門医・指導医
 日本がん治療認定医機構
 がん治療認定医（歯科口腔外科学）
 日本口腔腫瘍学会
 暫定口腔がん指導医
 日本口腔科学会 認定医・指導医
 専門分野●口腔がん
 研究領域●口腔がんの浸潤・転移に関する分子生物学的研究
 口腔がん術後の機能障害・QOLに関する研究

診療科の概要

う蝕や歯周病を除く口腔顎面領域の疾患の診断と、それらの外科的治療を主として行っています。口腔顎面領域は、咬合や咀嚼、嚥下、発音など、生命活動に重要な機能を果たしているのみならず、審美の点でも大きな役割を果たしています。当科では、このような口腔顎面領域の機能・役割を損なう疾患を広く治療の対象とし、全身の健康への寄与にとどまらず、全人的医療の実践を目指しています。

取り扱うおもな疾患

外科処置を要する歯・歯周疾患、智歯周囲炎・埋伏歯など、口腔感染症・炎症、顎関節疾患、口腔・顎顔面領域のがん・腫瘍、口腔・顎骨の囊胞、歯・歯槽骨の外傷、上下顎骨骨折、顎変形症、唇顎口蓋裂、口腔粘膜疾患、血液・リンパ系疾患に伴う口腔異常、上顎洞疾患、神経系疾患、唾液腺疾患、その他（骨系統疾患など）

おもな診断・治療法

- ・口腔がんに対しては、病変の一部を切除して顕微鏡による病理組織検査やCT、MRI、PET/CT、超音波などの画像検査を行い診断します。治療は、手術療法が中心となり、必要に応じて放射線治療や薬物療法を行います。
- ・顎変形症や唇顎口蓋裂に対しては、矯正歯科、小児歯科、顎顔面補綴外来と連携して顎口腔変形疾患治療ユニットを形成し、診断および治療にあたっています。

顎口腔変形疾患外来

Oral and Maxillofacial Malformation Clinic

Dial-in

● 03-5803-4362

口唇・口蓋裂や顎変形症などの顎口腔変形疾患に対して、各専門診療科によるチーム医療により、高度で統合的な診療を提供します。

● 診療科の概要

本院では、従来から「顎口腔変形疾患」の治療に積極的に取り組み、多数のエキスパートが診療に当たっております。当外来ではそのノウハウを生かし、疾患を持つ患者さん一人一人の心に寄り添い、苦しみや不安を少しでも和らげるよう、複数のエキスパートがチームとなって診療をトータルに進めて行きます。

口唇・口蓋裂をはじめとする様々な先天性疾患とともに顎口腔領域の問題や顎変形症などの顎口腔変形疾患の咬合異常に対して、各専門診療科（矯正歯科、口腔外科、小児歯科、顎顔面補綴外来、言語治療外来、口腔インプラント科など）によるチーム医療により、子供から大人まで高度で統合的な診療を実践します。

● おもな対象疾患

口唇・口蓋裂、ゴールデンハーフ症候群（鰐弓異常症を含む）、鎖骨・頭蓋異形成、トリチャーコリンス症候群、ピエールロバン症候群、ダウントン症候群、ターナー症候群、ベックウィズ・ヴィードマン症候群、顔面半側肥大症、軟骨形成不全症、外胚葉異形成症、神経線維腫症、基底細胞母斑症候群、ヌーナン症候群、マルファン症候群、顔面裂、大理石骨病、口・顔・指症候群、カブキ症候群、スティックラー症候群、頭蓋骨癒合症（クルーゾン症候群、尖頭合指症など）、骨形成不全症、常染色体欠失症候群、6歯以上の非症候性部分性無歯症、チャージ症候群、ポリエックス症候群、その他様々な先天性疾患

顎変形症（骨格性上顎前突、骨格性下顎前突、骨格性上下顎偏位、骨格性開咬、骨格性上下顎前突、骨格性過蓋咬合、その他骨格的な問題に伴う咬合異常）

歯科麻酔科

Dental Anesthesiology

Dial-in

● 03-5803-5761

安全でストレスのない歯科治療を可能にします。

● 診療科の概要

歯科麻酔科の臨床の中心は、口腔外科手術のための全身麻酔と、外来での静脈内鎮静法および全身麻酔です。口腔外科手術は他の施設と比べて、口腔がんと外科的矯正手術の割合が大きいことが特徴になります。埋伏している智歯を全身麻酔下で抜歯することも多く、トータルで年間に約1000例の全身麻酔を行っています。長時間手術の術後管理は集中治療部と協力して行っています。

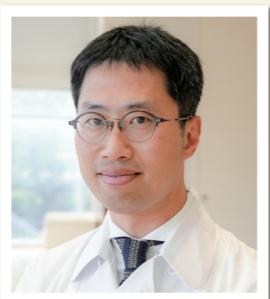
外来では、障害のために通常の歯科治療を受けることができない方、たくさんの虫歯の治療ができるない小児、また外来でも実施可能な埋伏歯の抜歯などを対象として年間150例ほどの全身麻酔を行っています。また外来では、抜歯、インプラント関連の小手術、歯科治療に対する恐怖心が強い方や知的障害をお持ちの方の歯科治療などの対応として、年間約1700例の静脈内鎮静法を行っています。

● 取り扱うおもな疾患

歯科に対する特別な恐怖心などの理由で、通常の歯科麻酔を受けることができない方は、当科での麻酔管理を受けることで、苦痛を大幅に減らして歯科治療を受けることが可能になります。親知らずの抜歯や、歯科インプラントに関係する治療では、時間がかかることや、骨を削るなどの侵襲が精神的なストレスとなります。当科で麻酔管理をうけることにより、そのストレスを大幅に軽減することができます。

● おもな診断・治療法

全身麻酔と、点滴から麻酔薬を注射して、うとうとした状態を作るという静脈内鎮静法を行っています。外来での全身麻酔と静脈内鎮静法のほとんどは日帰りで行っています。



外来医長

友松 伸允 TOMOMATSU Nobuyoshi

専門医
●日本口腔外科学会 専門医・指導医
日本顎変形症学会認定 認定医・指導医
日本口腔科学会認定医
(日本がん治療認定医機構がん治療認定医)
関連する診療科
●口腔外科
矯正歯科
小児歯科
(専)顎顔面補綴外来
(専)言語治療外来
口腔インプラント科



科長

前田 茂 MAEDA Shigeru

専門医
●日本歯科麻酔学会認定 歯科麻酔専門医
日本障害者歯科学会認定
専門医・指導医
専門分野
●歯科麻酔学
障害者歯科学
研究領域
●外来麻酔管理
麻酔薬の抗酸化作用

歯科ペインクリニック

Orofacial Pain Clinic



Dial-in

● 03-5803-5762

通常の歯科治療では治らない口腔顔面領域の痛みの治療を行っています。

● 診療科の概要

歯科的には原因の掴めない口腔顔面痛、感覚麻痺、異常感覚、異常運動などの診断を行い、それぞれの疾患に対して薬物療法（鎮痛補助薬、抗てんかん薬、漢方薬など）や物理療法（鍼通電療法、近赤外線照射、ACイオントフォレーシス）などを用いて症状の緩和を目指します。神経痛および神経障害性疼痛には末梢枝の神経プロックやトリガーポイント注射を行う場合もあります。医科領域の疾患有する場合は適切な診療科へご紹介します。

● 取り扱うおもな疾患

口腔顔面領域の神経障害性疼痛、顎顔面領域の帶状疱疹後神経痛
三叉神経痛、舌咽神経痛、顔面神経麻痺、顔面痙攣
一次性頭痛に関連した口腔顔面痛、持続性特発性顔面痛、筋・筋膜性口腔顔面痛、非歯原性歯痛、味覚障害など。

● おもな診断・治療法

詳細な問診を行い、血液検査、CTやMRI撮影による画像診断、セメスワインスタンモノフィラメントを用いた精密触覚機能検査、電気味覚計を用いた味覚検査などの結果を基に診断を行います。診断された疾患に対し、西洋薬および漢方薬による投薬治療、トリガーポイント注射、神経プロック、物理療法（鍼通電療法、ACイオントフォレーシス、近赤外線照射）などによる治療を行っています。



外来長

前田 茂 MAEDA Shigeru

専門医
●日本口腔顔面痛学会認定
口腔顔面痛専門医
日本歯科麻酔学会認定
歯科麻酔専門医
日本慢性疼痛学会認定 専門歯科医
専門分野
●歯科麻酔学
口腔顔面領域のペインクリニック
研究領域
●口腔顔面領域での神経障害性疼痛の病因の解明とその治療法の解明
口腔顔面領域の慢性的痛に対する漢方薬の効果の解明

歯科心身医療科

Psychosomatic Dentistry Clinic



歯科心身医療科

Psychosomatic Dentistry Clinic

Dial-in

● 03-5803-5898

他の歯科医療機関で原因特定や治療が難しい歯・口の難治性疼痛や不快な違和感などを専ら診療します。

● 診療科の概要

むし歯や歯周病の治療では良くならない、お口の不具合があります。例えば、「歯の痛みが取れない」「舌がヒリヒリする」「口が乾く」「味がおかしい」「口の中がネバネバ、ベタベタする」「咬み合わせが何度も治しても直りこない」「口臭が気になる」など、ご本人にとってははっきりした苦痛が長引くのに、歯科、内科、耳鼻咽喉科などで相談しても原因が分からず、行き場を失ってしまうことがあります。心療内科や精神科を紹介されても、ご担当の先生が「精神の病気ではない」「歯や口のことはよくわからない」とお困りになることもあります。

当科では、こういった「医療の隙間」に陥ってしまう「歯科心身症」患者さんの診療に専門特化し、中枢との関連から複雑な口腔症状の病態解明と、より効果的な治療法の開発・改良を目指しています。

● 取り扱うおもな疾患

舌痛症、非定型歯痛（非定型顔面痛）、Phantom bite syndrome（咬合異常感：義歯や矯正治療後の不具合）、口腔異常感症（口腔セネストバチー）、味覚障害、ドライマウス、口臭症、インプラント術後の不快感など。



科長

豊福 明 TOYOFUKU Akira

専門医
●日本歯科心身医学会 認定医・指導医
専門分野
●歯科心身医学
研究領域
●①歯科心身症の病態解明に関する研究
(歯科心身症における中板－末梢機能連関について)
②歯科心身症の診断・治療技術の開発改良

歯科放射線科

Oral Radiology and Radiation Oncology Clinic

Dial-in

● 03-5803-5759

歯科を受診する患者さんの精密な画像検査・診断を行い
歯科口腔領域のあらゆる疾患に対応できる体制を整えています。
医系診療部門と共に口腔がんの放射線治療を実施しています。

● 診療科の概要

歯科放射線科には一般的な歯科医院では利用できないMRI装置やマルチディテクタCT装置が設置されており、歯科口腔領域のあらゆる疾患に対して適切な画像検査・診断を提供できる体制を整えています。また医系診療部門とも密接に連携して、放射線治療や核医学診断を実施しています。

● 取り扱うおもな疾患

- ・歯と歯周組織の疾患
- ・顎骨の腫瘍・囊胞・炎症性疾患など
- ・顎関節や唾液腺の疾患
- ・口腔がんはじめとする顎顔面領域の悪性腫瘍

● おもな診断・治療法

64列マルチディテクタCTや3テスラMRI、歯科用コーンビームCTなどを用いて、歯科口腔領域の疾患に対して適切かつ精密な画像診断を行っています。CT検査では、ほぼすべての症例で多断面画像再構成や3D立体画像再構成などの画像処理を併用しており、1回の画像検査からより多くの診断情報を提供するように努めています。口腔がんに対するイリジウム針、放射性金粒子を用いた小線源治療ならびに主に口腔がんのIMRTによる放射線療法を医系診療部門と共に実施しています。

歯科総合診療科

Oral Diagnosis and General Dentistry

Dial-in

● 03-5803-5766

歯科における全人的・総合的な診断、治療、
学生・研修医教育に取り組んでいます。
歯系部門の入り口として院内他科、地域との連携をサポートします。

● 診療科の概要

本院歯系診療部門は20以上の診療科で構成されています。歯科も専門領域が細分化され、患者さんご自身ではどの診療科を受診したらよいか判断が難しい場合があります。歯科総合診療科では、新来患者さんとの医療面接、全身評価と歯科の検査から、初期診断し、専門診療科の予診担当医と連携し、スムーズに担当科を決定します。

本診療科では専門的な治療を必要としない一般的な歯科疾患の総合的な診療を行っています。むし歯や歯周病、義歯など一連の治療を、複数の診療科を行き来すことなく、受診することができ、計画的かつ効率的に進めることができます。加えて、歯科疾患に特化した人間ドックを行い、歯科疾患の予防・早期発見に努めています。

本診療科は本学歯学部・大学病院における臨床教育のマネジメントを担っており、歯学生・研修医の臨床教育・指導にも力を入れています。臨床実習・臨床研修においては経験豊富な指導医の下、安全で質の高い歯科診療を提供することを心がけております。多くの優秀な歯科医師を輩出するため、できるだけ多くの患者さんのご協力をお願いいたします。

● 取り扱うおもな疾患

一般的な歯科疾患全般（むし歯、歯周病、冠、ブリッジ、義歯等）の予防・治療を担当します。

● おもな診断・治療法

歯科診断・治療全般を取り扱いますが、患者さんの心理・社会的な側面に配慮し全人的に診察することを心がけ、必要に応じて地域の社会的リソースに繋げることを行っています。歯科ドックでは一般的な歯科検診内容の他、むし歯・歯周病の原因菌のPCR検査、口臭検査、咀嚼効率の検査等をスクリーニング的に行い、さらに受診者の歯の状態を、歯型をとる代わりに3Dデータとして保管し、経時的なお口の変化を記録・分析します。本院の長寿・健康人生推進センターの先端的検診での歯科ドック・フレイル検診も担当しています。



科長
三浦 雅彦 MIURA Masahiko

専門医●日本歯科放射線学会 歯科放射線専門医
専門分野●口腔がんの放射線治療
研究領域●放射線腫瘍学
放射線生物学



科長
新田 浩 NITTA Hiroshi

専門医●日本歯周病学会 歯周病専門医
専門分野●歯周治療
総合診療
研究領域●歯周病学
総合診療歯科学
歯科医学教育学

息さわやか外来

Fresh Breath Clinic



Dial-in
● 03-5803-4559

高度な口臭診断・治療技術を提供し
口臭で悩む人がいない社会を目指します。

● 診療科の概要

息さわやか外来は口臭検査、口臭の診断・治療・予防を行う専門外来です。

口臭の原因の多くは口腔疾患や口腔清掃状態に起因します。

息さわやか外来では様々な専用の口臭測定機器を用いて、口臭の強さや原因を特定し、適切な治療や指導、カウンセリングを行います。

● 取り扱うおもな疾患

- ・真性口臭症
- ・仮性口臭症
- ・口臭恐怖症

● おもな診断・治療法

口臭測定器による口臭値の測定、診断に必要な口腔に関する様々な検査を行い、診断します。診断結果に応じて、適切な治療やセルフケアの指導を行います。



外来長
新田 浩 NITTA Hiroshi

専門医●日本歯周病学会 歯周病専門医
専門分野●総合診療
歯周治療
研究領域●総合診療歯科学
歯周病学
歯科医学教育学



クリーンルーム歯科外来

Cleanroom



Dial-in
● 03-5803-5748

高度に感染対策が施された環境下での歯科治療を提供します。

● 診療科の概要

院内感染のリスクを減少させるために設立されました。既に感染症を有する方の一般歯科診療、あるいは免疫抑制剤等の薬剤を使用する影響等で、免疫機能が低下し、感染症に罹患しやすくなっている方の歯科治療を、防御環境の概念の基で実施するための院内共同利用施設です。

● 取り扱うおもな疾患

- ・う蝕・歯齶炎・歯周炎・口内炎・抜歯を要するもの・歯の欠損症

● おもな診断・治療法

一般的な歯科診療に基づき行われます。

● 高度な先進医療

陰圧個室あるいは陽圧個室下における歯科治療の提供

● 取り組み

通常の歯科診療でも感染対策として、標準予防策を行っておりますが、当外来ではさらに室内の気圧をコントロールすることで、感染症の拡大を防止しています。また針刺し事故を予防するため、注射針にリキャップを禁止しています。そのため浸潤麻酔用ホールダーはワンタッチ式を採用しています。



外来長
道 泰之 MICHI Yasuyuki

専門医●(公社)日本口腔外科学会
専門医・指導医
がん治療認定医(歯科口腔外科)
(一社)日本口腔腫瘍学会
口腔がん専門医
ICD制度協議会
インフェクションコントロール
ドクター
専門分野●口腔外科一般
口腔がん
研究領域●口腔がん
骨齶炎

第1総合診療室

General Dentistry I

Dial-in

● 03-5803-5729 ● 03-5803-7712

Student Dentistの称号を付与された歯学科5～6年生が、指導医とともに安全で確実な歯科診療を行います。

● 室の概要

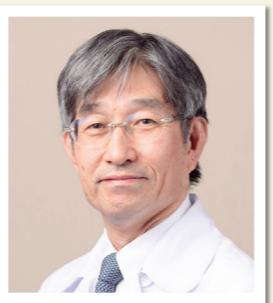
第1総合診療室は、歯学科5年生の前期までに必要な単位を取得し、その後、共用試験という学生の知識・態度・技能を評価する全国共通の試験に合格し、Student Dentistという称号を授与された歯学科5～6年生が包括臨床実習を行う場で、学生が患者さんの担当となります。学生は、患者さんの診療計画を立てた後に、保存・補綴・口腔外科という一般歯科診療を総合的に指導医の指導の下に行います。診療は、ステップごとに指導医が確認し、安全で確実な診療を行います。

● 取り扱うおもな疾患

一般歯科（保存・補綴・口腔外科・歯科放射線）

● おもな診断・治療法

歯学科学生が自駆可能な一般歯科診療（保存・補綴・口腔外科・歯科放射線）を担当します。



室長
新田 浩 NITTA Hiroshi

専門医●日本歯周病学会 歯周病専門医
専門分野●総合診療
歯周治療
研究領域●総合診療歯科学
歯周病学
歯科医学教育学

第2総合診療室

General Dentistry II

Dial-in

● 03-5803-5732 ● 03-5803-5734

研修歯科医と歯科レジデントが、指導歯科医とともに安全で確実な歯科診療を行います。

● 室の概要

第2総合診療室は、歯科医師国家試験に合格した直後の歯科医師が歯科医師臨床研修として総合診療研修を行います。また、本院で歯科医師臨床研修を修了した歯科レジデントも診療を行います。

研修歯科医・歯科レジデントが患者さんの担当医となり、一口腔単位での診療計画を立て、保存・補綴・口腔外科からなる一般歯科診療を、指導歯科医の指導のもとに行います。

● 取り扱うおもな疾患

一般歯科診療（保存・補綴・口腔外科）

● おもな診断・治療法

研修歯科医、歯科レジデントが一般歯科診療（保存・補綴・口腔外科）を担当します。



室長
新田 浩 NITTA Hiroshi

専門医●日本歯周病学会 歯周病専門医
専門分野●総合診療
歯周治療
研究領域●総合診療歯科学
歯周病学
歯科医学教育学

口腔健康管理科

Oral Health Management



Dial-in

● 03-5803-4552

歯科衛生士が主体となり、患者さんが生涯を通じて口腔の健康を保てるよう、患者さん一人ひとりにあった、歯科保健指導と専門的な処置を行います。

● 診療科の概要

歯科衛生士が主体となり、歯科医師・医師・看護師などと連携をとりながら、口腔健康管理を行います。患者さんがう蝕症（むし歯）や歯周病などに困らず、生涯を通じて口腔の健康を保てるよう、一人ひとりの生活習慣や口腔内の状態を把握し、歯科衛生士が歯科保健指導（ブラークコントロール指導、食生活指導、生活指導、口腔機能訓練など）や専門的な処置（歯石除去、機械的歯面清掃、フッ化物塗布など）を行います。

また、口腔外科の手術や放射線治療、化学療法をうける患者さんの周術期口腔健康管理を行っています。

● 取り扱うおもな疾患

う蝕症、歯周病をはじめとする口腔疾患の予防、口腔の機能の維持・増進のための指導・管理のほか、周術期における口腔健康管理を行っています。

● おもな診断・治療法

歯科保健指導：一人ひとりの状態にあった口腔の衛生と機能について、具体的な指導を行います。例えば、歯ブラシ・歯磨剤・清掃補助用具の選択や使用方法の指導、舌・口腔周囲筋や唾液腺のマッサージなどの口腔機能の維持・向上のための指導、生活習慣などの指導を行います。

歯石除去（歯肉線上歯石除去）・機械的歯面清掃：歯肉線上歯石とは、歯と歯肉の境目より上に付着した乳白色の歯石のことです。超音波スケーラーなどの機械を使って、歯周病や誤嚥性肺炎の原因となるブラーク（歯垢）や線上歯石の除去を行います。

フッ化物を利用したう蝕予防：う蝕の予防に効果のあるフッ化物を歯面に塗布することで、歯の質を強くし、う蝕を予防することができます。



科長
竹内 康雄 TAKEUCHI Yasuo

専門医●日本歯科専門医機構認定
歯周病専門医
日本歯周病学会認定
歯周病専門医・指導医
日本歯科保存学会認定
歯科保存専門医
専門分野●歯周病学
口腔保健学
研究領域●歯周病関連細菌叢の解析
歯周光線治療
歯周病と全身との関連

難病診療部 のご紹介



部長
岡本 隆一
OKAMOTO Ryuichi

専門医●日本内科学会認定 総合内科専門医
日本消化器病学会認定
消化器病専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会認定
消化器内視鏡専門医・指導医

専門分野●炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、
クローン病）
特殊内視鏡（小腸バルーン内視鏡、
カプセル内視鏡）
研究領域●炎症性腸疾患の病態と粘膜免疫
腸管の再生医療

難病診療部は「難病のトータルケア」を提供する診療部門として、対象となる疾患(病気)が異なる4つのセンターを運営しています。

「膠原病・リウマチ」「潰瘍性大腸炎・クローン病」「神経難病」「稀少疾患」の4つのセンターそれぞれが、従来の診療科や部門の枠を越えて、複数の診療科と部門が一つのチームとなって診療にあたる体制を整えています。お困りの病気に応じたセンターを受診いただくことで、それぞれの病気のエキスパートと相談しながら、きめ細かい診断と病状に合った治療を受けて頂くことができます。



難病診療部のご紹介

難病のトータルケアを行う難病診療部をご利用ください

東京科学大学病院では、従来から「難病」の治療に積極的に取り組み、多数のエキスパートが診療にあたっています。

難病診療部では、そのノウハウを生かし、難病を持つ患者さん一人一人の心に寄り添い、苦しみや不安を少しでも和らげるよう、複数のエキスパートがチームとなって診療をトータルに進めて行きます。

- 世界的に見ても高度な知識と技術を持った医師が難病診療を担当します。
● 「難病」に関わる全ての診療科の経験豊富な医師が集まり、患者さんの症状に合わせてきめ細かい診療を行います。
● 稀少難病の患者さんを含めて、それぞれの難病を専門とする「センター」を受診することで、正確な診断から始まる適切な診療を受けることができます。

難病診療部の特徴

膠原病・リウマチ
先端医療センター

潰瘍性大腸炎・クローン病
先端医療センター

神経難病
先端医療センター

稀少疾患
先端医療センター

医療機関からの難病診療部の初診事前予約方法（電話またはFAXにてスムーズに受診予約できます。）

① 電話・FAX	難病診療部の受診方法	次の番号に電話または申込書のFAXをお願いします。 (申込書はホームページからダウンロードできます) 受付時間 8:30~17:00 (土日祝日、年末年始12/29~1/3は除く) TEL : 03-5803-4655 (地域連携室 初診予約担当) FAX : 03-5803-0285 (FAX受信は24時間可能) ※時間外、休日等のFAX受信分は翌診療日にご連絡させていただきます。
② 予約日の決定	「外来診療予約票」を原則20分以内にFAXにて返送いたします。	
③ 紹介状 (診療情報提供書)	予約日の前診療日正午までに紹介状をFAXにてご送信ください。	
④ 予約日に受診	当日の持ち物	●紹介状（原本） ●マイナ保険証（マイナンバーカードの健康保険証利用）または資格確認書 ●外来診療予約票 予約時間の45分前までにご来院ください。

※申込書・診療情報提供書のフォーマットはホームページアドレスよりダウンロードできます。なお、診療情報提供書は各医療機関の使用している書式でも結構です。

膠原病・リウマチ先端医療センター

Advanced Clinical Center for Rheumatic Diseases



予約に関して● 03-5803-4655 (地域連携室 初診予約担当)

診療・治療に関して● 03-5803-4587 (膠原病・リウマチ内科)

センターの概要

当センターは、膠原病・リウマチ内科、小児科、整形外科、リハビリテーション部が一体となって、小児から大人まで膠原病や関節リウマチの患者さんに各科の専門医が先端的な治療、個々の患者さんのニーズに合った治療を提供することを目的としています。特に、生物学的製剤などを含む先進的な薬物治療や、効果の高い関節機能再建術に力を注いでいます。



センター長
保田 晋助 YASUDA Shinsuke

潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センター

Advanced Clinical Center for Inflammatory Bowel Diseases



予約に関して● 03-5803-4655 (地域連携室 初診予約担当)

診療・治療に関して● 03-5803-5670 (内科外来)

センターの概要

約5000人以上の炎症性腸疾患の患者さんのケアを担当する国内最大のIBDセンターの一つである当センターでは、「患者さんの腸の状態を適切に判断し治療を行うこと」をモットーに、以下の4つの特長をもつ専門診療を更に充実させていきます。

1. 高度な専門医療を実践しています！
2. 患者さんに負担の少ない検査や治療を心がけ、独自に開発も進めています！
3. 難治の患者さんを積極的に受け入れています！
4. 高い目標を目指し、患者さんと一緒に治療ゴールを決めていきます！



センター長
岡本 隆一 OKAMOTO Ryuichi

神経難病先端医療センター

Advanced Clinical Center for Rare Neurological Diseases

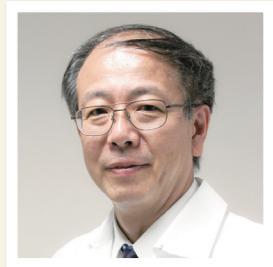


予約に関して● 03-5803-4655 (地域連携室 初診予約担当)

診療・治療に関して● 03-5803-5670 (内科外来)

センターの概要

1. これまでの専門施設とは違います！
完全予約制で、一人一人の患者さんにきめ細かな診療を行っています。
2. 治りにくい患者さんを診ています！
神経難病は根本的治療法がないのが現実ですが、新しい治療を工夫する臨床試験や機能向上を重視した安全・安心な手術により、日常生活動作や生活の質が変わります。
3. 治療のゴールが違います！
単に診療ガイドラインに従った標準的治療には留まらず、常に一步先を行くベストの治療を試みています。



センター長
前原 健寿 MAEHARA Taketoshi

稀少疾患先端医療センター

Advanced Clinical Center for Rare Diseases



予約に関して● 03-5803-4655

センターの概要

1. 稀少疾患の診断拠点です
未診断稀少疾患ニシアチブ（IRUD）拠点病院 (<http://www.tmd.ac.jp/medhospital/>) として、また東京都難病連携拠点病院として、遺伝子診療科と連携しながら、稀少疾患の遺伝子診断にあたっています。
2. 幅広い専門領域をカバーしています
小児科、腎臓内科、呼吸器内科、神経内科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、循環器内科、心臓血管外科、矯正歯科、口腔外科など、様々な領域の診療科から成り立っており、指定難病や小児慢性特定疾患をはじめとする、いわゆる稀少疾患に幅広く対応しています。
3. 先端的治療を展開しています
標準的な治療にとどまらず、大学における未来医療開発コンソーシアムとも連動しながら、常に先端的治療への展開を試みています。



センター長
蘇原 映誠 SOHARA Eisei

がん先端治療部 のご紹介



部長
浜本 康夫 HAMAMOTO Yasuo

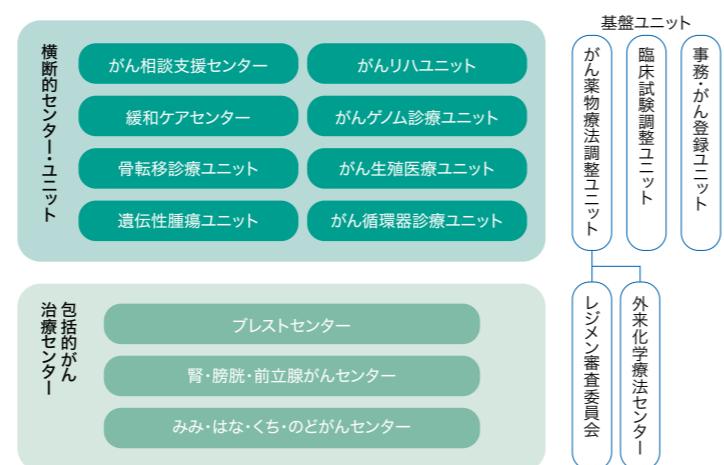
専門医
●日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本消化器病学会 消化器病専門医
専門分野
●腫瘍内科 医療安全 臨床倫理
研究領域
●消化器がん薬物療法 老年腫瘍学
免疫チェックポイント阻害剤に伴う腸炎



がん治療を全診療科で取り組み
早期治療から緩和ケアまで適切ながん医療を提供します。

がん先端治療部のご紹介

がん先端治療部は、腫瘍センターを改組して2019年8月から運用を開始しました。これまでの業務を拡大して、がん診療について横断的に関わる横断的センター・ユニット、臓器別に多診療科が関わる包括的がん治療センター、がん薬物療法やがん登録のマネジメントを行う基盤ユニットの3つの部署にまとめました。診療科の枠を超えて横断的、包括的にがん診療を円滑に行う体制を整えて、患者さんやご家族のニーズに的確にお応えし、適切ながん医療を病院が一丸となって提供できるように心がけてまいります。また3センターを新設し、複数診療科による包括的ながん治療を行います。



医療機関からのがん先端治療部(ブレストセンター、腎・膀胱・前立腺がんセンター、みみ・はな・くち・のどがんセンター)の初診事前予約方法(電話またはFAXにてスムーズに受診予約できます。)

① 電話・FAX	がん先端治療部の受診方法	次の番号に電話または申込書のFAXをお願いします。 (申込書はホームページからダウンロードできます) 受付時間 8:30~17:00 (土日祝日、年末年始12/29~1/3は除く) TEL: 03-5803-4655 (地域連携室 初診予約担当) FAX: 03-5803-0285 (FAX受信は24時間可能) ※時間外、休日等のFAX受信分は翌診療日にご連絡させていただきます。
② 予約日の決定	「外来診療予約票」を原則20分以内にFAXにて返送いたします。	
③ 紹介状 (診療情報提供書)	予約日の前診療日正午までに紹介状をFAXにてご送信ください。	
④ 予約日に受診	当日の持ち物	●紹介状(原本) ●マイナ保険証(マイナンバーカードの健康保険証利用)または資格確認書 ●外来診療予約票
	予約時間の45分前までにご来院ください。	

※申込書・診療情報提供書のフォーマットはホームページアドレスよりダウンロードできます。なお、診療情報提供書は各医療機関の使用している書式でも結構です。

ブレストセンター

Breast Care Center



● センターの概要

女性が罹患する癌の第1位は乳癌であり、未だ罹患者は増加傾向にあります。本センターはこれまで以上に乳癌治療の効率化を図るために設立されました。現在の乳癌治療は、乳腺外科のみで対応するケースは早期乳癌の一部に限られ、大半は複数の診療科による集学的治療により成り立っています。本センターは、乳腺外科、形成外科、放射線診断科、放射線治療科、病理部、乳がん看護認定看護師で構成され、周産・女性診療科、遺伝子診療科、がんゲノム診療科、腫瘍センターとの連携も強化しました。

● 取り扱うおもな疾患

- ・原発性乳癌、葉状腫瘍、線維腺腫、その他乳腺腫瘍
- ・再発乳癌



センター長
有賀 智之 ARUGA Tomoyuki

腎・膀胱・前立腺がんセンター

Advanced Clinical Center for Urologic Cancers



Dial-in

予約に関して ● 03-5803-4655 (地域連携室 初診予約担当)

診療・治療に関して ● 03-5803-5680 (泌尿器科)

● センターの概要

本センターは、泌尿器科(腎泌尿器外科学)、放射線診断科、放射線治療科、病理部で構成されており、前立腺がん、膀胱がん、腎臓がんに焦点を合わせて、先進的な診断、低侵襲治療、機能温存治療(臓器温存治療)を行っています。個々の患者さんに合わせて、適切な医療を提供するために、共同で治療にあたるエキスパートチームです。

● 取り扱うおもな疾患

前立腺がん、腎臓がん、膀胱がん、腎盂・尿管がん



センター長
藤井 靖久 FUJII Yasuhisa

みみ・はな・くち・のどがんセンター

Advanced Clinical Center for Head and Neck Cancer



● センターの概要

当センターは非常に豊富な治療経験を有しています。また、合併症を起こさない医療を心がけているため、日本一入院期間が短く早期退院ができるセンターです。そのため日本全国、また海外からも患者さんが受診されています。

1. みみ・はな・くち・のどにできた全てのがんを診療します。
2. 他院で手術が困難と言われた患者さんにも手術を行っています。
3. 頭蓋底と呼ばれる脳に近い部位のがんの手術経験が豊富です。
4. 非常に稀な外耳道がんの手術経験が豊富です。
5. のどの早期がんに対して内視鏡手術を行っています。

● 取り扱う主な疾患

口腔がん(舌がん、口腔底がん、歯肉がんなど)、のどがん(上咽頭がん、中咽頭がん、下咽頭がん)、喉頭がん、鼻腔がん、上頸がん、外耳道がん、甲状腺がん、耳下腺がん、頸下腺がん、横紋筋肉腫、副咽頭間隙腫がん、頸動脈小体腫瘍など



センター長
朝蔭 孝宏 ASAKAGE Takahiro



各部・センター等 のご紹介

看護部	55	小児緩和ケアチーム	66
薬剤部	55	栄養サポートチーム(NST)	67
検査部	56	医療情報部	67
手術部	56	医療連携支援センター	68
放射線部	57	総合教育研修センター	68
リハビリテーション部	57	国際医療部	69
集中治療部	58	災害危機管理部	69
材料部	58	医師事務支援センター	70
移植医療部	59	保険医療管理部	70
救命救急センター	59	医療安全管理部	71
血液浄化療法部	60	感染制御部	71
快眠センター	60	臨床研究監視室	72
不整脈センター	61	臨床研究中核病院設置準備室	72
MEセンター	61	ヘルスサイエンスR&Dセンター	73
臨床栄養部	62	スポーツサイエンス部門	74
長寿・健康人生推進センター	62	低侵襲医療センター	75
輸血・細胞治療センター	63	メンタルヘルス・リエゾンセンター	75
歯科技工部	63	ベッドコントロールセンター	75
歯科衛生保健部	64	先端近視センター	75
先端歯科診療センター	64	脳卒中センター	76
オーラルヘルスセンター	65	てんかんセンター	76
リプロダクションセンター	65	アレルギー疾患先端治療センター	76
緩和ケアチーム	66		

看護部

Department of Nursing



Dial-in

● 03-5803-5666

医療チームの一員として責任を持ち、
創造性豊かな思いやりのある看護を実践します。

● 部の概要

大学病院内最大数の職員である看護師、助産師、看護補助者約1,200人で構成されています。社会情勢変化と医療を必要とする方々のニーズに主体的、科学的、創造的に応える看護を提供しています。

Patient-centered careを実践の方針に掲げ、生活を支える看護実践として地域と病院をつなぐべく切れ目のないサービス提供を目指しています。専門看護師13名、認定看護師34名、特定看護師19名等の専門分野・領域に特化した技能を発揮する看護師が増える一方で、高度な実践ができる多数のジェネラリストが当院看護部の看護力を保証しています。この力を基礎に全病棟全診療科混合による病床運営を支えています。



部長
井桁 洋子 IGETA Yoko

専門資格●日本看護協会認定 認定看護管理者
専門分野●看護管理

薬剤部

Pharmacy



Dial-in

● 03-5803-5601

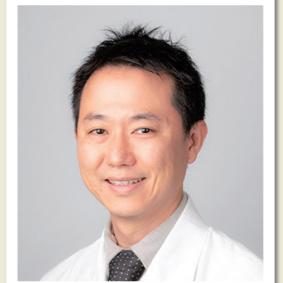
安全で安心できる薬物療法のために、
お薬のある所にはいつも薬剤師が見える病院をめざしています。

● 部の概要

薬剤部では、安全で確実な調剤を基本に、医薬品情報の提供、医薬品の品質・在庫管理、麻薬管理、治験薬管理、院内製剤の調製、抗がん剤のミキシング・レジメン管理、薬物血中濃度モニタリングなどの中央業務を行っています。また、チーム医療では医療安全、感染対策、緩和ケア診療等に参画、更に拡充されたスタッフにより、病棟薬剤師を中心にベッドサイドで持参薬の確認から退院時のお薬まで、安全で安心な薬物療法の提供を使命とし、薬剤部一丸となって業務を行っています。

● おもな診断・治療法

- 服薬指導・退院指導
- 薬物血中濃度測定および血中濃度に基づく体内動態解析
- 中心静脈栄養に用いられる注射剤および抗がん剤の無菌調製
- 各種院内製剤の調製
- 各種医薬品の品質管理試験



部長
永田 将司 NAGATA Masashi

専門資格●日本医療薬学会 医療薬学指導薬剤師
日本臨床薬理学会 指導薬剤師
日本アンチ・ドーピング機構
公認スポーツファーマシスト
専門分野●薬物動態学
臨床薬理学
研究領域●数理モデルを利用した薬物のPK-PD解析
機械学習を用いた薬効・副作用の予測

検査部

Clinical Laboratory

Dial-in

● 03-5803-5624

世界水準の技術に基づいた臨床検査を迅速に行い、高度な診療に貢献します。



部長
佐々木 宏治 SASAKI Koji



● 部の概要

検査部は3階と5階にあり、臨床検査技師、医師、歯科医師、看護師、事務職員で構成され、検体検査、生理検査、採血業務を行っています。検体検査には血球・血液凝固・骨髄、生化学・免疫、遺伝子・細菌、尿・便検査などが、生理検査には心電図、呼吸機能、脳波、筋電図、末梢神経伝導、超音波検査などがあります。検査に関わる情報提供も行っています。当検査部は検査室の国際規格であるISO 15189に認定されており、その水準が世界レベルにあることが保証されています。

● おもな診断・治療法

検体検査の多くは、検体を受け取ってから約1時間で結果をオンライン報告しています。生理検査も速やかに結果を報告しています。これらにより、診療科での適切な診断や治療をサポートしています。

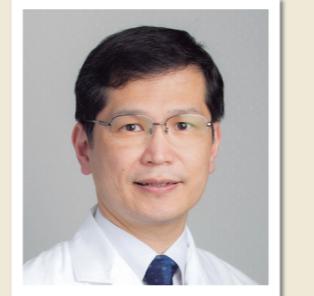
手術部

Surgical Center

Dial-in

● 03-5803-5632

患者さんが安全に、かつ高度な手術治療を安心して受けられる場を提供しています。



部長
内田 篤治郎 UCHIDA Tokujiro



● 部の概要

手術部は、2023年10月にC棟がオープンし、ハイブリッド機能を備えた手術室2室を含む7室の新しい手術室が増設され、A棟手術室11室（うち2室はバイオクリーンルーム）と、D棟手術室3室の手術室が現在稼働しています。医系診療科では外科系19診療科、内科系3診療科の手術が施行され、歯系診療科として、歯科口腔外科等の手術が施行されています。手術件数は、2024年度10,359件となり、重症症例や高難易度手術も診療科と連携しながら安全な手術の場を提供し症例によって術後ICU（集中治療部）で治療を継続する体制も整っています。

● おもな診断・治療法

低侵襲手術、とくに、鏡視下手術、ミニマム創手術、ロボット支援手術に力を入れられており、頭頸部手術、小児外科にも力を入れています。

放射線部

Radiology Center



部長
立石 宇貴秀 TATEISHI Ukihide

● 部の概要

単純X線写真から先進的な画像までの画像診断、さらに放射線を使った侵襲の少ない血管内治療やがん治療を行っています。

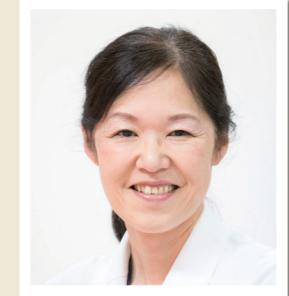
● おもな診断・治療法

診断部門では192列デュアルエナジーCT、PET/CT、3テスラMRI、CBCT、IVRなどを行っています。治療部門では定位照射やIMRTを含む外部照射、腔内照射、口腔がんや前立腺がんの低線量率小線源治療を行っています。

専門医
● 日本医学放射線学会認定
放射線診断専門医
日本核医学会認定 核医学専門医
専門分野
● 画像診断
核医学
研究領域
● 画像医学
分子イメージング

リハビリテーション部

Rehabilitation Center



部長
酒井 朋子 SAKAI Tomoko

● 部の概要

急性期病院においてリハビリテーション治療は、外傷、手術、急性期疾患の治療開始と同時に早期から始めることが、良好な機能回復へつながります。当院では専門性の高い手術治療や重篤な疾患・難治疾患に対する積極的な治療が行われていますが、それぞれの病態に合わせて、リハビリテーション科医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が多職種で参画し、超急性期から、早期離床、早期回復のためリハビリテーションを実行しています。

また、院内の集中治療部多職種回診や呼吸・栄養サポートチーム・排尿ケアチームなどに参画し、活動しています。

● おもな診断・治療法

身体機能評価、標準失語症検査、高次脳機能評価、簡易上肢機能検査、立位バランスの評価（足圧分布測定装置、重心動描計、歩行・動作解析装置、床反力計）、筋量測定、日常生活機能評価（FIM、Barthel Index）など。



専門医
● 日本リハビリテーション医学会認定
リハビリテーション指導医
日本整形外科学会認定
整形外科専門医・リウマチ専門医
専門分野
● 運動器疾患のリハビリテーション
股関節外科
小児リハビリテーション
研究領域
● 脳性麻痺
重症心身障害児（者）

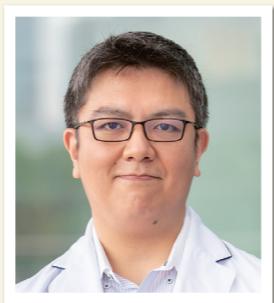
集中治療部

Intensive Care Unit

Dial-in

● 03-5803-5653

多職種連携を基軸としたチーム医療により、院内における最後の砦を守ります。



部長

若林 健二 WAKABAYASHI Kenji

専門医 ● 日本小児科学会認定 小児科専門医
日本集中治療医学会認定
集中治療専門医
専門分野 ● 集中治療医学
研究領域 ● 急性呼吸不全
体外循環
肝不全
病院管理におけるAI活用

● 部の概要

当部では専従医師が24時間常駐し、看護師、薬剤師、臨床栄養士、理学療法士、臨床工学技士などを含む多職種のチームが協力して、一人一人の患者さんの治療にあたっています。日本集中治療医学会認定専門医研修医施設です。人工呼吸器や体外循環装置、血液浄化装置などの高度な医療設備を駆使し、各科専門医師と強力に連携をはかりながら、適切かつ高度な集中治療を提供します。

● おもな診断・治療法

一般病棟で管理されている患者さんの状態が悪化した場合に備え、それを早期に察知できるように当部の医師と看護師が全病棟を回診し、集中治療開始のタイミングを逃さないように努めています。集中治療室内では各種生体監視装置やベッドサイドでの超音波検査により患者さんの心肺機能を迅速に評価し、病状の変化に迅速に対応しています。

材料部

Materials Management

Dial-in

● 03-5803-5658

手術器械、医療材料の適切な管理で医療・看護をサポートします。



部長

久保田 英雄 KUBOTA Hideo

専門分野 ● 神経生理学
医療管理学
研究領域 ● 医療管理
滅菌管理
医療安全

● 部の概要

材料部には滅菌管理部門と物品管理部門があります。滅菌管理部門では手術器械などを洗浄・消毒し、器械の機能性や形状を検査します。そして、器械に適した方法で細菌やウイルスなどを死滅させる滅菌処理を行い各部署へ供給しています。

物品管理部門では医療材料を適材適所、安全かつ効率的に運用できるよう供給管理しています。

● 高度な先進技術

トレーサビリティシステムを構築し、各材料を管理運用しています。

手術器械ではICタグや2次元シンボルを用いて準備履歴と使用履歴を厳密に管理しています。これにより患者さんに使用する個々の器械が、どのように準備され使用されたかを詳細に把握することができます。また、器械のリコールの際に迅速な対応が可能であり、供給する器械の安全性の向上を図っています。

医療材料ではRFIDシールを発行し、どのロット番号の製品がどの患者さんに、いつ使用されたかを記録し、患者さんごとに安全に、適正に使用されるように管理しています。



移植医療部

Department of Transplantation



Dial-in

● 03-5803-5677

～いのちをつなぐ医療の架け橋～

● 部の概要

2025年1月に設立された移植医療部は、「提供部門」と「移植部門」の2つで構成され、臓器移植に関する医療を包括的に担っています。

提供部門では、救急科やドナーコーディネーターが中心となり、脳死判定の適正な実施と臓器提供の質の向上を目指して患者さんの管理を行います。また、全国の院内ドナーコーディネーターへの教育支援も行っています。

移植部門は現在心臓移植に特化しており、移植を待つ患者さんの治療・管理、移植後の免疫抑制剤の調整や生活支援を通じて、安心して日常生活を送れるようサポートします。移植実施時には院内の調整役として、多職種と連携し、安全で円滑な移植医療を支えます。

部長
藤田 知之 FUJITA Tomoyuki

専門医 ● 心臓血管外科専門医
日本外科学会指導医
心臓血管外科専門医
植込型補助人工心臓実施医
日本移植学会移植認定医
日本組織移植学会認定医
日本ロボット外科学会A級ライセンス
専門分野 ● 冠動脈バイパス術
弁膜症手術
胸部大動脈手術
補助人工心臓手術
専門外来 ● 臓器移植外来（心臓）

救命救急センター

Trauma and Acute Critical Care Medical Center



Dial-in

● 03-5803-5102

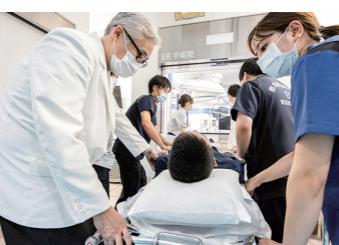
都内屈指の受け入れ体制を目指し全学をあげた取り組みにより、非常に質の高い初期診療と、各専門科が連携した集学的な医療を提供しています。

● センターの概要

24時間365日、高度な医療設備とスタッフを備えて救急医療を提供します。救命救急センターは、生命に危険がある重症な患者さんを救命するために受け入れを行う「国から指定された施設」であり、初期治療から入院後の集中治療にかけてまで、全力を尽くして治療にあたっています。救急初療室の設備・救命救急専用病床、ドクターカー、ヘリポート等を最大限に活用して、各科と連携しながら専門スタッフが救急医療を提供します。

● 取り扱う主な疾患

あらゆる急性期疾患：感染症、外傷、急性腹症、中毒、脳卒中、急性冠症候群など。院内急変にも対応しています。

センター長
森下 幸治 MORISHITA Koji

専門医 ● 日本救急医学会認定 救急科専門医
日本外科学会認定 外科専門医
日本集中治療医学会認定
集中治療科専門医
日本外傷学会 外傷専門医
専門分野 ● 救急医学
災害医学
外傷外科学
集中治療医学
研究領域 ● 重症胸腹部外傷、多発外傷、集中治療に関する臨床研究
災害医療に関する疫学研究

血液浄化療法部

Hemopurification

Dial-in

● 03-5803-5662

体液の異常を是正し、血中の有害物質を除去するために、血液透析をはじめ、血漿交換、吸着療法などの血液浄化療法を行います。

● 部の概要

血液浄化療法部では、尿毒素、免疫複合体や自己抗体、過剰リポ蛋白などの有害物質を、体外循環にて血液から除去する治療を提供しています。慢性腎臓病や自己免疫疾患、末梢動脈疾患などの患者さんに対して、病態に応じて血液透析、アフェレシス療法を行っています。

● おもな診断・治療法

- 透析療法 Dialysis
 - ・ 血液透析 Hemodialysis (HD)
 - ・ オンライン血液ろ過透析 On-line Hemodiafiltration (On-line HDF)
 - ・ 持続的腎代替療法 Continuous Renal Replacement Therapy (CRRT)
 - ・ 腹膜透析 Peritoneal Dialysis (PD)
 - ・ アフェレシス療法 Apheresis
 - ・ 血漿交換 Plasma Exchange (PE)
 - ・ 選択的血漿交換 Selective Plasma Exchange (SePE)
 - ・ 血漿吸着 Plasma Adsorption (PA)
 - ・ 血液吸着 Hemoabsorption (HA)
 - ・ レオカーナ® 治療 Rheocarina



部長
内藤 省太郎 NAITO Shotaro

専門医 ● 日本内科学会認定 総合内科専門医
日本腎臓学会認定 腎臓専門医
日本透析医学会認定 透析専門医
専門分野 ● 腎臓内科
血液浄化療法
研究領域 ● 慢性腎臓病
急性腎障害
血液浄化療法

快眠センター

Clinical Center for Pleasant Sleep

Dial-in

● 03-5803-4587 (3階合同内科外来)

睡眠障害について呼吸器内科医、精神科医、耳鼻科医、歯科医による総合的な医療が可能です。

● センターの概要

医歴学連携のもとに運営される当センターでは、おもに睡眠時無呼吸症候群 (SAS : Sleep Apnea Syndrome) や不眠症等の睡眠障害の診断を行うとともに、CPAP (持続陽圧呼吸療法) 等による睡眠時無呼吸症候群の治療、精神科医による不眠症、睡眠障害の治療を行っております。また軽症～中等症の睡眠時無呼吸症候群でマウスピース療法が適応となる患者さんは、快眠歯科外来で専門歯科医による治療が提供されます。

● おもな診断・治療法

- 【診断】
 - ・ 睡眠時無呼吸症候群 (SAS) : 睡眠中の無呼吸 (10秒以上呼吸が止まる) が1時間に5回以上、1晩に30回以上あることで診断されます。無呼吸の存在は、自宅にて自身で装着し、睡眠中の呼吸や血中の酸素の状態を検査できる簡易型 SAS モニターや、1泊の入院で睡眠中の呼吸運動のみでなく脳波を用いて眠りの深さや質を含めて判定することで、より精密に睡眠時無呼吸を判定できる終夜睡眠ポリグラフィー (PSG) により診断されます。

【おもな治療法】

- ・ CPAP (持続陽圧呼吸療法) : 自宅に専用の機器を設置し、主に鼻に着用したマスクを通して適切な圧力で空気を押し込むことにより、睡眠中に緩んだ喉の筋肉によって喉が塞がれてしまうのを防ぎ、呼吸をサポートします。CPAPを行うと日中の眠気の消失と同時に心疾患の予防や死亡率を減らすことができます。保険診療の適応であり自己負担は3割負担の方で月に約4,500円です。
- ・ マウスピース療法 : いびき症や軽症のSASの方に有効です。スリープスプリントと呼ばれるマウスピースを睡眠中に歯に装着し、下あごを前方に数ミリ突き出して噛み合わせるようにすることで治療します (下あごを上あごよりも前に固定することで気道の面積を広げます)。



センター長
宮崎 泰成 MIYAZAKI Yasunari

専門医 ● 日本呼吸器学会認定 呼吸器専門医
専門分野 ● 呼吸器内科
研究領域 ● 睡眠呼吸障害
呼吸器疾患全般
専門外来 ● 不眠外来
睡眠時無呼吸外来

不整脈センター

Heart Rhythm Center



Dial-in

● 03-5803-5231

不整脈の患者さん一人一人に対して治療効果が高く、安全で質の高い不整脈診療を親身になって実施します。

● センターの概要

本センターは、不整脈で苦しむ方のなかで薬が効かない、効果が不十分、生命の危機がある場合に、
・カテーテル治療>やく植込み型デバイス治療などの治療をより専門的、より効率的に行うためのものです。そのために、附属病院の循環器内科を中心に、小児科、心臓血管外科の3つの診療科の不整脈診療の専門家がセンターのスタッフとして協力して診療にあたります。



● おもな診断・治療法

- ・ カテーテル焼灼術
 - 脈が異常に速くなる頻脈に対して、心臓の特定の部分にカテーテルを介して熱を加えることにより頻脈を根治する治療法です。
 - 当センターでは、放射線被ばくを減少させるための特殊なシステムを用いることにより、より低侵襲なカテーテル焼灼術を施行することも可能です。
 - また、国内で承認されたほとんどの治療機器を使用可能であり、これらを組み合わせて治療を行います。
- ・ <植込み型デバイス治療>
 - 脈が異常に遅くなった場合には、心臓を電気刺激して脈拍を正常化するペースメーカーを皮膚の下に植込みます。この他に2種類の植込み型デバイスがあり、それぞれ突然死 (=心室細動が原因)、心不全の治療に威力を発揮します。



センター長
宮崎 晋介 MIYAZAKI Shinsuke

専門医 ● 日本内科学会認定 認定内科医
日本循環器学会認定 循環器専門医
日本不整脈心電学会認定 不整脈専門医
日本内科学会認定 認定内科専門医
専門分野 ● 不整脈
循環器一般
研究領域 ● 不整脈病態生理解明とそれに基づく治療戦略、侵襲的不整脈治療の研究

MEセンター

Medical Engineering Center



Dial-in

● 03-5803-5659

ME機器の操作及び技術提供に貢献します。

● センターの概要

現在、MEセンターでは臨床工学技士44名が協力し業務を行っております。主な業務は、血液浄化療法部・手術部・高気圧治療部・集中治療部・血管撮影室・ME機器管理部・光学医療診療部・心臓植え込み型デバイスなどの各部門で専門性を活かし、安全な医療を提供できるよう取り組んでいます。また、定期的に院内勉強会を開催し、ME機器の操作指導や技術提供に貢献しています。



● おもな診断・治療法

- ・ 血液浄化療法部：透析療法、アフェレシス療法など
- ・ 手術部：人工心肺、ME機器管理、神経機能モニタリング、ロボット手術関連業務、ハートチーム (TAVI・MitraClipなど)、リード抜去など
- ・ 高気圧治療部：放射線障害、CO中毒、減圧症、突発性難聴、重症感染症、難治性潰瘍、スポーツ外傷など
- ・ 集中治療部：補助循環 (ECMO、IMPELLA、IABP、VAD等)、急性血液浄化、人工呼吸管理など
- ・ 血管撮影室：心臓カテーテル検査・治療、アブレーション、CIEDs植込み、血管内治療など
- ・ ME機器管理部：院内のME機器管理・点検、院内使用中の人呼呼吸器管理、疼痛管理チーム、歯学部関連など
- ・ 光学医療診療部：カプセル内視鏡、内視鏡関連機器管理など
- ・ 心臓植え込み型デバイス：VAD管理・植込み型心臓電気デバイス (CIEDs) 管理など



センター長
倉島 直樹 KURASHIMA Naoki

資 格 ● 臨床工学技士
認定資格 ● 体外循環技術認定士
人工心臓管理技術認定士
専門分野 ● 臨床工学
研究領域 ● 人工心肺
ECMO
血液浄化
抗凝固療法

臨床栄養部

Nutrition Services

Dial-in

● 03-5803-5133

食を通じて治療を支え、
入院生活のQOLの向上と医療に貢献します。



部長
川田 研郎 KAWADA Kenro

● 部の概要

食事を含めた栄養療法は医療の一環であり、全ての治療の根幹です。臨床栄養部では、安全かつおいしい食事を提供し、個々の患者さんの病状に応じた適切な栄養管理の推進と、食事療法が継続できるよう、栄養相談や栄養教室を行っています。「食」を通じて、直接的・間接的に疾患治療を支え、入院生活のQOL向上及び医療に寄与しています。

【臨床栄養管理】

入院栄養管理：患者さん個々に応じた適切な食形態・栄養量の検討、栄養剤や輸液メニューの提案。

病棟カンファレンスへの参加・多職種チーム（栄養サポート・褥瘡・緩和ケアなど）との連携。

栄養相談：入院・外来患者さんを対象に月約390件実施。

栄養教室：糖尿病教室・減塩教室など。

【患者給食管理】

献立を作成し、365日、毎食約600食を提供。

一般治療食、特別治療食を合わせて122食種対応、月に1～3回季節ごとの行事食を実施。

国産の生鮮食材を中心使用し、手作りすることで、家庭的でおいしい食事の提供を心掛けています。

● その他

食事や栄養に関する情報を病院ホームページに公開。

食彩たより：疾患と栄養などをテーマとした栄養情報提供。

Healthyおいしい病院食レシピ：病院食の人気メニューの作り方や治療食へのアレンジ方法を掲載。



長寿・健康人生推進センター

Center for Personalized Medicine for Healthy Aging



Dial-in

● 03-5803-4194

検診を通して予防医療、疾患の早期発見・早期治療で長寿と健康維持に貢献します。

● センターの概要

当センターは、ご入会いただいた方に東京科学大学が一丸となって診療を提供させていただくシステムです。

1. 医科だけでなく歯科においても高度・先端医療を担う東京科学大学病院がベースとなって、病気の予防と健康維持をトータルにサポートするために設置された施設です。会員には健康上のご相談にも応じます。

2. 大学病院ならではの豊富な先端的健診メニューを組み合わせて、個人ごとに適した検診プログラムを提供します。

3. 健康管理ゲノム情報や検診結果に基づき、医師と専門スタッフが重大疾患のリスク予測から生活習慣指導までを徹底サポートします。

4. もし検査結果に異常が見つかれば、院内の専門診療科をご紹介し、さらに詳しい検査や疾患の治療を提供します。

5. 企業等と連携して社員の健康維持をサポートする法人会員制と、一般個人会員制をご用意し、様々な健康相談に応じます。



センター長
宮崎 泰成 MIYAZAKI Yasunari

専門医●日本内科学会認定 総合内科専門医
日本呼吸器学会認定 呼吸器指導医
日本アレルギー学会認定

アレルギー指導医
日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡指導医
日本結核病学会 結核・抗酸菌症認定医

専門分野●間質性肺炎

過敏性肺炎

研究領域●肺線維化の病態解明

専門外来●間質性肺炎外来

輸血・細胞治療センター

Center for Transfusion Medicine and Cell Therapy



Dial-in

● 03-5803-5646

安全性を重視した輸血療法を実施するとともに、
画期的な細胞治療を実践し、
患者さんの期待に応える先進的な医療を提供します。

● センターの概要

当センターは、機能不全になった組織、臓器を補助・再生させる医療である「輸血」「細胞治療」「再生医療」を提供することを目的としています。特に、世界最高水準の再生医療・細胞治療の実用化をめざして設置され、2025年に日本再生医療学会の再生医療認定施設の認定を受けた本院の細胞培養加工施設には、日本再生医療学会認定医、上級臨床培養士、臨床培養士が所属し、治験や臨床研究用細胞の加工を実施するとともに、学内外の有益な再生医療技術の実用化を支援しています。

● おもな診断・治療法

<輸血>

(おもな検査) 血液型検査、不規則抗体検査、交差適合試験、HLA検査

(おもな治療法) 同種血輸血、自己血輸血、自己生体組織接着剤作成術

<再生医療・細胞治療>

・造血幹細胞移植(骨髄、末梢血、臍帯血)

・ヒト(同種)骨髄由来間葉系幹細胞によるGVHDの治療

・キメラ抗原受容体発現T細胞輸注療法(CAR-T療法)

・日和見感染症に対する多ウイルス特異的T細胞治療(小児科など)

・PRP膝関節注射(整形外科)

・PRP股関節注射(整形外科)

・筋・腱・靭帯損傷・障害部へのPRP注射(整形外科)

・自家滑膜幹細胞注射による変形性膝関節症治療(整形外科)



センター長
関矢 一郎 SEKIYA Ichiro

専門医●日本整形外科学会認定 整形外科専門医
日本再生医療学会再生医療認定医
専門分野●再生医療
膝関節外科
研究領域●軟骨・半月板の再生医療
間葉系幹細胞の増殖・軟骨分化
人工膝関節置換術

歯科技工部

Dental Laboratory



Dial-in

● 03-5803-5719

匠の技術とデジタル技術を融合させ、
歯科技工で高度な診療をサポートします。

● 部の概要

歯科技工部では、患者さんのお口の中に装着するセラミッククラウン(冠状の人工歯)、ブリッジ、インプラント上部構造をはじめとして、総義歯(総入れ歯)や部分床義歯(部分入れ歯)などの、多種多様な装置を作製し様々なニーズに応えています。そして、作業工程の最初から装置完成に至るまで、高度な知識と技術を持つ歯科技工士が責任をもって作業を担当し、日々高品質な技工物を製作しています。



部長
金澤 学 KANAZAWA Manabu

専門医●日本補綴歯科学会 専門医・指導医
日本老年歯科医学会専門医
専門分野●補綴歯科学
高齢者歯科学
口腔インプラント学
研究領域●デジタルデンチャー
インプラントオーバーデンチャー
全部床義歯
口腔機能と全身機能
AIを用いた治療機器プログラム

歯科衛生保健部

Department of Dental Hygiene

Dial-in

● 03-5803-5726

口腔保健の立場から患者さんの生活の質 (Quality of life) の向上に寄与します。



部長

足達 淑子 ADACHI Toshiko

認 定●日本咀嚼学会健康咀嚼指導士
日本・アジア口腔保健支援機構
第二種歯科感染管理者
NPO日本歯科保存学会 う蝕予防管理
専門分野●予防歯科学
口腔保健学



● 部の概要

歯科衛生保健部では、歯系15の診療科・専門外来を担当する他、歯系病棟と連携し周術期の口腔健康管理などに携わっています。また、お口の病気の予防と、口腔機能と健康的維持増進をはかる「口腔健康管理科」では、歯科衛生士が主体となり、口腔の健康管理の専門家として、患者さんの口腔への関心を高め、生涯健口かつ健康に生活できるように支援しています。

● 取り組み

- ・歯科衛生士は口腔健康管理の専門家として、歯周病を始めとする歯科疾患の予防だけでなく、周術期の口腔健康管理の充実や口腔ケアを通じた感染予防に積極的に関与しています。また、口腔周囲筋へのトレーニング技術を生かして、睡眠時無呼吸治療やオーラルフレイル予防など超高齢社会への対応も行っています。
- ・1998年より都内の特別支援学校で幼稚部から高等部での口腔健康教育を実践しています。特に幼稚部では、摂食に係る視点での指導も行っています。
- ・厚生労働省補助事業「歯科衛生士に対する復職支援・離職防止措置事業」に採択され、2017年7月より本学病院での臨床実習などで、現場で活躍できる歯科衛生士の育成を目指し研修生のサポートをしています。

先端歯科診療センター

Center for Advanced Interdisciplinary Dentistry



センター長

金澤 学 KANAZAWA Manabu

専 門 医●日本補綴歯科学会 専門医・指導医
日本老年歯科医学会専門医
専門分野●補綴歯科学
高齢者歯科学
口腔インプラント学
研究領域●デジタルデンチャー
インプラントオーバーデンチャー
全部床義歯
口腔機能と全身機能
AIを用いた治療機器プログラム

● センターの概要

1. 高度で専門的な歯科治療を効率的に提供します。
2. 各専門診療科で行っている治療を、複数外来の歯科医師がチームで包括的に行います。
3. 専門医が集結し、特殊な場合を除きセンター内で診療が完結するようにいたします。
4. 「保険診療の枠組みにとらわれない」より良い診療を行いますので、診療全般を自由診療にて行います。

● おもな診断・治療法

- ・各専門分野の担当医がリアルタイムで合議の上、診断と治療計画の提案をするカウンセリング
- ・むし歯や歯周病とともに唾液・舌・粘膜・口臭・咬み合わせの状態を包括的に精査・診断し、早期診断・早期治療および予防の機会をとらえる歯科ドック検診
- ・口腔内スキャナ、ミリングマシンや3Dプリンタ等の歯科用デジタル機器を一同に集めたReal Mode Studio(併設)を活用した、先進的なデジタル機器による歯科診療
- ・生活の質を向上させる、入れ歯とインプラントを組み合わせたインプラント義歯治療
- ・小照射野コーンビームCT(歯科用CT)による高精度な診断のもと、歯科用実体顕微鏡下で最新の機器・材料を用いて行う精密な根管治療
- ・歯周病で失われた骨等の歯周組織の再生を促す歯周組織再生療法
- ・最新の技術と材料を用いた天然歯に近い審美歯冠修復、コンポジットレジンでの低侵襲の審美修復

オーラルヘルスセンター

Oral Health Center



Dial-in

● 03-5803-5593

入院中に発生する口の問題に対応し
口由来の合併症を予防することで早期退院につなげます。



センター長

松尾 浩一郎 MATSUO Koichiro

専 門 医●日本老年歯科医学会 専門医
摂食機能療法専門歯科医師
日本障害者歯科学会専門医

専門分野●高齢者歯科

障害者歯科

研究領域●1. 地域在住高齢者へのオーラルフレイ
ル予防プログラムの開発
2. 要介護高齢者の食事モニタリングシ
ステムの開発
3. 自立高齢者を増やすための革新的食
品提供システムの開発
4. 急性期から回復期における口腔機能
管理システムの構築
5. 多職種連携オーラルマネジメントシ
ステムの開発

リプロダクションセンター

Center for Reproductive Medicine



Dial-in

診療について● 03-5803-5684 (リプロダクションセンター/周産・女性診療科)

予約について● 03-5803-4655 (医療連携支援センター地域連携室)

生殖医療専門医をはじめとする経験豊富なスタッフが、
“今すぐ”または“将来”の妊娠・出産を希望している患者さんに、
確かな情報のもとに患者さん一人一人に適した生殖医療を提供します。



センター長

石川 智則 ISHIKAWA Tomonori

専 門 医●日本生殖医学会認定 生殖医療専門医
日本人類遺伝学会認定
臨床遺伝専門医

日本産科婦人科内視鏡学会認定

腹腔鏡技術認定医

日本産科婦人科学会認定

産婦人科専門医・指導医

日本がん・生殖医療学会認定

がん・生殖医療ナビゲーター

専門分野・研究領域●

生殖医療

生殖遺伝

婦人科低侵襲手術

生殖内分泌

生殖機能温存

緩和ケアチーム

Palliative Care Team



Dial-in

● 03-5803-4122

患者さん、ご家族の苦痛を緩和し、
QOL（生活の質）を向上することを目的として、
多職種からなるチームで連携し、対応します。

● チームの概要

診療科の医師や看護師など医療従事者よりコンサルテーションを受けて、身体および精神的な苦痛の緩和を行っています。患者さん・ご家族はもちろん、医療従事者のニーズに合わせて活動します。

● 多職種連携

緩和ケアに携わる医師・看護師・薬剤師・臨床心理士をコアメンバーとし、MSW、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科医師、CLS（チャイルド・ライフ・スペシャリスト）、など多職種で連携し対応しています。

● 取り扱うおもな疾患

緩和ケアチームで対応するほとんどの患者さんは悪性腫瘍（がん、肉腫、白血病、悪性リンパ腫など）です。これら以外にも非がん疾患（心不全、腎不全、慢性呼吸疾患、神経難病など）の症状緩和にも取り組んでいます。



小児緩和ケアチーム

Pediatric Palliative Care Team

Dial-in

● 03-5803-4122

小児患者さん、ご家族の苦痛を緩和し、
QOL（生活の質）を向上することを目的として、
多職種からなるチームで連携し、対応します。

● チームの概要

診療科の医師や看護師など医療従事者よりコンサルテーションを受けて、身体および精神的な苦痛の緩和を行っています。15歳未満の患者さん・ご家族はもちろん、医療従事者のニーズに合わせて活動します。

● 多職種連携

緩和ケアに携わる医師・看護師・薬剤師・臨床心理士・小児科医師・小児看護の経験のある看護師をコアメンバーとし、CLS（チャイルド・ライフ・スペシャリスト）、MSW、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科医師など多職種で連携し対応しています。

● 取り扱うおもな疾患

緩和ケアチームで対応するほとんどの患者さんは悪性腫瘍（白血病、骨軟部腫瘍、その他の小児がんなど）です。これら以外にも非がん疾患（免疫不全症候群、心不全、呼吸器疾患、神経難病など）や移植を受ける患者さんの症状緩和にも取り組んでいます。



栄養サポートチーム (NST)

Nutrition Support Team

Dial-in

● 03-5803-5133

多職種からなるチームで患者さんの栄養管理を行い、
早期回復をサポートします。

● チームの概要

栄養サポートチーム (NST) は、栄養療法の認定資格を持った医師・管理栄養士・看護師・薬剤師・言語聴覚士・臨床検査技師・歯科医師・歯科衛生士などが協力し、患者さんに適切な栄養管理方法を検討・提案し、栄養管理を通して病状の早期回復に向けて活動しています。

● チームの役割、活動内容

- ・カンファレンスや回診では、多職種による様々な視点から患者さんの栄養状態の評価や栄養計画を立案し、栄養管理のサポートを行っています。
- ・歯科医師・歯科衛生士とも連携し、全介入患者さんに対して口腔内の評価を行っています。
- ・院内スタッフを対象に、栄養に関するセミナーの実施やNST通信の発行、栄養サポートガイドの充実に取り組んでいます。
- ・栄養管理に係る研修施設として、院内外からの研修生を受け入れています。

● NST 対応症例

- ・栄養状態の改善以外にも、経腸栄養内容の検討・輸液プランの立案、周術期栄養管理、創部・褥瘡治癒対策などの栄養サポートに取り組んでいます。



医療情報部

Medical Informatics



Dial-in

● 03-5803-5132

医療情報部では、診療情報システムを
安定稼働・改善するよう中央管理することで、患者さんに
質の高い安全な医療を提供できるよう取り組んでいます。

● 部の概要

診療情報の管理・運用には、セキュリティ対策を含めた適切なシステム導入が必須です。医療情報部では各部署と連携し、医療情報システムの計画的開発・改善に取り組んでいます。

● 取り組み

- ・2025年1月に医科部門と歯科部門のシステムを統合しました。円滑な診療の維持に向けて運用改善に取り組んでいます。また、統合型データウェアハウス (DWH) を構築し、院内の統計業務等をサポートする他、本学データ科学センター (DSC) や疾患バイオリソースセンター (BRC) との連携を行い、当院の医療データの利活用の推進を図り、難病の克服を目指した研究に協力しています。
- ・地域連携システムを用いた外部連携を行っています。同意の得られた患者さんに限り、当院での診療情報を連携医療機関から参照してもらうことができます。診療情報を共有することで、患者さんの診療そのものに役立つとともに、地域医療の拡充にも貢献することを目指しています。



部長

藍 真澄 AI Masumi

専門医 ● 日本内科学会認定 総合内科専門医
日本糖尿病学会認定 糖尿病専門医
専門分野 ● 医療保険制度(保険診療、診療報酬等)
脂質代謝
糖尿病
動脈硬化
臨床検査
研究領域 ● 医療保険制度(教育)
脂質代謝
糖尿病
動脈硬化
臨床検査

医療連携支援センター

Medical Welfare and Liaison Services Center

Dial-in

● 地域連携室 03-5803-4655

医療福祉支援室：
03-3813-6111(代表)からおかけ下さい。
入院支援室：
03-3813-6111(代表)からおかけ下さい。
患者相談室：
03-3813-6111(代表)からおかけ下さい。



地域医療の連携強化と、患者さんが安心して療養できるためのサポートを行っております。

● センターの概要

● 地域連携室

地域連携室では、ご紹介いただいた初診患者さんの事前予約、紹介状の返書管理、患者さんの逆紹介などの連携業務を通して地域医療機関との病診・病病連携を積極的に推進するとともに、安心して紹介いただける環境の構築に取り組んでおります。

● 入院支援室

入院支援室では、入院前オリエンテーションを通じて患者さんが安全かつ安心して入院治療を受けられること・退院後の療養生活を見据えた支援が早期に提供できることを目指しています。入院後もスムーズに元の生活に移行できるよう、院内外の多職種と連携し、在宅療養支援や転院調整を行っております。各病棟に配置されたクラークが、医師・看護師など多職種・他部署と連携し、入院から退院まで円滑な事務手続きをサポートしています。

● 医療福祉支援室

医療福祉支援室では、当院に入院あるいは通院されている患者さんやそのご家族が、適切でより良い療養と社会生活を送れるように社会福祉の立場から、経済的・社会的・心理的問題の解決に向けて共に考え、支援しております。

● 患者相談室

患者相談室では、当院に入院あるいは通院されている患者さんやそのご家族から寄せられる様々なご相談や、ご意見・ご要望などをお受けし、専任の相談員(看護師・事務員・警察OB)が医療者側と患者さんとの対話推進のための支援を行っております。

病院のサービス向上と安全良質な医療の提携のため、関連部署と連携し協力して取り組んでおります。

総合教育研修センター

Professional Development Center

Dial-in

● 03-5803-4581 (医科教育研修部門)

● 03-5803-5414 (歯科教育研修部門)

● 03-5803-4731 (特定行為実践教育部門)

● 03-5803-4349 (歯科衛生士総合研修部門)



全国でも人気の高い臨床研修教育で、
安全高度な医療と先端的研究を担う医療人を育成します。

● センターの概要

総合教育研修センターは医科教育研修部門、歯科教育研修部門、臨床実習管理部門、特定行為実践教育部門、歯科衛生士総合研修部門を擁する大学病院の教育研修部門です。医科教育研修部門および歯科教育研修部門では、当院の医師臨床研修プログラム、歯科医師臨床研修プログラムの企画運営や、研修医・研修歯科医の募集及び採用に関するなどを取り扱い、臨床実習管理部門では、臨床教育に関して学外の病院との連携や病院における卒前教育の調整、支援に関しても取り組んでいます。

また、特定行為実践教育部門では、看護師の特定行為研修のプログラム運営、歯科衛生士部門では歯科衛生士の生涯教育プログラム運営を担当しています。この他、病院職員研修の企画立案運営も行っており、病院における臨床教育の実施を推進しています。



センター長
田村 郁 TAMURA Kaoru

専門医 ● 日本脳神経外科学会認定
脳神経外科専門医・指導医
日本脳卒中学会認定
脳卒中専門医・指導医
日本がん治療認定医機構認定
がん治療認定医
日本神経内視鏡学会認定
神経内視鏡技術認定医

専門分野 ● 脳神経外科学
脳腫瘍の外科治療・集学的治療

研究領域 ● 脳腫瘍の病態解明
新規治療法開発

国際医療部

International Health Care Department



Dial-in

● 03-5803-5650

急速に増加している在留および訪日外国人患者を中心には、受診の際は患者さんとご家族、そして病院スタッフへの安心の提供に努めています。

● 部の概要

東京都には現在約75万人以上(2025年7月時点、都内全人口の約5%)の在留外国人の方が暮らしています。新型コロナウイルス感染症の影響で減少していたものの、入国制限の緩和などにより増加傾向にあり、当院を受診する外国人患者さんについても、月あたり約700人(2024年度平均)いらっしゃいます。国際医療部は外国人診療に伴う言語、文化、在留資格の違いによる様々な問題を解決するために、患者さんとご家族が安心して診療を受けられるよう、そして病院スタッフが円滑に医療サービスを提供できるよう、効果的なサポートを行うことを目的として開設いたしました。臨床現場での医療通訳業務だけでなく、日本の外国人診療のモデル病院になるべく、病院スタッフや外部機関に対する研修や教育・研究にも一層尽力して参ります。



部長
岡田 順也 OKADA Takuya

専門医 ● 日本外科学会 専門医
日本消化器内視鏡学会 指導医
日本消化器外科学会 専門医

専門分野 ● 外科
消化器疾患
消化器内視鏡

使用言語 ● 日本語
英語
スペイン語

災害危機管理部

Department of Disaster and Crisis Management



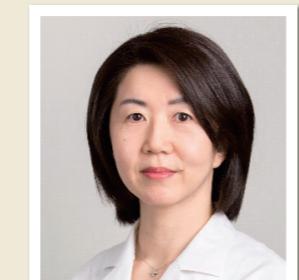
Dial-in

● 03-5803-5990

首都東京の中心部に位置する災害拠点病院としての責務を果たすために、院内外の関連諸機関の皆様と連携しながら、オールハザードへの対策を進めて参ります。

● 部の概要

2018年11月1日に多職種(医師、看護師、事務職員、救命士)の人員を集め、病院長直轄の組織として前身の「災害テロ対策室」が発足いたしました。その後、新型コロナウイルス対応、能登半島地震への派遣を経て、2024年4月1日に『災害危機管理部』へ改組となりました。当院は首都東京の中心部に位置する災害拠点病院であるため、近い将来に発生が予想されている首都直下型地震への対応はもちろんのこと、メガシティ東京ならではのテロ事案を含む多数傷病者事案への対応も重要であると考えております。これらを含む全ての災害(オールハザード)に対して、当院が医療の中心的役割を担うことができるよう、関係者の皆様と協力しながら、対策を構築して参ります。



センター長
岡田 英理子 OKADA Eriko

専門医 ● 日本国内科学会認定 総合内科専門医
日本消化器病学会認定
消化器専門医
日本消化器内視鏡学会認定
消化器内視鏡専門医
日本医学教育学会認定
医学教育専門家

専門分野 ● 医学教育
消化器内科

研究領域 ● 臨床医学教育



部長
植木 穂 UEKI Yutaka

専門医 ● 日本救急医学会認定 救急科専門医
専門分野 ● 救急医学
災害医学

研究領域 ● 災害医療に関する疫学研究

医師事務支援センター

Doctor's Assistant Support Center



センター長
大野 京子 OHNO-MATSUI Kyoko

専門 医●日本眼科学会認定 眼科専門医
専門分野●網膜・視神経疾患
強度近視

医師事務作業補助者の管理体制を強化し、医師の業務効率化をサポートします。

● センターの概要

これまで当院では、60名程度の医師事務作業補助者を病院事務部の所属としながら各診療科へ配置していたため、業務内容の把握や平準化、適正配置等の有効な管理が行われておらず課題がありました。各人の業務把握やフォローモードの整備等、適切な管理をすることで、勤務環境の向上および業務の効率化を図ることを目的に、2025年8月1日より当センターを設置しました。

● 取り組み

医師事務作業補助者の業務把握や平準化、スキルアップのための教育制度の構築や定期異動を含めた適正配置の見直し等、全医師事務作業補助者が自身の能力を発揮できる体制整備に努め、医師の負担軽減によるさらなる働き方改革の促進と、医師が診療に専念できる環境の確保によって病院稼働の向上にも貢献できるよう取り組んでいきます。

保険医療管理部

Department of Insured Medical Care Management



部長
藍 真澄 AI Masumi

専門 医●日本内科学会認定 総合内科専門医
日本糖尿病学会認定 糖尿病専門医
専門分野●医療保険制度(保険診療、診療報酬等)
脂質代謝
糖尿病
動脈硬化
臨床検査
研究領域●医療保険制度(教育)
脂質代謝
糖尿病
動脈硬化
臨床検査

Dial-in
● 03-5803-5903

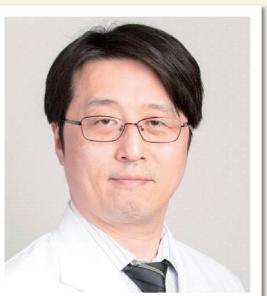
職域を超えたチームワークで
適切な診療報酬請求をサポートします。

● 部の概要

社会保険医療に関する法令や制度は多岐にわたり、特に診療報酬に関しては詳細にルールが定められ、必要書類等の管理が求められています。保険医療管理部では、これらについて全職員に対する継続的な教育・啓発活動を行うとともに、医療者と診療報酬請求事務部門の連携を図るハブの役割を担うことにより、適切な診療報酬請求をサポートします。

医療安全管理部

Department of Clinical Quality and Safety



部長
工藤 篤 KUDO Atsushi

専門 医●国立大学医療安全管理協議会幹事会
幹事、QIワーキンググループ長
日本医療安全学会 理事
日本医療の質・安全学会 代議員
日本医療安全推進会 代議員
医療機関・弁護士及び裁判所協議会
医科幹事会 委員
医療界と法曹界の相互理解のためのシンポジウム
プロジェクトチームメンバー
日本肝胆脾外科学会
評議員・高度技能専門医
日本消化器外科学会
評議員・専門医・指導医
日本胰臓学会 評議員・指導医
日本遺伝性腫瘍学会 評議員
日本外科学会 専門医・指導医
肺・消化管神経内分泌腫瘍
診療ガイドライン委員
専門分野●医療安全学 肝胆脾外科学
研究領域●網羅的遺伝子解析
医療安全指標の開発

医療の質を向上させ、
医療事故を防止できるシステム創りを続けています。

● 部の概要

医療は日進月歩であり、新しい技術や治療薬が絶え間なく誕生し、それに伴うルールも変化します。過去の常識は今の常識ではありません。当部門は、当院で提供した一つ一つの医療行為の品質が当院の基準を満たすかを日々分析し、病院全体で共有する新しいルールを更新しています。一つの医療行為に対する全職員の真摯な振り返りや改善への気づきを取りまとめ、現状に甘えない高品質の医療を提供するためのシステムを作ることで、日本全国の医療安全意識の向上に貢献します。当部門は多職種、多診療部門の医療者で構成されており、患者さんの安全が脅かされるような事例が起きた場合には、担当医の専門的な視点だけではなく、場合によっては外部の専門家を招いて分析することで客観性を担保します。得られた教訓は未来の医療のために、院内で共有しています。

感染制御部

Division of Infection Control and Prevention



部長
具 芳明 GU Yoshiaki

Dial-in
● 03-5803-5398

医療関連感染の予防、抗菌薬適正使用、感染発生時の速やかな対応、教育活動など、感染制御を通じた良質な医療の提供を推進します。

● 部の概要

感染制御部は感染対策の教育、薬剤耐性菌防止対策、抗菌薬適正使用の推進、医療関連感染症サーベイランスの実施、病棟ラウンド、新興・再興感染症対策、院内での感染症発生時の対応、職業感染対策(医療者の業務に関連した感染の予防)など、様々な活動を行っています。

● 高度な先進技術

検査部及び大学院医歯学総合研究科ウイルス制御学、ハイリスク感染症研究マネジメント学、微生物・感染免疫解析学のご協力を頂きながら、分子疫学解析や臨床微生物学的な検討を行っています。これらの情報をもとに診療現場に迅速なフィードバックを行い、積極的な感染制御活動を推進しています。



ICTラウンド風景



ICTラウンド風景



PPE着脱訓練

専門 医●日本内科学会認定 総合内科専門医
日本感染症学会認定 感染症専門医
ICD制度協議会認定 インフェクション
コントロールドクター (ICD)
専門分野●臨床感染症
感染制御学
研究領域●臨床感染症
抗菌薬適正使用
感染症疫学

臨床研究監視室

Clinical Research Monitoring Office

Dial-in

● 03-5803-4170

新規治療法の臨床応用を目的とする有効性、
安全性の適正評価のため、
臨床研究監視体制の機能強化を図っていきます。

● 室の概要

臨床研究監視室は、当院内で行われる臨床研究が適切に運営されるよう監視する目的で、平成27年8月に設置されました。当室では、臨床研究監視委員会を月一回開催して、臨床研究の進捗状況や安全管理状況、有害事象発生の有無などを確認し、状況に応じて研究責任者に意見書を発出しています。具体的には、臨床研究に関連する審査委員会（臨床研究審査委員会、治験等審査委員会、医学系倫理審査委員会、歯学系倫理審査委員会等）における研究実施報告書類等と医療安全管理部から上がってくる死亡退院事例、レベル3b以上の事例を突合させ、臨床研究が適正に実施されているか協議を行っています。



室長
藍 真澄 AI Masumi

専門医 ● 日本内科学会認定 総合内科専門医
日本糖尿病学会認定 糖尿病専門医
専門分野 ● 医療保険制度（保険診療、診療報酬等）
脂質代謝
糖尿病
動脈硬化
臨床検査
研究領域 ● 医療保険制度（教育）
脂質代謝
糖尿病
動脈硬化
臨床検査

臨床研究中核病院設置準備室

Clinical Research Core Hospital Project Office

Dial-in

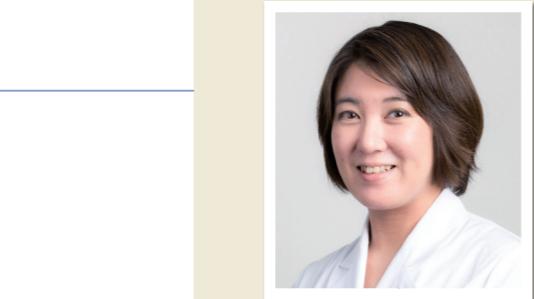
● 03-5803-5466

当院の治験・臨床試験の実施体制の整備に関わる
様々な活動を行っています。

● 室の概要

「臨床研究中核病院」とは、日本発の革新的医薬品・医療機器等の開発を推進するために、国際水準の臨床研究等の中心的役割を担う病院として、平成27年より医療法上に位置づけられている病院のことです。当院ではこの「臨床研究中核病院」の認定を目指し掲げており、臨床研究中核病院設置準備室では、認定要件のクリアを目指して、当院の治験・臨床試験の実施体制の整備に関わる様々な活動を行っています。

治験・臨床試験の推進のため、医療者に向けた研修プログラムを企画・実施しています。また、医師・歯科医師が新しい治験・臨床試験に取り組みやすくなるような助成制度の立ち上げ等も行っています。大学病院の役割として先進的な医療を提供するにあたり、患者さんに安心して治験・臨床試験に参加していただけるような体制の整備を進めています。当院では、現在は医師・リサーチ・アドミニストレーター（URA）各1名、事務職員2名で活動しています。患者さん・ご家族が安心して治験・臨床試験に参加していただけるような病院を目指し、患者さんの相談窓口や、治験・臨床試験に関する情報提供の場の整備も行ってまいります。



室長
石黒 めぐみ ISHIGURO Megumi

ヘルスサイエンスR&Dセンター

Health Science Research and Development Center (HeRD)



東京科学大学病院のARO部門として、
臨床研究の支援を行います。

● センターの概要

AROとは Academic Research Organization の略で、医療機関内で所属する医師歯科医師および研究者による臨床研究に関連する業務を支援する部門を指し、世界の有力病院は例外なく強力な ARO を擁しています。従来当院には、主に治験実施の支援を行う臨床研究コーディネーター（CRC）を配置した臨床試験管理センターが設置されていました。いっぽうで臨床研究の立案や計画作成、調整業務などを支援する組織として、2015年に統合研究機構に医療イノベーション推進センター（2023年にヘルスサイエンス R&D センターに改称）を設置しました。両組織とも ARO の機能の一部であることから、2024年10月より病院内組織として統合することになりました。

新生 HeRD は臨床研究の計画や実施調整を担うプロジェクトマネジメント、研究データの管理を行うデータマネジメント、実際に治験をはじめとする臨床研究実施の支援を行う CRC を配置するリサーチコーディネートなどの部門に分かれ、研究計画ごとに必要な支援業務を実施します。今回の統合を機に、特に本学研究者による研究成果を実用化するための支援体制強化を目指していきます。

これからの大病院は質の高い医療を提供するだけでなく、医歯学の進歩に直結する技術の開発や診療ガイドラインの根拠となるデータの構築などに貢献していく必要があります。東京科学大学のすべての教職員の皆様に HeRD の存在と役割を理解していただき、convergence science を基盤として医歯学の進歩や発展への貢献を目指して HeRD を活用していただけることを期待しております。



センター長
小池 龍司 KOIKE Ryuji

専門医 ● 日本内科学会認定
総合内科専門医
日本リウマチ学会認定
リウマチ専門医
日本感染症学会認定
感染症専門医
専門分野 ● 内科学
膠原病内科学
感染症学
臨床免疫学
研究領域 ● リウマチ性疾患や感染症の診断と治療
レギュラトリーサイエンス

脳卒中センター

Stroke Center



Dial-in

- 03-5803-5102

● センターの概要

- 当脳卒中センターは救急科、脳神経内科、脳神経外科、血管内治療科で構成されています。これらの専門医が合同治療チームを形成し、一つのチームとなって治療にあたります。
- 個々の患者さんの病状に応じ、有効かつ侵襲の少ない方法で高度な急性期治療を行います。
- 内科治療、開頭手術、血管内手術、内視鏡手術など、各科のエキスパートがそれぞれの豊富な経験と高度な技術を集約して治療を行います。
- 手術部、麻酔科、放射線科、リハビリテーション部、医療連携支援センターなどの関連部門と緊密に連携し、急性期から回復期まで、滞ることなく脳卒中の専門治療を行います。
- 当院の専門医数
救急専門医 13名／神経内科専門医 32名／脳神経外科専門医 17名（指導医 7名）／脳神経血管内治療専門医 4名（指導医 2名）／脳卒中専門医 17名
- 当院は東京都脳卒中急性期医療機関、一次脳卒中センターコア施設に認定されています。

当センターでは発症数時間以内の急性期脳卒中およびこれを疑う救急搬送患者さんを24時間体制で受け入れています。また専門治療を目的とした医療機関からの転院搬送も積極的に受け入れています。急性期脳卒中が疑われる場合は、当院救命救急センター（03-5803-5102）へお問い合わせの上、救急車で搬送して下さい。



てんかんセンター

Epilepsy Center



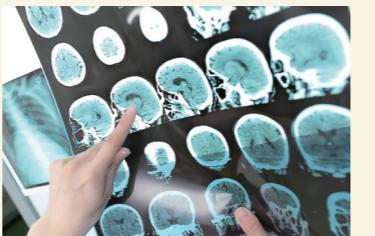
予約に関して ● 03-5803-4655 (地域連携室 初診予約担当)

診療・治療に関して ● 03-5803-5676 (脳神経外科外来)

● おもな診療科

脳神経内科	三澤 園子	検査部	叶内 匠
精神科	高橋 英彦	脳神経外科	前原 健寿
小児科	高木 正稔	救命救急センター	森下 幸治
集中治療部 (ICU)	若林 健二		

当センターでは、てんかん治療に難渋しているかかりつけ医の先生からのご紹介やてんかん外科治療についてのご相談、救急の現場からのフォローアップなどに対応し、総合的なてんかん診療を行います。左記までお気軽にお問い合わせください。



アレルギー疾患先端治療センター

Center for Advanced Allergy Therapeutics



Dial-in

- 03-5803-5679 (皮膚科外来)

- 03-5803-4655 (初診事前予約担当)

● センターの概要

アレルギー疾患は呼吸器・鼻・眼・皮膚・消化器など全身に症状が出る疾患です。当センターでは、内科・小児科・皮膚科・耳鼻咽喉科のアレルギー専門医が横断的に密接に協力して総合的にアレルギー疾患を治療してまいります。それにより、全身のアレルギー疾患を同時に根本から治療することができます。



センター長
宮崎 泰成 MIYAZAKI Yasunari

病院事務部

Hospital Administration Department

Dial-in

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| ● 03-5803-5097 (病院総務課) | ● 03-5803-5399 (病院労務課) |
| ● 03-5803-5107 (病院管理課) | ● 03-5803-4759 (病院経営企画課) |
| ● 03-5803-5127 (医事一課) | ● 03-5803-4744 (医事二課) |
| ● 03-5803-5874 (医療支援課) | ● 03-5803-5137 (医療品質管理課) |
| ● 03-5803-4391 (医療連携課) | |

専門職のチーム医療をサポートし、患者さんに喜ばれ、社会に貢献し続ける最先端の病院を目指します。

● 部の概要

● 病院総務課

病院総務課は、病院組織に係る事務の取りまとめを行う部署です。病院の運営に関する会議の庶務や広報、落とし物の管理等多岐にわたる業務を担当しております。病院内外からの様々な要望に対して誠実に対応し、スムーズな運営が図られるように日々努力しています。

● 病院労務課

病院労務課は、医師・医療職員等の労働時間管理の総括、職員研修・臨床研修・特定行為研修等の教育や研修に関する事務を行なう部署です。良質な医療サービスを効率的に提供する体制確保のために、病院で働く職員の職場環境改善の他、職員への教育や研修を通じた医療の質の向上に取り組んでいます。

● 病院管理課

病院管理課は、病院の管理運営を掌握する部署です。その主な業務は病院における医療機器、医薬品、診療材料等の購入及び管理支援を行なっています。また、病院スタッフ、病院を利用される患者さん及びご家族に安全で快適な環境を提供するために病院施設・設備の維持管理も併せて行なっています。患者さんに安心・安全で良質な医療を提供し、社会から信頼されつづける病院となるよう日々努力しています。

● 病院経営企画課

病院経営企画課は病院の運営方針・経営戦略等の検討を行う部署です。高度な医療・良質な医療サービスを提供するための新しい企画の立案・実施に取り組むとともに、経営に関する様々なデータの収集・分析を行い、病院の経営判断や意思決定のサポートをしています。

● 医事一課

● 医事二課

医事一課・医事二課は、国で定められた法令や制度等に基づき適切な診療費請求を行なっています。特に窓口において患者さんと接することが多い課であることから、いつでも良質な接客ができるよう心掛けて業務にあたっております。来院される患者さんすべてが安心して受診でき、且つ癒しをご提供できるような病院を目指し、スタッフ一丸となって日々努力しています。

● 医療支援課

医療支援課は、病院に関する医療法等に基づく諸手続きや虐待対応に関する事務、診療録の管理・開示手続きのほか、救命救急センター、がん先端治療部、長寿・健康人生推進センターの事務等、幅広く業務を行なっています。

● 医療品質管理課

医療品質管理課は、医療安全管理部・感染制御部の事務等の業務を行なっています。医療における安全管理、院内の感染防止対策を通じて、病院の医療の質向上に取り組んでいます。

● 医療連携課

医療連携課は、前方・後方連携の強化、病棟業務の補助及び入院支援、療養支援に関する業務を行なっています。医師、看護師、ソーシャルワーカー等と協力の上、より良い医療の提供が行えるよう取り組んでいます。



部長

秋葉 泰樹 AKIBA Yasuki

施設整備・経営戦略担当部長

高砂 健介 TAKASAGO Kensuke

次長

高橋 宗久 TAKAHASHI Munehisa

次長

間島 秀明 MASHIMA Hideaki

病院総務課長

遠藤 慎也 ENDO Shinya

病院労務課長

佐藤 奈生 SATO Nao

病院管理課長

渡邊 剛志 WATANABE Takeshi

病院経営企画課長

平野 秀紀 HIRANO Hideki

医事一課長

岩瀬 英一 IWASE Eiichi

医事二課長

磯部 敦志 ISOBE Atsushi

医療支援課長

上村 七奈 KAMIMURA Nana

医療品質管理課長

三好 直子 MIYOSHI Naoko

医療連携課長

坂口 奈美 SAKAGUCHI Nami

Message

事務部門は、病院総務課、病院労務課、病院管理課、病院経営企画課、医事一課、医事二課、医療支援課、医療品質管理課、医療連携課の九部署で構成されています。我々事務職員は、医師や歯科医師、看護師をはじめとする様々な専門職の医療を支えるチームの一員として、それぞれの役割を自覚し、質の高い医療を提供できる最先端の病院を目指し、大学病院としての使命を果たせるように努力しています。



1

診療科別患者数

(医系)	診療科別患者数						
	入院				外来		
	新入院患者数	退院患者数	入院患者延数	平均在院日数	新来患者数	外来患者延数	一日平均患者数
(単位)	人	人	人	日	人	人	人
内科 (血液内科) (膠原病・リウマチ内科) (糖尿病・内分泌・代謝内科) (腎臓内科) (総合診療科) (消化器内科) (循環器内科)	4,193	4,226	52,903	11.6	4,040	142,149	585.0
脳神経内科	680	701	11,673	15.9	807	16,997	69.9
呼吸器内科	1,063	1,072	12,263	10.5	1,019	29,254	120.4
小児科	1,073	1,073	10,853	9.1	936	14,863	61.2
精神科 (心身医療科含む)	320	338	13,021	38.6	456	17,348	71.4
外科 (食道外科) (胃外科) (大腸・肛門外科) (肝胆膵外科) (乳腺外科) (末梢血管外科) (小児外科)	2,377	2,391	28,003	10.7	1,520	36,669	150.9
脳神経外科	480	546	11,114	20.6	552	10,452	43.0
血管内治療科	397	397	3,667	8.2	156	2,458	10.1
心臓血管外科	210	222	5,306	23.5	130	3,290	13.5
呼吸器外科	344	358	4,038	10.5	195	3,337	13.7
整形外科	1,488	1,551	23,575	14.5	2,714	40,396	166.2
皮膚科	704	699	5,728	7.2	1,692	19,609	80.7
形成・美容外科	272	288	2,316	7.2	406	4,746	19.5
泌尿器科	1,323	1,332	13,727	9.3	953	25,853	106.4
眼科	1,722	1,710	5,972	2.5	2,298	40,033	164.7
耳鼻咽喉科 (頭頸部外科含む)	1,093	1,092	11,639	9.7	2,403	34,341	141.3
周産・女性診療科	1,328	1,329	9,322	6.0	1,251	23,799	97.9
放射線治療科	42	42	450	9.7	121	14,557	59.9
放射線診断科					7	1,384	5.7
麻酔・蘇生・ペインクリニック科					41	3,898	16.0
救急科【ER-ICU,ER-HCU,一般】	1,272	942	12,506	10.4	6,467	7,797	32.1
遺伝子診療科					66	684	2.8
緩和ケア科					8	530	2.2
がんゲノム診療科	10	10	129	11.9	39	699	2.9
集中治療部					285	574	2.4
長寿・健康人生推進科					121	1,254	5.2
感染症内科	201	209	3,417	15.6	28	4,308	17.7
臨床腫瘍内科	145	151	1,806	11.2	60	1,403	5.8
ICU			(4,515)				
ER-ICU			(4,725)				
ER-HCU			(5,851)				
HCU			(2,646)				
NICU			(1,458)				
PCU(緩和ケア病棟)			(4,314)				
合計	20,737	20,679	243,428	10.8	28,771	502,682	2,068.7

※ ICU, ER-ICU, ER-HCU, HCU, NICU, PCU(緩和ケア病棟)の患者数は各診療科の内数

診療科別患者数

1

歯系	診療科別患者数							
	入院		外来					
	新入院患者数	退院患者数	入院患者延数	平均在院日数	新来患者数	外来患者延数	一日平均患者数	(単位)
	人	人	人	日	人	人	人	人
歯科 (むし歯科) (歯周病科) (義歯科) (口腔インプラント科) (摂食嚥下リハビリテーション科) (歯科麻酔科) (歯科身心医療科) (歯科放射線科) (歯科総合診療科) (口腔健康管理科)	479	480	46	1.0	18,535	220,115	909.5	
矯正歯科	0	0	0	0.0	2,056	42,098	174.0	
小児歯科	50	50	0	1.0	1,116	10,819	44.7	
歯科口腔外科	1,800	1,814	10,039	6.0	6,936	54,228	224.1	
合計	2,329	2,344	10,085	5.7	28,643	327,260	1,352.3	

患者数の推移										
歯系	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
	入院患者延数	238,996	245,239	238,022	239,296	167,662	179,073	200,988	233,678	243,428
	外来患者延数	570,969	555,861	549,118	541,451	443,684	477,827	499,254	501,100	502,682
合計	809,965	801,100	787,140	780,747	611,346	656,900	700,242	734,778	746,110	
歯系	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
	入院患者延数	17,054	16,146	16,228	14,534	11,077	11,267	11,746	13,164	12,429
	外来患者延数	436,058	421,853	401,076	387,340	246,043	300,907	315,719	327,281	327,260
合計	453,112	437,999	417,304	401,874	257,120	312,174	327,465	340,445	339,689	
入院平均在院日数										
歯系	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
	入院平均在院日数	11.78	11.82	11.23	10.8	11.12	10.92	10.64	10.65	10.77
	入院平均在院日数	8.68	8.25	7.87	7.48	8.86	6.87	6.38	6.15	5.65
歯系	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
	入院平均在院日数	8.68	8.25	7.87	7.48	8.86	6.87	6.38	6.15	5.65
	入院平均在院日数	8.68	8.25	7.87	7.48	8.86	6.87	6.38		

診療科別患者数

1

患者数	受診区分		搬送区分			Drカーアウト件数
	外来受診	外来受診後入院	救急車	ホットライン	その他	
11,556	8,267	3,289	7,547	1,305	2,704	620

地域別患者数					
入院患者数		外来患者数			
地域別	入院実人数	占有率 (%)	地域別	外来実人数	占有率 (%)
23区内	9,819	62.5%	23区内	49,677	60.1%
その他都内	1,306	8.3%	その他都内	7,349	8.9%
埼玉県	1,920	12.2%	埼玉県	9,647	11.7%
千葉県	1,312	8.4%	千葉県	7,859	9.5%
神奈川県	720	4.6%	神奈川県	4,619	5.6%
茨城県	219	1.4%	茨城県	1,147	1.4%
その他	416	2.6%	その他	2,291	2.8%
北海道	13	0	北海道	68	0
東北	63	0	東北	323	0
その他関東	74	0	その他関東	467	0
中部・北陸	174	0	中部・北陸	922	0
近畿	40	0	近畿	245	0
中国・四国	29	0	中国・四国	135	0
九州・沖縄	23	0	九州・沖縄	131	0
合 計	15,712		合 計	82,589	

入院患者数		
地域別	入院実人数	占有率 (%)
23区内	1,288	58.4%
その他都内	249	11.3%
埼玉県	289	13.1%
千葉県	161	7.3%
神奈川県	144	6.5%
茨城県	20	0.9%
その他	55	2.5%
北海道	2	
東北	4	
その他関東	13	
中部・北陸	30	
近畿	4	
中国・四国	0	
九州・沖縄	2	
合 計	2,206	

外来患者数		
地域別	外来実人数	占有率 (%)
23区内	32,529	56.9%
その他都内	6,380	11.2%
埼玉県	7,520	13.2%
千葉県	4,444	7.8%
神奈川県	4,214	7.4%
茨城県	731	1.3%
その他	1,312	2.3%
北海道	24	
東北	133	
その他関東	361	
中部・北陸	524	
近畿	147	
中国・四国	44	
九州・沖縄	79	
合 計	57,130	

臨床検査件数

2

臨床検査件数								
区分	入院			外来			合計	
	院内	院外	合計	院内	院外	合計		
一般検査	19,682	250	19,932	103,205	43	103,248	123,180	
血液検査	303,382	649	304,031	448,988	660	449,648	753,679	
細菌検査	15,262	1,367	16,629	8,442	2,513	10,955	27,584	
血清検査	128,511	18,147	146,658	476,949	77,848	554,797	701,455	
臨床化学検査	1,247,890	8,449	1,256,339	2,859,353	29,511	2,888,864	4,145,203	
生理機能検査	10,120	0	10,120	57,675	0	57,675	67,795	
採血・採液等	116,946		116,946	249,873		249,873	366,819	
合 計	1,829,623	32,007	1,861,630	4,179,105	122,659	4,301,764	6,163,394	

臨床検査件数の推移（外来）									
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合 計	4,123,099	4,108,153	4,151,111	4,186,763	3,574,773	3,944,697	4,116,623	4,301,764	4,315,060



3

病理検査件数

病理検査件数							
医系 区分	入院			外来		合計	
	院内	院外	合計	院内	院外		
組織診断	6,822		6,822	7,304		7,304	14,126
細胞診断	1,861		1,861	6,453		6,453	8,314
術中迅速診断	728		728	42		42	770
病理解剖	7	3	10	6		6	16
合 計	9,418	3	9,421	13,805	0	13,805	23,226

歯系 区分	入院			外来		合計	
	院内	院外	合計	院内	院外		
組織診断	648		648	1,132		1,132	1,780
細胞診断	0		0	13		13	13
術中迅速診断	15		15	0		0	15
病理解剖	0	0	0	0		0	0
合 計	663	0	663	1,145	0	1,145	1,808

病理検査件数の推移（外来）									
医系	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合 計	14,153	13,166	13,163	12,934	10,904	11,866	12,386	12,375	13,805

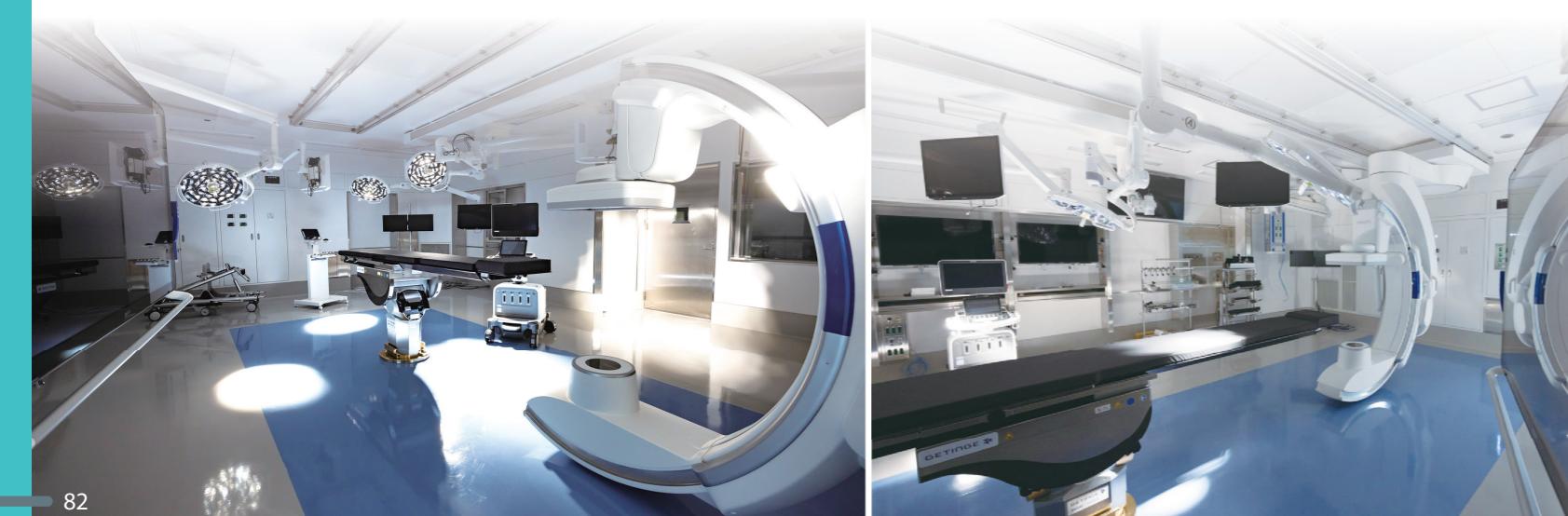
歯系	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
合 計	3,141	2,945	2,790	2,940	1,626	1,181	1,155	1,185	1,145

4

手術件数

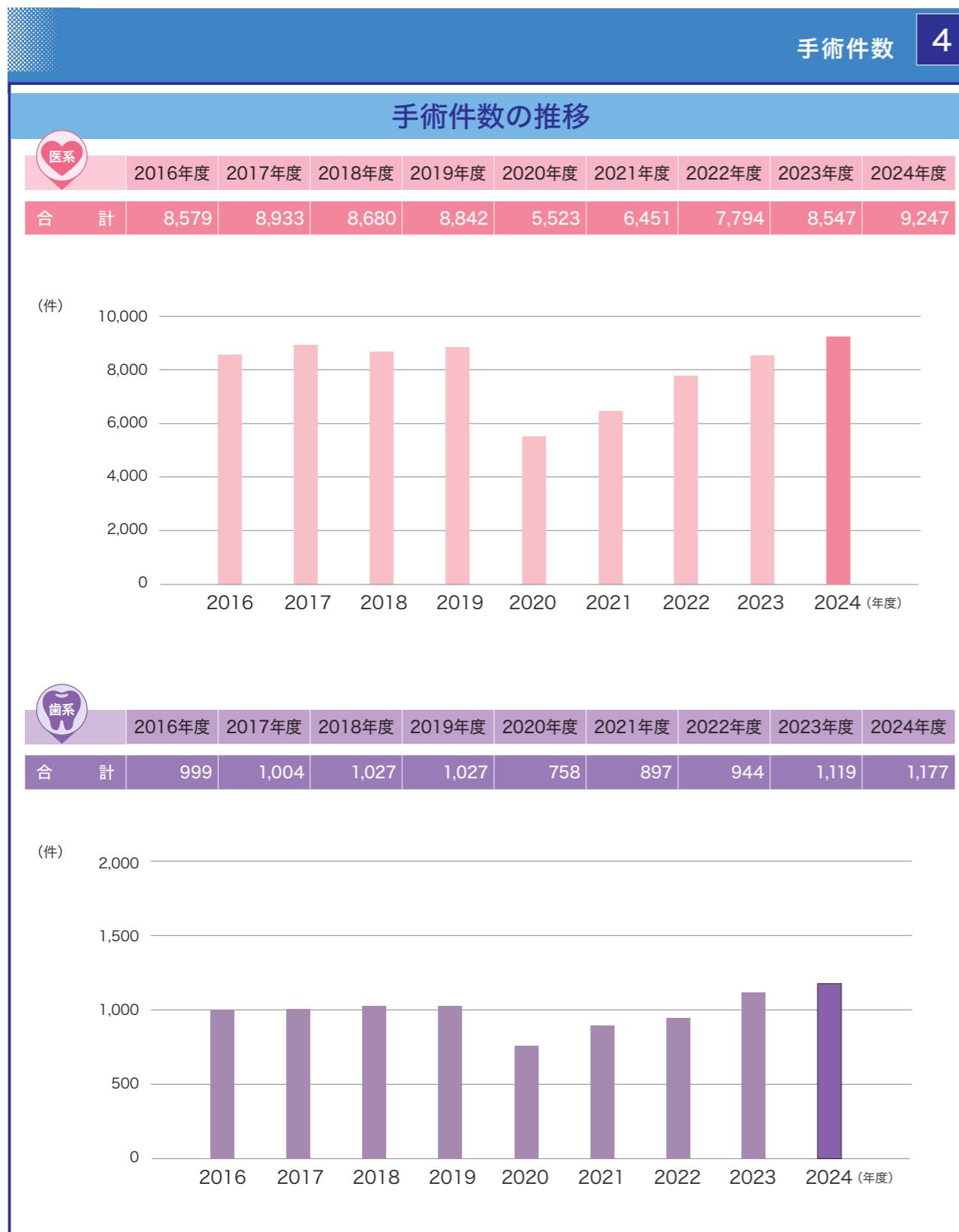
医系	手術部実施手術件数			全身麻酔件数
	0-9,999 点	10,000 点以上	合計	
内科	128	729	857	373
(血 液 内 科)				
(膜原病・リウマチ内科)				
(糖尿病・内分泌・代謝内科)				
(腎 臓 内 科)				
(循 環 器 内 科)				
(総 合 診 療 科)				
(消 化 器 内 科)				
(脳 神 経 内 科)				
(呼 吸 器 内 科)				
小児科	13	55	68	45
精神科	142	1	143	20
外科	196	1,320	1,516	964
(食 道 外 科)				
(胃 外 科)				
(大 腸 ・ 肝 門 外 科)				
(肝 胆 脾 外 科)				
(乳 腺 外 科)				
(末梢血管外科)				
(小 児 外 科)				
脳神経外科(血管内治療科含む)	61	281	342	175
心臓血管外科	8	213	221	144
呼吸器外科	22	254	276	206
整形外科	157	1,162	1,319	910
皮膚科	41	74	115	14
形成・美容外科	72	203	275	143
泌尿器科	190	617	807	477
眼科	252	1,470	1,722	19
耳鼻咽喉科(頭頸部外科含む)	118	527	645	446
周産・女性診療科	106	410	516	307
麻酔・蘇生・ペインクリニック科	0	0	0	0
救急科(E.R.)	67	210	277	173
再建形成外科	38	109	147	68
その他の	0	1	1	0
総計	1,611	7,636	9,247	4,484

歯系	診療科	手術件数			全身麻酔件数
		0-9,999 点	10,000 点以上	合計	
歯科	27	35	62	54	
(むし歯科)					
(歯周病科)					
(義歯科)					
(口腔インプラント科)					
(摂食嚥下リハビリテーション科)					
(歯科麻酔科)					
(歯科心身医療科)					
(歯科放射線科)					
(歯科総合診療科)					
矯正歯科	0	0	0	0	0
小児歯科	41	0	41	41	
歯科口腔外	541	533	1,074	1,074	
合計	609	568	1,177	1,169	



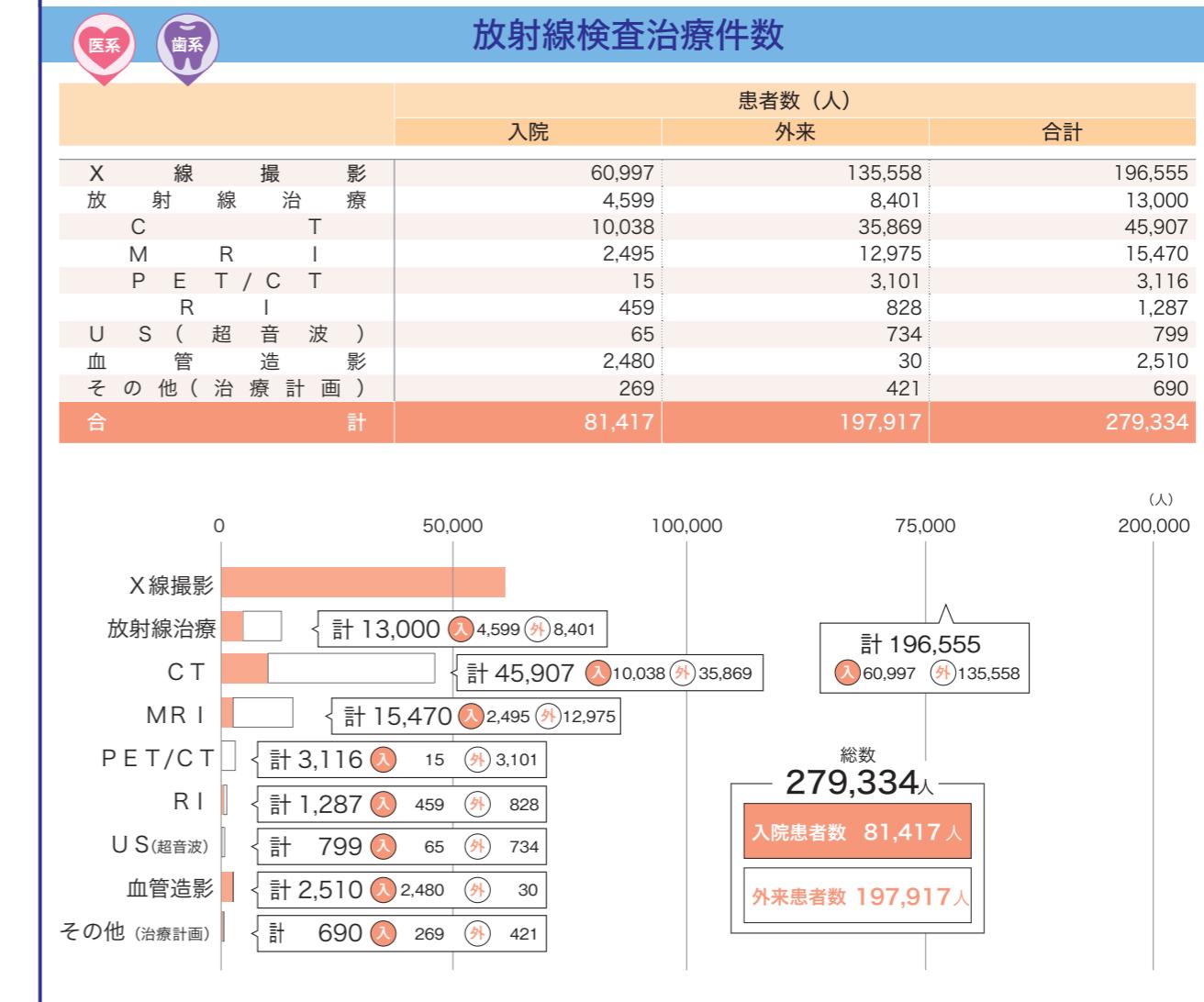
手術件数

4



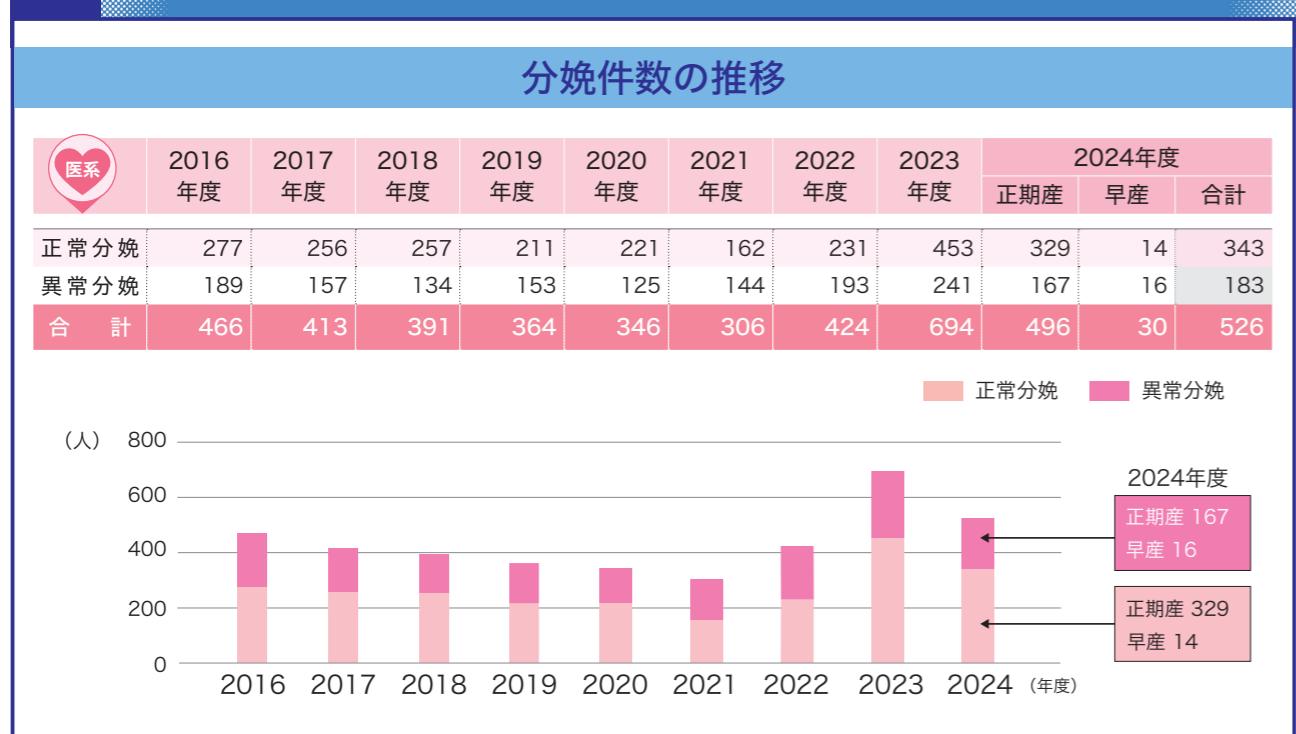
5

放射線検査治療件数



6

分娩件数



8

医療機関の指定状況等

医系 歯系	法令等の名称	指定等の年月日
	医療法第7条第1項による開設許可（承認）	1949年 4月 1日
	戦傷病者特別援護法による医療機関	1953年 10月 1日
	身体障害者福祉法による医療機関	1954年 2月 1日
	国民健康保険法による（特定承認）療養取扱機関	1959年 1月 1日
	母子保健法による医療機関	(療育医療) 1964年 4月 1日
	消防法による救急医療（救急病院・診療所）	1965年 3月 18日
	精神保健法による医療機関	1965年 11月 1日
	公害健康被害の補償等に関する法律による医療機関	(公害医療) 1975年 8月 1日
	生活保護法による医療機関	1980年 2月 1日
	労災者災害補償保険法による医療機関	1985年 4月 1日
	臨床修練指定病院（外国医師・外国歯科医師）	1988年 3月 29日
	母子保健法による医療機関	(妊娠乳児健康検診) 1988年 4月 1日
	原爆被害者援護法による医療機関	(一般医療) 1988年 8月 1日
	特定機能病院の名称の使用承認	1994年 7月 1日
	エイズ拠点病院	1996年 7月 18日
	災害拠点病院	1997年 8月 26日
	障害者自立支援法による医療機関	(育成医療) 2007年 1月 1日
		(更生医療) 2007年 1月 1日
		(精神通院) 2007年 2月 1日
	健康保険法による保険医療機関	2010年 10月 1日
	東京都小児がん診療病院	2013年 9月 1日
	がん診療連携拠点病院	2014年 8月 26日
	難病医療費助成指定医療機関	2015年 1月 1日
	指定小児慢性特定疾病医療機関	2015年 1月 1日
	地域周産期母子医療センター	2015年 4月 1日
	東京都難病診療連携拠点病院	2018年 4月 1日
	がんゲノム医療拠点病院	2019年 9月 19日
	関東甲信越地域小児がん連携病院	2019年 11月 1日
	東京都アレルギー疾患医療専門病院	2024年 2月 27日

7

処方枚数・件数・注射処方枚数

処方枚数		処方件数		注射処方枚数		
医系	入院	外来	入院	外来	入院	外来
	202,142	21,773	393,287	53,593	199,402	37,166
合計	223,915	合計	446,880	合計	236,568	
(院外処方せん枚数：231,380)						
歯系	入院	外来	入院	外来	入院	外来
	9,454	6,779	13,624	12,088	9,889	629
合計	16,233	合計	25,712	合計	10,518	
(院外処方せん枚数：35,823)						

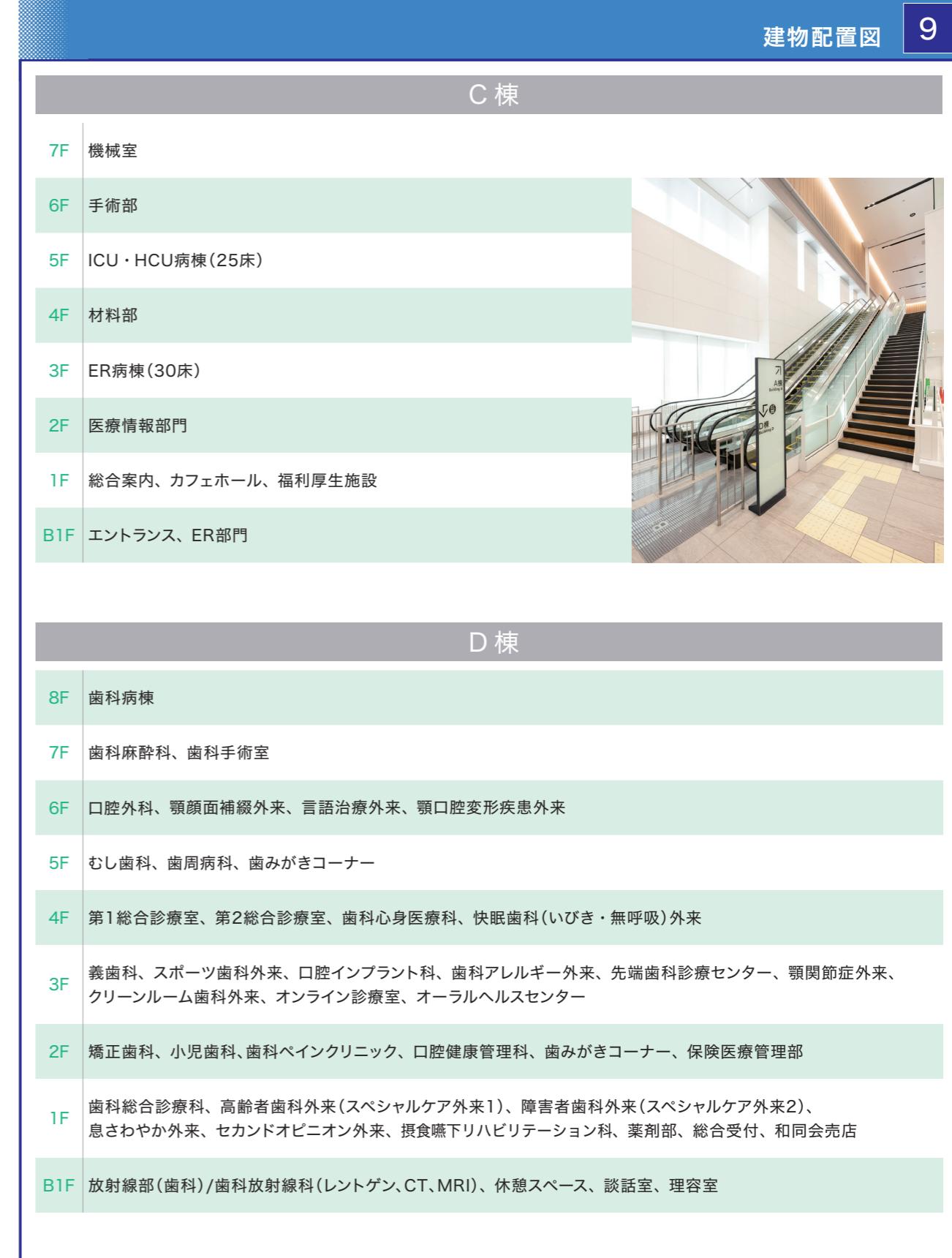


建物配置図

A 棟		B 棟	
RF	屋上ヘリポート		RF
17F			17F
16F	病棟	長寿・健康人生推進センター	16F
15F	病棟	病棟	15F
14F	病棟	病棟	14F
13F	病棟	病棟	13F
12F	病棟	病棟	12F
11F	病棟	病棟	11F
10F	病棟	病棟	10F
9F	病棟	病棟	9F
8F	病棟	病棟、屋上庭園	8F
7F	図書室	自販機コーナー	7F
6F	手術部	病棟、手術部	6F
5F	血液浄化療法部、がん先端治療部、医療安全管理部、感染制御部	手術部、ME センター	5F
4F	外来（小児科、小児外科）、光学医療診療部	外来（合同内科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科）、潰瘍性大腸炎・クローン病先端治療センター、神經難病先端治療センター、不整脈センター、栄養相談室、みみ・はな・くち・のどがんセンター	4F
3F	外来（膠原病・リウマチ内科、呼吸器内科、皮膚科、乳腺外科、形成・美容外科、再建形成外科）、膠原病・リウマチ先端治療センター、快眠センター、ブレストセンター、3階生理検査室	外来（泌尿器科、周産・女性診療科、緩和ケア科）、腎・膀胱・前立腺がんセンター、外来化学療法センター、がん相談支援センター	3F
2F	外来（麻酔・蘇生・ペインクリニック科、眼科）、移植医療部	外来（合同外科、脳神経外科、血管内治療科、心臓血管外科、末梢血管外科、呼吸器外科、感染症内科、臨床腫瘍科）	2F
1F	医療連携支援センター、患者相談室、ヘルスサイエンス R&D センター	薬剤部（外来）、医療売店、コインロッカー、総合受付	1F
B1F	高気圧治療部、臨床栄養部、画像診断センター	薬剤部（時間外受付）、防災センター	B1F
B2F		放射線部（血管撮影、透視撮影） 外来（放射線治療科）、核医学 PET・CT センター	B2F

4F — 合同内科：血液、糖尿病・内分泌・代謝、腎臓、総合診、消化器、循環器、脳神経内科、遺伝子診療科、がんゲノム診療科

2F — 合同外科：食道、胃、大腸・肛門、肝胆脾



所在地略図

